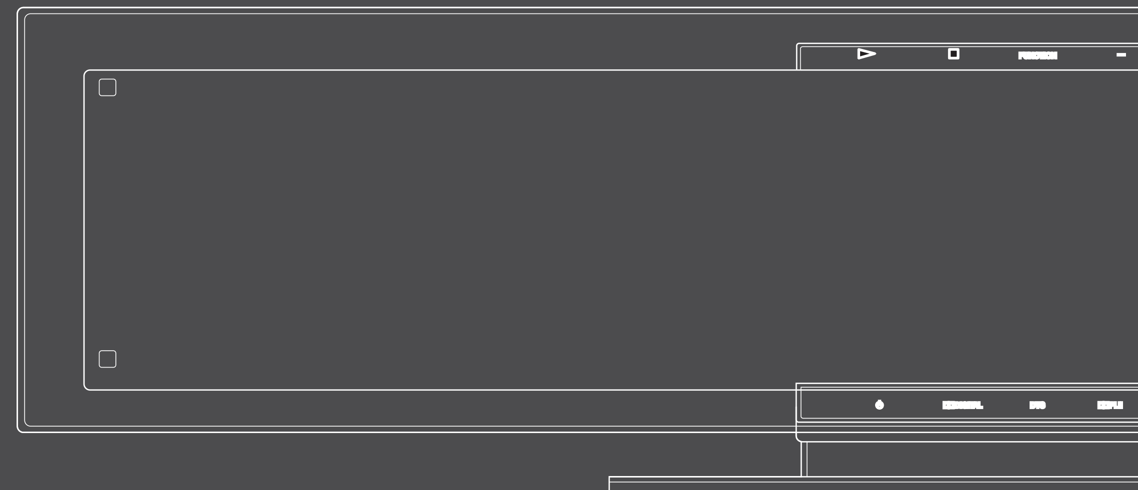
SONY

2-687-406-**02**(2)



DAV-LF1H

DVD ホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1	お問い合わせはお客様ご相談センターへ　●ナビダイヤル：0570-00-3311（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます） ●携帯電話・PHSでのご利用は：03-5448-3311　●Fax：0466-31-2595　受付時間：月〜金 9:00〜20:00、土・日・祝日 9:00〜17:00

* 2 6 8 7 4 0 6 0 2 * (2)

Sony Corporation　Printed in Malaysia

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

↓

安全のための注意事項を守る

5 ～ 7 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。8 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

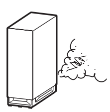
設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災　感電　指のケガに注意

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示　プラグをコンセントから抜く

目次

次のページへつづく

ラジオ

その他の機能

詳細な設定と調整

その他

⚠警告

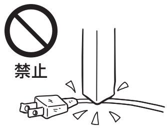


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

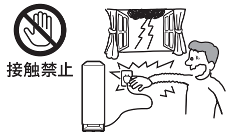
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



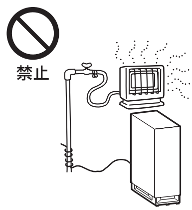
本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



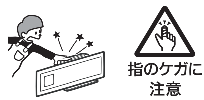
風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



ディスクスロットの上に物を置かない

ディスクを取り出す際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。コントロールユニットの上に物を置かないでください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



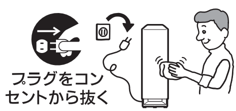
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

コントロールユニット内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による**大けがや失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。



液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする



➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

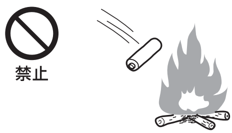
➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

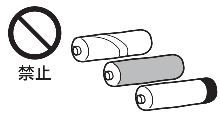
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



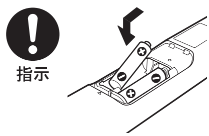
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

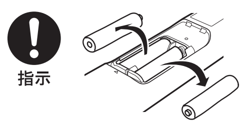
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、サブウーファー後面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。サブウーファー後面の通気孔を絶対にふさがないでください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、コントロールユニットを動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、コントロールユニット内のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本機のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスク、ディスククリーナーについて

市販のレンズ用のクリーニングディスクやディスククリーナー（湿式またはスプレー式）は、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意
DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプラズマテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

輸送時のご注意

セットを輸送する場合は、メカニズムを保護するために次のとおり操作してください。

1 コントロールユニットのFUNCTIONボタンを押して表示窓に「DVD」を表示させる。

2 コントロールユニットの ⏏ ボタンを押してコントロールユニットからディスクを取り出す。

3 コントロールユニットの ■ を押しながら ⏏ と I/⏻（電源）ボタンを同時に押す。

コントロールユニットの表示窓に「Standby」のあと、「MECHA LOCK」と表示されます。

上記の操作のあとサブウーファーの電源コードを抜き、セットを輸送してください。
次回サブウーファーの電源コードを差したときに、メカニズムを保護している状態は解除され、通常の状態に戻ります。
ただし、サブウーファーの電源コードを長時間抜いた場合は、設定がクリアされることがあります。

機銘板の位置について

機銘板はコントロールユニット後面、サブウーファー後面、ACアダプター底面に表示してあります。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえのコントロールユニットのボタンも同じように使えます。
- この取扱説明書では、“DVD”を“DVDビデオ”、“DVD+RW/DVD+R”、“DVD-RW/DVD-R”の一般的な総称として使っています。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
DVD-V	DVDビデオ/DVD-R/DVD-RW（ビデオモード）/DVD+R/DVD+RWで使える機能
DVD-VR	DVD-R/DVD-RW（VRモード）で使える機能
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能（スーパー VCD、ビデオCDまたはスーパー VCDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
Super Audio CD	スーパーオーディオCDで使える機能
CD	CDで使える機能（音楽用CD、または音楽用CDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
DATA-CD	データCD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むCD-ROM/CD-R/CD-RW）で使える機能
DATA DVD	データDVD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むDVD-ROM/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW）で使える機能

* MPEG 1 Audio Layer3 : MPEGと国際標準化機構（ISO）/国際電気標準会議（IEC）によって規定された音声のデジタル圧縮規格のひとつ。

再生できるディスクについて

ディスクの種類	ディスクに付いているマーク（ロゴ）
DVDビデオ	DVD VIDEO
DVD-RW*	DVD RW
DVD-R*	DVD R R4.7
DVD+RW	RW DVD+ReWritable
DVD+R	RW DVD+R
DVD+R DL	RW DVD+R DL
スーパーオーディオCD	SUPER AUDIO CD
ビデオCD（バージョン1.1/2.0、）音楽用CD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO / COMPACT disc DIGITAL AUDIO
CD-R/CD-RW（音楽データ）（MP3音声トラック）（JPEG画像ファイル）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc ReWritable / COMPACT disc Recordable

“DVD VIDEO”、“DVD-RW”、“DVD-R”、“DVD+RW”、“DVD+R”、“DVD+R DL”、“CD”ロゴは商標です。

＊ CPRM対応のDVD-R/DVD-RWディスクに録画した「1回だけ録画可能」な番組も再生できます。CPRM(Content Protection for Recordable Media)とは、「1回だけ録画可能」な番組に対する著作権保護技術です。

ディスクについてのご注意

本機では以下のフォーマットで記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RWを再生することができます。

ー 音楽用CDフォーマット
ー ビデオCDフォーマット
ー ISO 9660＊1 レベル 1/ レベル 2、またはそれらの拡張フォーマット / Joliet / マルチセッション ＊2 準拠の MP3 音声トラック、JPEG 画像ファイル

本機では以下のフォーマットで記録されたDVD-ROM/DVD+RW/DVD-RW/DVD+R/DVD-Rを再生することができます。

ー UDF（Universal Disk Format）準拠のMP3音声トラック、JPEG画像ファイル

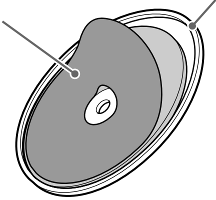
＊1 ISO9660 フォーマット
国際標準化機構（ISO）が制定した CD-ROM の論理フォーマット。
レベル 1 からレベル 3 まで、3 段階の交換レベルを設けています。レベル 1 は、最も制限の厳しいレベルで、ファイル名は 8.3 形式（ファイル名は最大 8 文字、拡張子は最大 3 文字まで）という制約があります。レベル 2 はファイル名の長さの制約が 31 文字にまで緩和され、レベル 3 ではマルチエクステントが許容されています。

＊2 マルチセッション
CD に複数のセッションで記録すること。
従来の CD が「リードイン〜データ〜リードアウト」で構成されるセッションを 1 つしか持たないのに対し、マルチセッション CD は、複数のセッションを持っています。
CD-Extra：第 1 セッションに音声データを、第 2 セッションにコンピュータ用のデータを収録します。

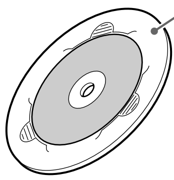
再生できないディスク、ファイルについて

本機では次のディスク、ファイルなどを再生することはできません。

- 「再生できるディスクについて」（10ページ）にあるフォーマット以外で記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RW
- MP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含まないデータDVD
- フォトCDフォーマットで記録したCD-ROM
- CD-EXTRAのデータ部分
- DVDオーディオ
- DVD-RAM
- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）のDVDビデオ（13、131ページ）
- MP3PROで記録されたMP3音声トラック
- NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク（本機がNTSCカラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星形など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク
- 市販されているシールやリングなどのアクセサリーを取りつけたディスク



- 8cmディスクを標準ディスクに変換するアダプターを使ったディスク



CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RWについてのご注意

- 本機はお客様が編集したCD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW/DVD+R DLディスクを再生できます。ただし、録音に使ったレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。

次のページへつづく

- 終了情報を記録するファイナライズ作業を行っていないディスクは再生できません。
- パケットライト方式で作成されたディスクは再生できません。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

DualDisc（デュアルディスク）についてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。
なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。（PBCとは、Playback Controlの略です。）
ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生、92 ページ）。また、高精細の静止画も再生できます。

マルチセッションCDについて

MP3音声トラックまたはJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションのMP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルも再生します。
最初のセッションにCD、ビデオCDフォーマットで記録された音声または画像があるときは、最初のセッションだけを再生します。

スーパーオーディオCDについて

スーパーオーディオCDとは、現行のCDなどに用いられているPCM方式とは異なるDSD（ダイレクトストリームデジタル）方式で記録された、新しい高音質オーディオディスクの規格です。DSD方式は、CDの64倍にあたるサンプリング周波数で、1ビットの量子化の採用により、現行のCDをはるかに超える広い再生帯域と可聴帯域における充分なダイナミックレンジを確保し、原音をより忠実に再現します。

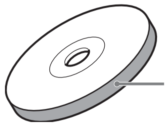
スーパーオーディオCDの種類

スーパーオーディオCDレイヤーとCDレイヤーの組み合わせにより、2種類あります。

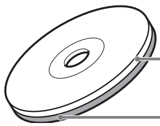
・スーパーオーディオ CD レイヤー：HD（ハイデンシティ）レイヤー（スーパーオーディオ CD 用の高密度信号層）。

・CD レイヤー *1：通常の CD プレイヤーでも再生できます。

シングルレイヤーディスク
（スーパーオーディオ CD レイヤーのみのディスク）

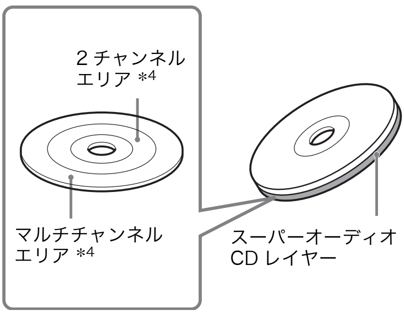


ハイブリッドディスク *2
（スーパーオーディオ CD レイヤーと CD レイヤーとが 2 層になったディスク）



スーパーオーディオCDレイヤーには2チャンネルまたはマルチチャンネルのエリアがあります。

- 2チャンネルエリア: 2チャンネルのステレオ音声が記録されています。
- マルチチャンネルエリア: マルチチャンネルの音声（5.1チャンネルまでの音声）が記録されています。



*1 CD レイヤーの内容は、通常の CD プレイヤーでも再生できます。
*2 二層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。
*3 レイヤーの選択は「スーパーオーディオ CD の再生レイヤーを選ぶ」（84 ページ）をご覧ください。
*4 エリアの選択は「スーパーオーディオ CD の再生エリアを選ぶ」（84 ページ）をご覧ください。

DVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDビデオのパッケージには地域番号が表示されています。
地域番号に「ALL」または「2」が含まれているときは、本機で再生可能です。



DVD、ビデオCD再生操作について

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

次のページへつづく

著作権について

本機は、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンの許諾が必要であり、マクロビジョンが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

本機はドルビーデジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*デコーダーを搭載しています。

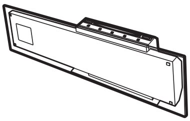
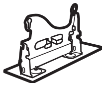
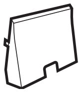
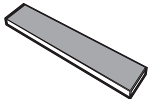
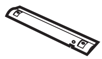
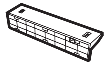
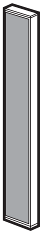
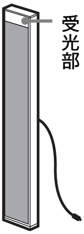
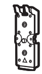
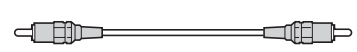
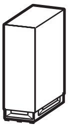
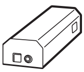
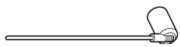
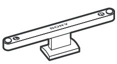
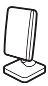
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

* Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

本製品の日本語表示には、株式会社リコー所有の文字フォントを使用しています。

同梱物を確認する

次の同梱物がそろっているかを確認してください。

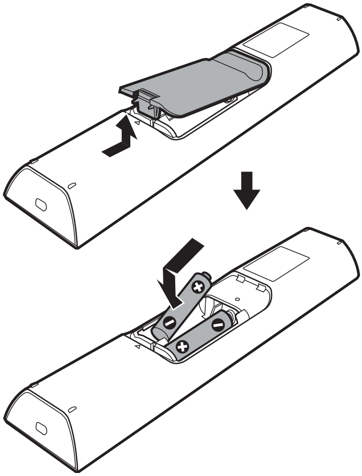
コントロールユニット（1個） 	コントロールユニットスタンド（1個） 	コントロールユニットスタンドカバー（1個） 	センタースピーカー（1個） 		アジャスター（1個） 	センタースピーカースタンド（1個） 
フロントスピーカーL（左）/R（右）、サラウンドスピーカーR（右）（3個） 	サラウンドスピーカーL（左）（1個） 	ポスト（4本） 	スピーカー台（4個） 	スピーカーアダプター（4個） 	スピーカーアダプターカバー（4個） 	コード押さえ（1個） 
			スピーカーコード（5m 2本、3.5m 1本、10m 1本） 		映像コード（1本） 	
サブウーファー（1個） 	ACアダプター（1個） 	リモコン（1個） 	単3乾電池（R06）（2個） 	AMループアンテナ（1個） 	FMワイヤーアンテナ（1個） 	
測定マイク（1個） 	発光ユニット（1個） 	受光ユニット（1個） 	受光ユニット用スタンド（1個） 	ネジ		
				黒、大（12個）  黒、中（1個） 	黒、小（1個） 	銀、大（2個）  銀、小（8個） 
取扱説明書（1冊）	クイックスタートガイド（1枚）		ソニーご相談窓口のご案内（1枚）		保証書（1枚）	

同梱物がそろっていないときは、お手数ですがお買い上げ店にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れてください。

本機を操作するときは、コントロールユニットのリモコン受光部（136ページ）にリモコンを向けて操作してください。



ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  ー 新しい乾電池と使用途中の乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  ー 乾電池は充電しないでください。
  ー 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  ー 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

手順1：本機を組み立てる

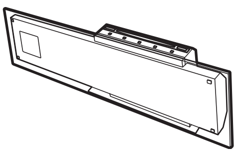
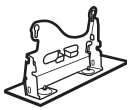
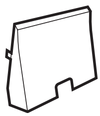
コントロールユニットやスピーカーにスタンドを取り付けます。
十字（プラス）ドライバーをご用意ください。

ちょっと一言

- 床や本機を傷つけないように、やわらかい布などの上で組み立てることをおすすめします。

コントロールユニットを組み立てる

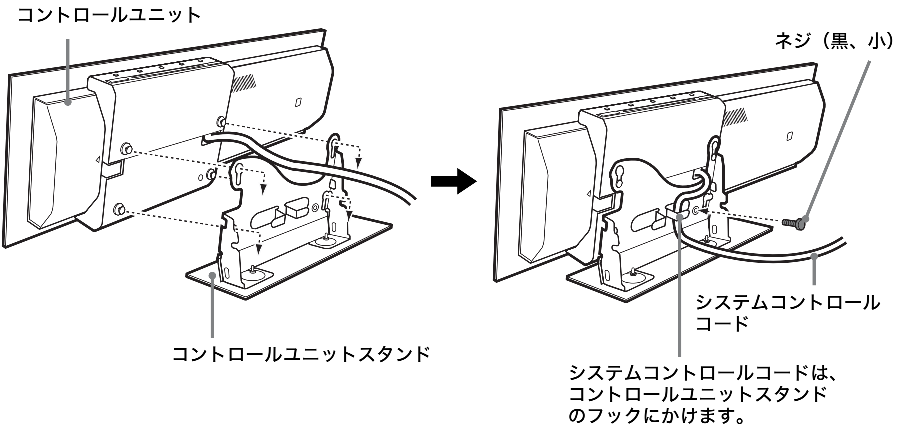
コントロールユニットにスタンドを取り付けます。
以下の部品を使います。

コントロールユニット（1個）	コントロールユニットスタンド（1個）	コントロールユニットスタンドカバー（1個）	ネジ（黒、小）（1個）
			

ちょっと一言

- 別売りの壁掛けキット（WS-LF1HM）を使うと、コントロールユニットを壁にかけることができます。

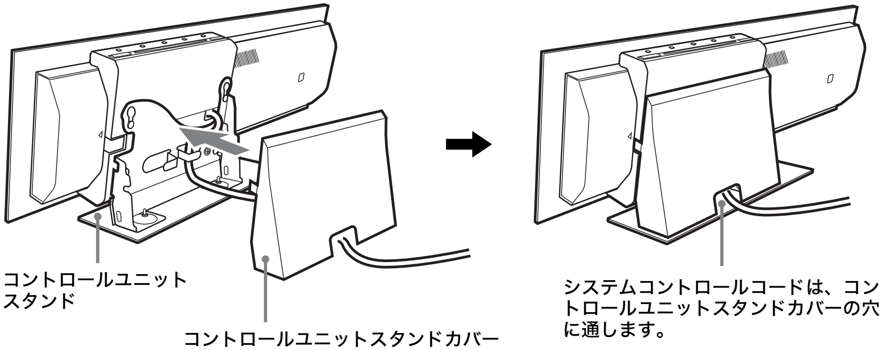
1 コントロールユニットをコントロールユニットスタンドの穴に差しこみ、ネジをしめて固定する。



次のページへつづく

2 コントロールユニットスタンドカバーをコントロールユニットスタンドに取り付ける。

カチッと音がするようにコントロールユニットスタンドカバーをはめます。

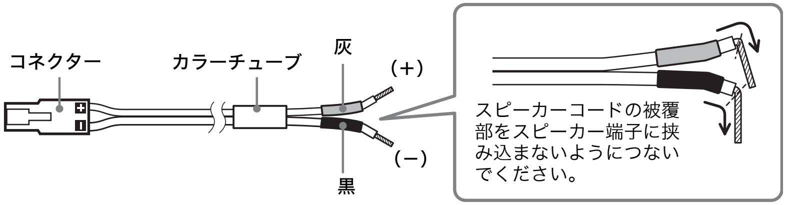


スピーカー組み立て時のご注意

スピーカーコードをつなぐときは、下記に注意してください。

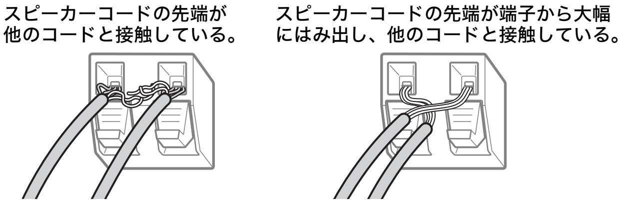
- スピーカーコードのコネクターとカラーチューブは、つなぐスピーカー端子のカラーラベル* と同じ色になっています。また、灰色のチューブがついたコードは＋側に、黒色のチューブがついたコードはー側につないでください。

  * スピーカー後面に貼られているラベル



- スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて＋は＋どうし、ーはーどうしでつなぎます。極性を間違えると、音が歪んだり低音が不足して聞こえます。
- スピーカーコードどうしを接触させると本機の故障の原因になります。
  接触を防ぐために、スピーカーをつなぐときは、スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

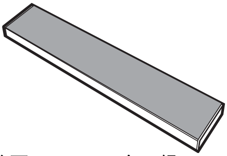
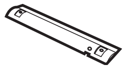
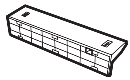
スピーカーコード接続の悪い例



次のページへつづく

センタースピーカーを組み立てる

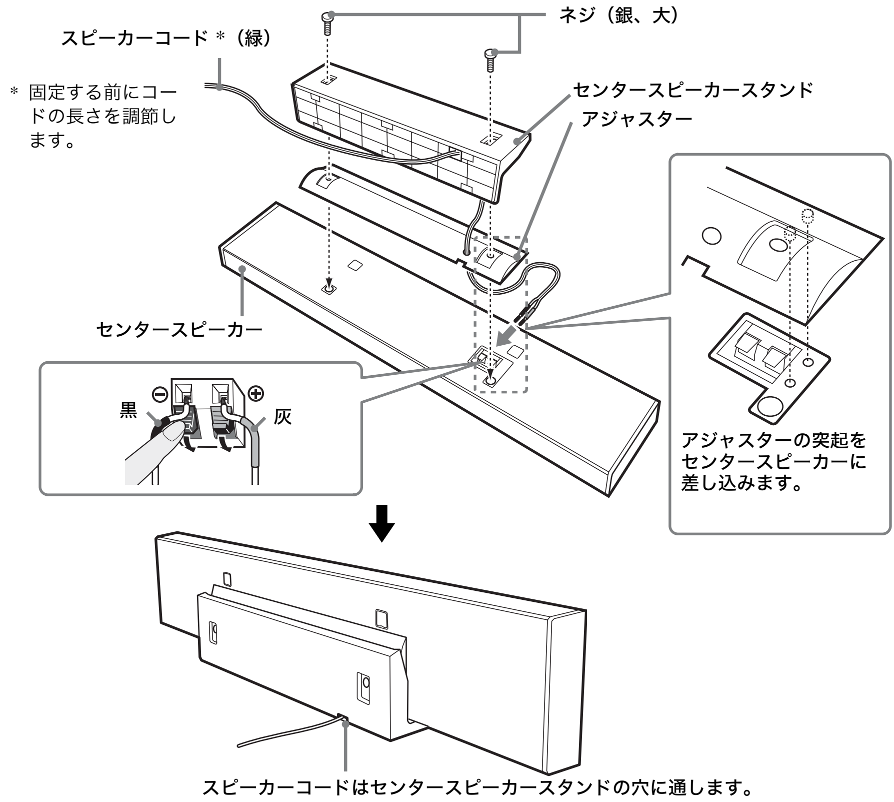
以下の部品を使います。

センタースピーカー（1個）	アジャスター（1個）	センタースピーカースタンド（1個）	スピーカーコード（緑）（1本）	ネジ（銀、大）（2個）
 後面のラベルの色：緑				

ちょっと一言

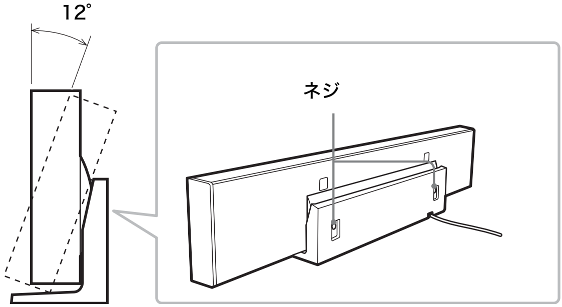
- 別売りの壁掛けキット（WS-LF1HS）を使うと、センタースピーカーを壁にかけることができます。

1 アジャスターとセンタースピーカースタンドをセンターユニットにネジで固定します。



センタースピーカーの角度を調節する

ネジの位置を変えることによって、センタースピーカーの角度を調節することができます。

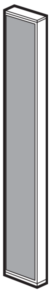
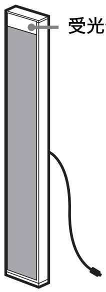
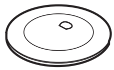
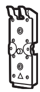


次のページへつづく

フロントスピーカー、サラウンドスピーカーを組み立てる

スタンドをスピーカーに取り付けます。
サラウンドスピーカーL（左）のみ、組み立てかたが少し異なります。異なる手順には「サラウンドスピーカーL（左）のみ」などと表記しています。

以下の部品を使います。

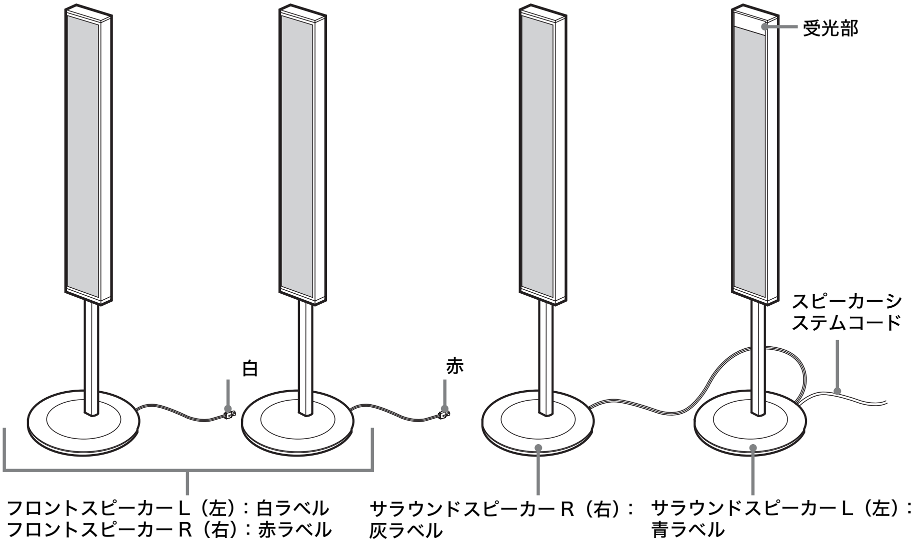
フロントスピーカーL（左）／R（右）、サラウンドスピーカーR（右）（3個）＊1	サラウンドスピーカーL（左）＊2（1個）	ポスト（4本）	スピーカー台（4個）	スピーカーアダプター＊3（4個）	スピーカーアダプターカバー＊3（4個）
					
			スピーカーコード（白、赤、灰）（3本）	コード押さえ（1個）	ネジ 銀、小（8個）
					 黒、大（12個）  黒、中（1個） 

＊1 フロントスピーカーL（左）／R（右）とサラウンドスピーカーR（右）の外観は同じです。各スピーカーの後面のラベルで判別します。
フロントスピーカーL（左）: 白ラベル
フロントスピーカーR（右）: 赤ラベル
サラウンドスピーカーR（右）: 灰ラベル
＊2 サラウンドスピーカーL（左）: 青ラベル
＊3 出荷時、スピーカーアダプターカバーはスピーカーアダプターに取り付けられています。

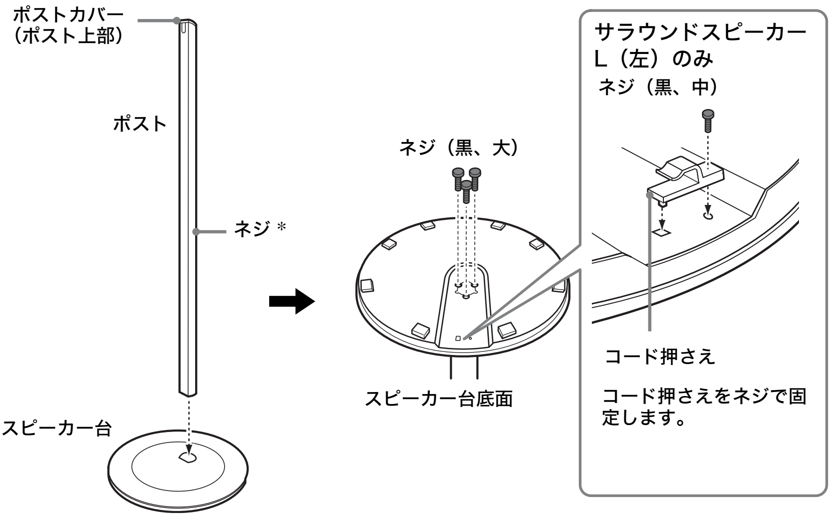
ちょっと一言

- 別売りの壁掛けキット（WS-LF1HS）を使うと、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーを壁にかけることができます。

組み立て完成図



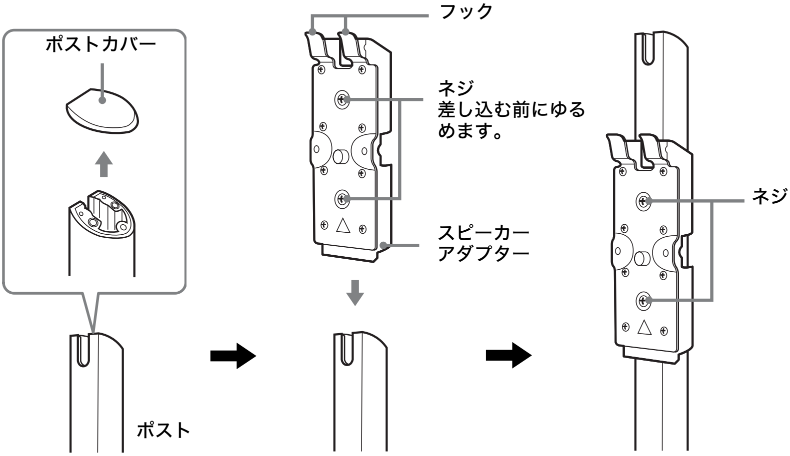
1 ポストをスピーカー台に差し込み、ネジで固定する。

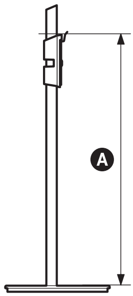


＊ あらかじめポストに取り付けられているネジは、スピーカー落下防止のためのネジです。はずさないでください。

次のページへつづく

2 ポストカバーをはずしてから、スピーカーアダプターをポストに差し込んで高さを調節し、ネジでしっかり固定する。





スピーカーの高さ調節について

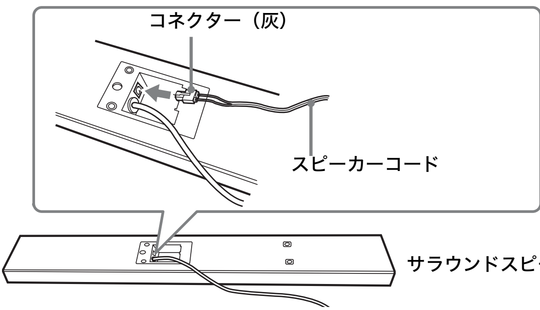
A に39cm加えた高さがスピーカー天面の高さになります。
(A：スピーカーアダプターの天面とスピーカー台の天面の間の長さ)

- 最下位置：A＝57cm、スピーカー天面の高さ：96cm
- 最上位置：A＝91cm、スピーカー天面の高さ：130cm

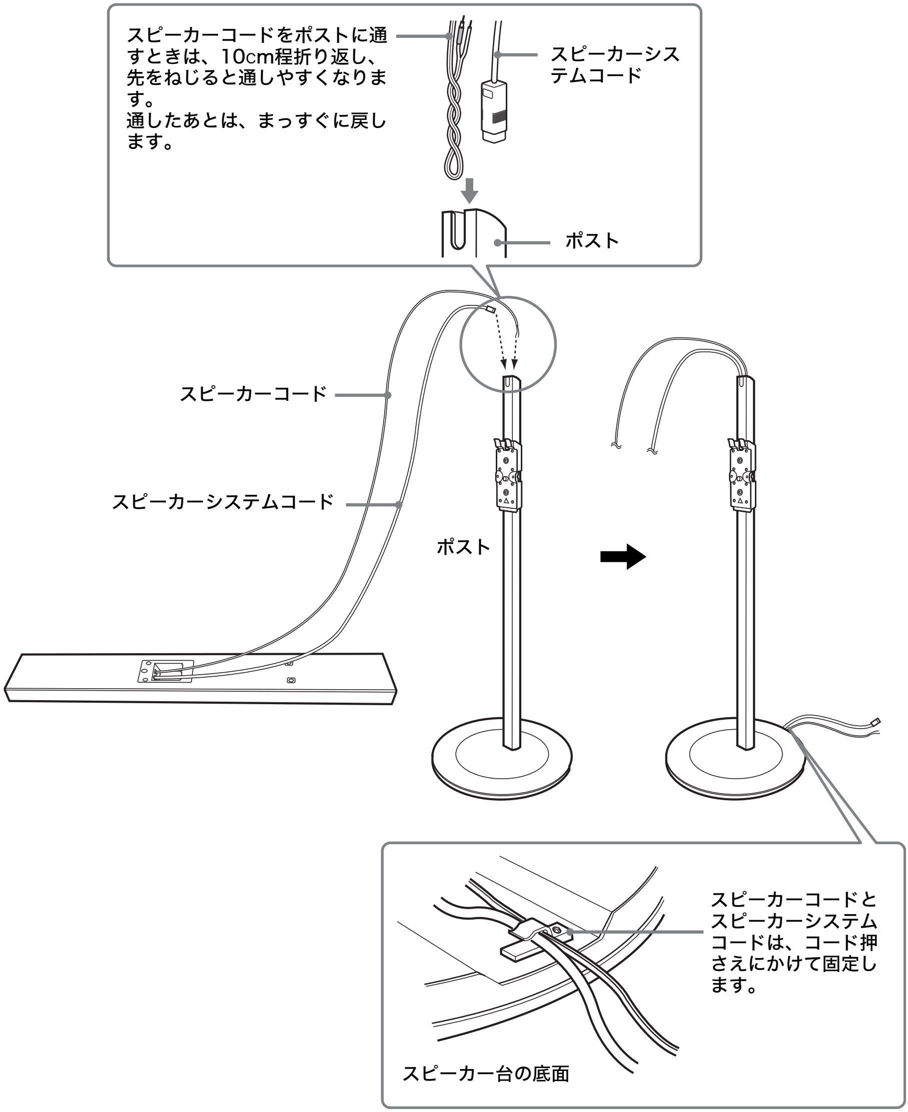
ご注意

- ポストカバーは後でポストに取り付けますので、なくさないように保管してください。

3 (サラウンドスピーカー L（左）のみ) スピーカーコードをスピーカーにつなぐ。



4 （サラウンドスピーカーL（左）のみ）スピーカーコードをポストに通してから、スピーカーシステムコードをポストに通す。

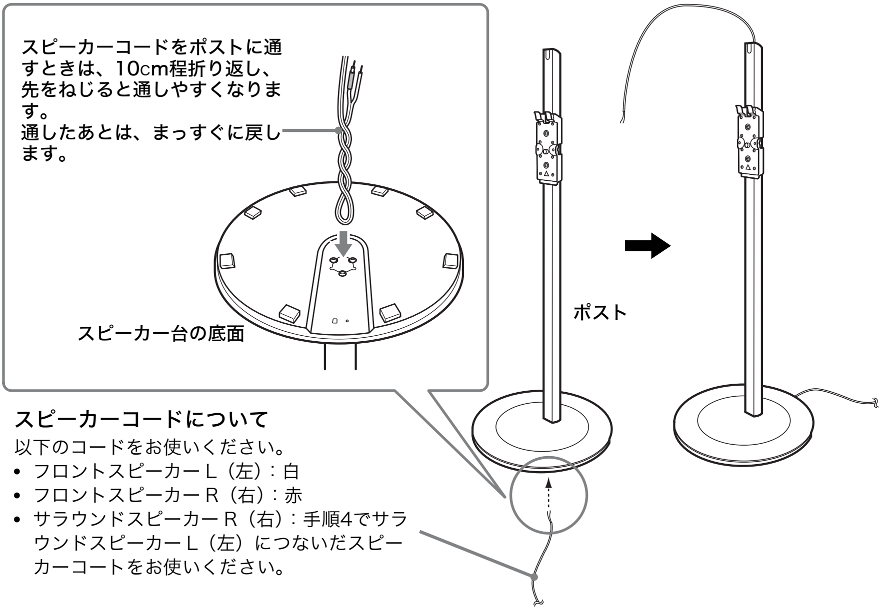


ちょっと一言

- ポストをかたむけるとコード類を通しやすくなります。

次のページへつづく

5 （フロントスピーカー L（左）／R（右）、サラウンドスピーカー R（右）のみ）スピーカーコードをポストに通す。

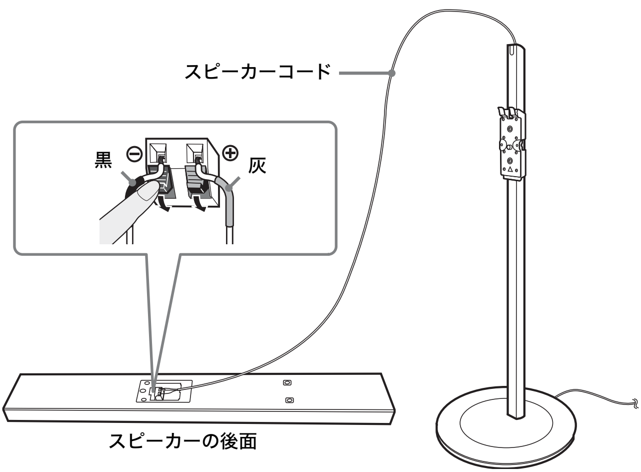


スピーカーコードについて

以下のコードをお使いください。

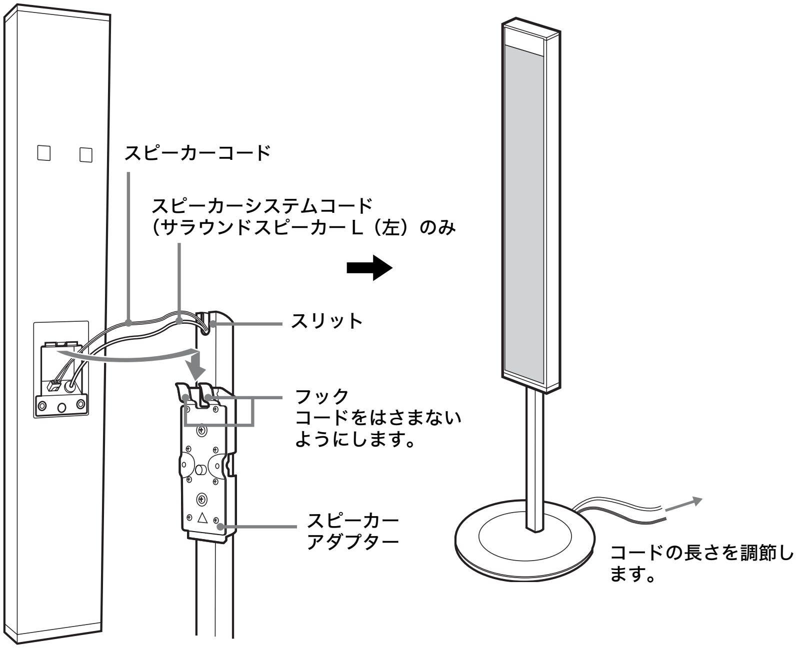
- フロントスピーカー L（左）：白
- フロントスピーカー R（右）：赤
- サラウンドスピーカー R（右）：手順4でサラウンドスピーカー L（左）につないだスピーカーコートをお使いください。

6 （フロントスピーカー L（左）／R（右）、サラウンドスピーカー R（右）のみ）スピーカーコードをスピーカーにつなぐ。

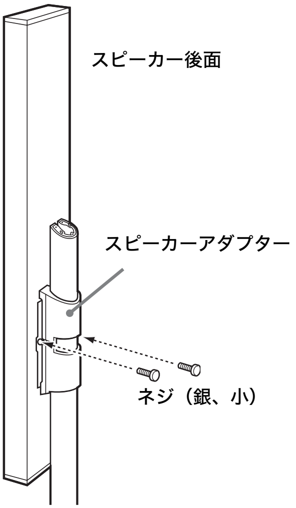


7　スピーカーをスピーカーアダプターに取り付ける。

スピーカーアダプターのフックにスピーカーをかけます。
コード類はスピーカーアダプターのフックの間とポストのスリットに入れます。



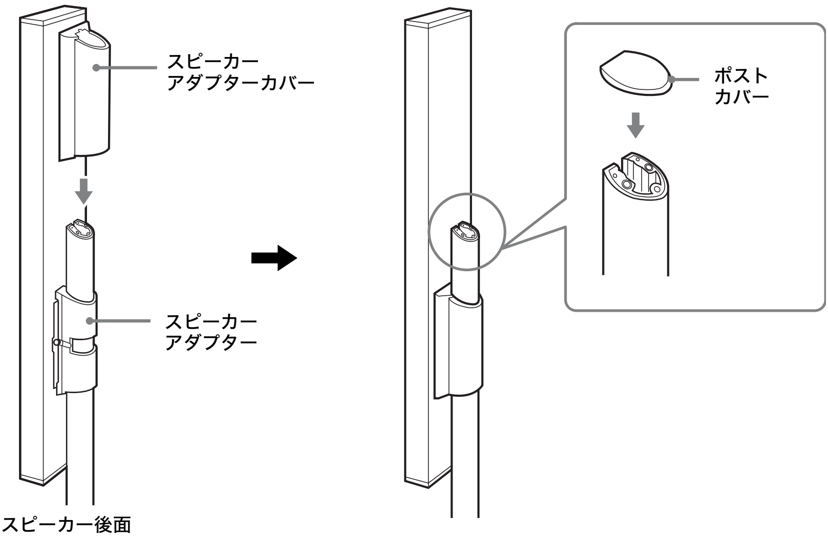
8　スピーカーをネジで固定する。



次のページへつづく

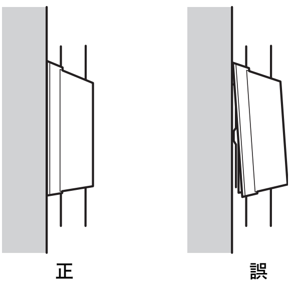
9 スピーカーアダプターカバーをスピーカーアダプターに取り付け、ポストカバーをポストに取り付ける。

スピーカーアダプターカバーは、カチッと音がするまで差し込みます。



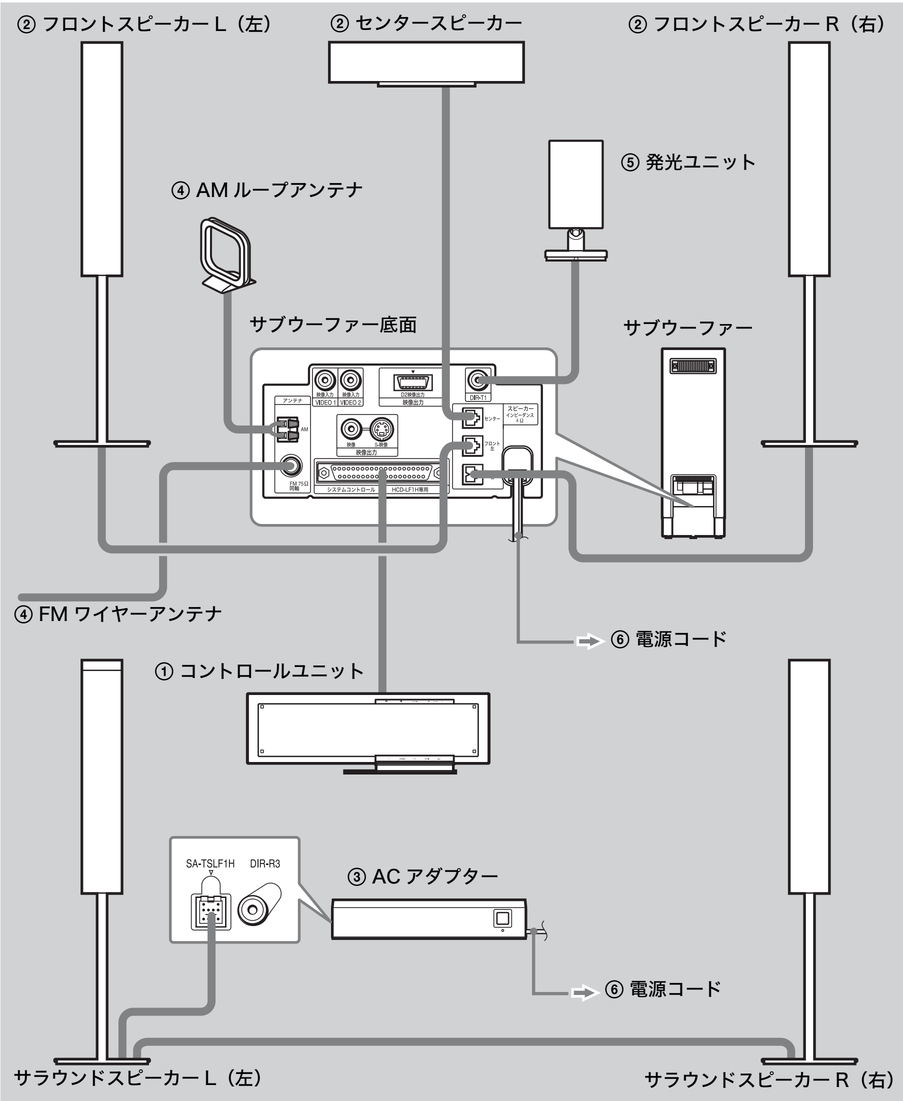
ご注意

- スピーカーアダプターカバーは斜めに取り付けないでください。



手順2：本機をつなぐ

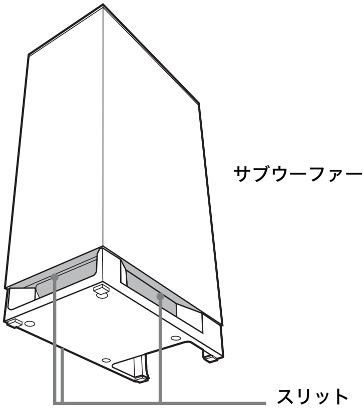
下記は本機の接続図です。次ページの①～⑥もあわせてお読みください。
テレビの接続については35、44ページをご覧ください。その他の機器の接続については48ページをご覧ください。



次のページへつづく

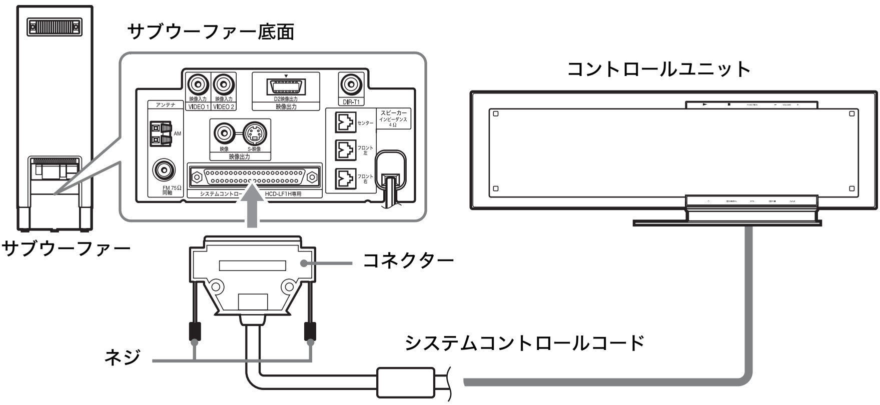
サブウーファーを持つときのご注意

- スリットに手を入れて持たないでください。内部のスピーカーユニットに手が触れ、ユニットを傷めるおそれがあります。サブウーファーを持つときは、底を持ってください。



①コントロールユニットをつなぐ

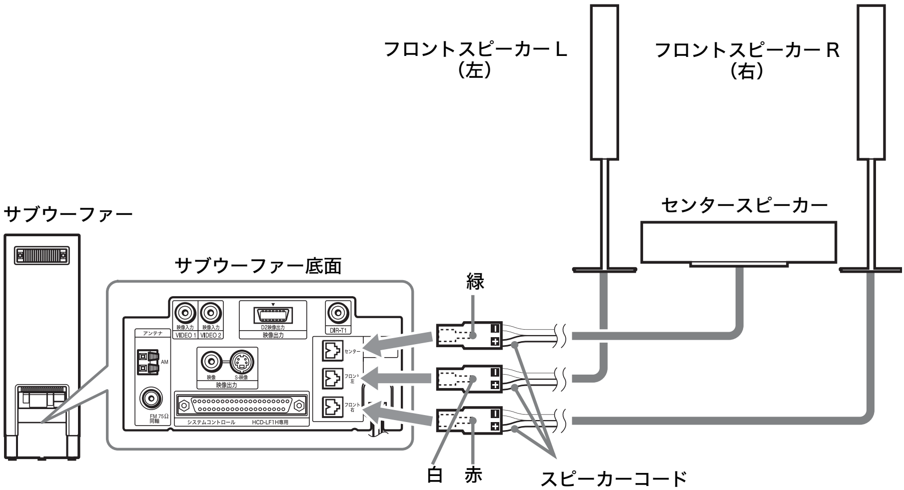
コントロールユニットのシステムコントロールコードを、サブウーファーのシステムコントロール端子につなぎます。
システムコントロールコードのコネクターを差し込んでから、ネジを締めて固定します。



②スピーカーをつなぐ

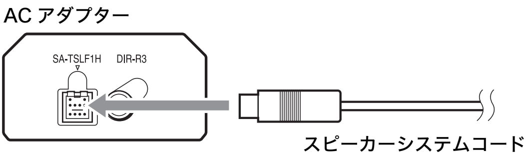
フロントスピーカー、センタースピーカーをつなぐには

スピーカーコードのコネクターを、コネクターと同じ色のスピーカー端子につなぎます。



③ACアダプターをつなぐ

サラウンドスピーカーL（左）のスピーカーシステムコードを、ACアダプターのSA-TSLF1H端子につなぎます。



次のページへつづく

④アンテナをつなぐ

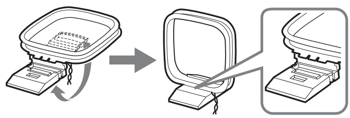
AMアンテナをつなぐには

アンテナはAM放送を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1 ループ（〰）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

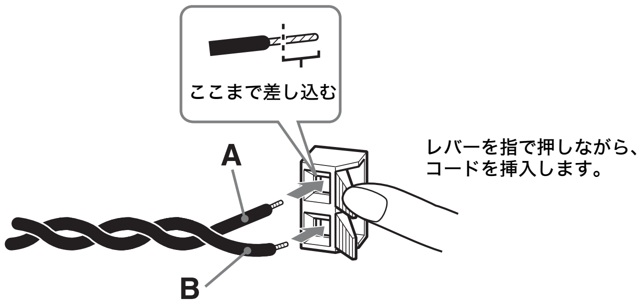
2 組み立てる。

台を起こし、溝に差しこみます。



3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

付属のＡＭループアンテナは、コード（A）（B）をどちらの端子にもつなぐことができます。



ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

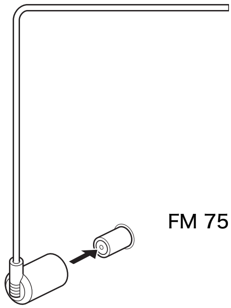
ちょっと一言

- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりつながれたことを確認する。

FMアンテナをつなぐには

FMアンテナ端子につなぎます。

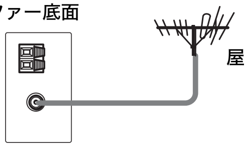


ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

ちょっと一言

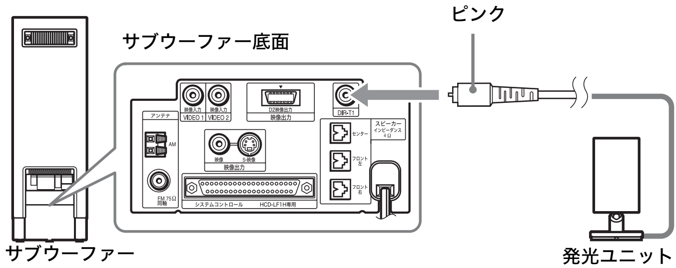
- FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。



次のページへつづく

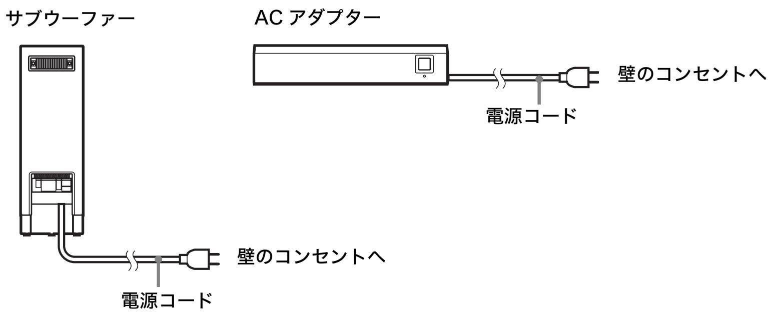
⑤発光ユニットをつなぐ

赤外線で音声信号をサラウンドスピーカーに送信します。
発光ユニットのコードをサブウーファーのDIR-T1端子につなぎます。



⑥電源コードをつなぐ

すべてのスピーカーをつないでから（29ページ）、サブウーファーとACアダプターの電源コードを壁のコンセントにつないでください。

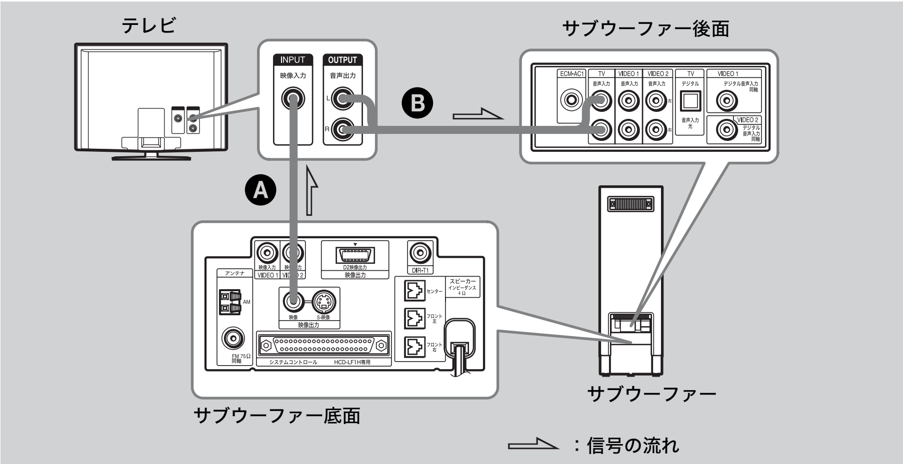


ご注意

- 本機は、コンセントの近くでお使いください。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。

手順3：テレビをつなぐ

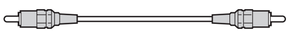
下記は本機とテレビの基本的な接続図です。
下記以外のテレビの接続については44ページをご覧ください。その他の機器の接続については48ページをご覧ください。
テレビの音声を本機のスピーカーから聞かない場合は、Ⓑの接続は不要です。



必要な接続コード

Ⓐ 映像入力端子のあるテレビにつなぐ

映像コード（付属）を使って、テレビの映像入力端子とサブウーファー底面の映像出力端子をつなぎます。



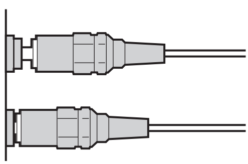
Ⓑ 音声出力端子のあるテレビにつなぐ

ステレオ音声コード（別売り）を使って、テレビの音声出力端子と、サブウーファー後面のTV（音声入力）端子につなぎます。白（左）端子には白プラグを、赤（右）端子には赤プラグを差し込みます。



ちょっと一言

- AAC（100ページ）を楽しむには本機とテレビをデジタル接続する必要があります（47ページ）。
- コードをつなぐとき、プラグは根元までしっかり差し込んでください。

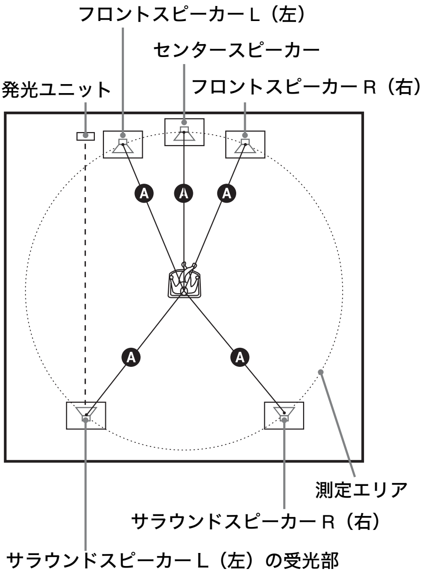


手順4：本機を設置する

スピーカーを設置する

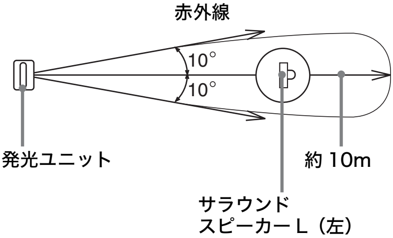
サラウンド効果を充分に楽しむためには、サブウーファー以外の5つのスピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離（リスニングポジションを中心とした同心円上）に設置してください。本機ではリスニングポジションから0 m～7 mのところにフロントスピーカーを設置できます（距離Ⓐ）。
また、音声をサラウンドスピーカーに送信するために、発光ユニットとサラウンドスピーカーＬ（左）の受光部が一直線上に向かい合うように、それぞれを置きます。詳しくは「ワイヤレスシステムの調整をする」（37ページ）をご覧ください。

以下のように設置します。

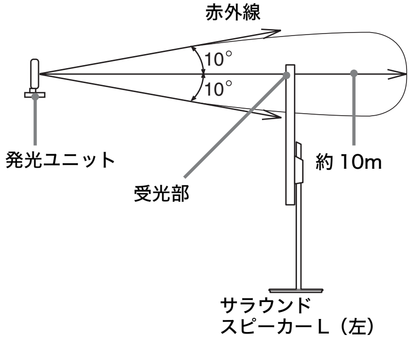


本機のワイヤレスシステムは、デジタル赤外線伝送方式（Digital Infrared Audio Transmission）を採用しております。
赤外線の届く範囲は、おおよそ下図のとおりです。

上から見た図



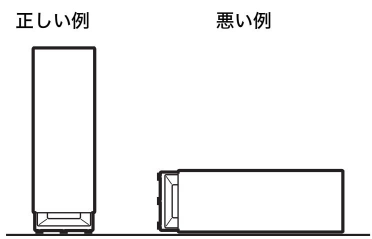
横から見た図



サブウーファーの設置のしかた

サブウーファーは以下の点に注意して設置してください。

- 反響が発生しないように、できるだけ固い床に置く。
- 壁から数センチ以上離して、横に倒したりせずに置く。



ご注意
- サラウンドスピーカーL（左）は、直射日光や照明などの強い光が当たる場所には置かないでください。
- 発光ユニットのコードは本機専用です。
- スピーカーを以下のような場所には置かないでください。
  - 傾いた所。
  - 極端に温度が高い所または低い所。
  - ほこりの多い所。
  - 湿気の多い所。
  - ぐらついた台の上など。
  - 直射日光が当たる所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くときは、床に変色、染みなどが残ることがあります。
- スピーカーにもたれたり、ぶらさがらないでください。転倒のおそれがあります。

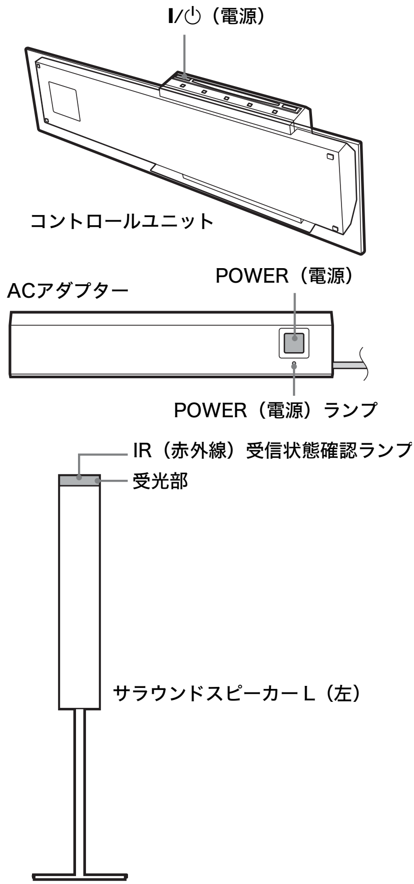
スピーカーの防磁について（テレビ画面に色むらが起きたら）

本機サブウーファーに使っているスピーカーユニットは磁気モレを防ぐ防磁カバーを採用していますが強力なマグネットのため、若干の磁気モレが生じます。ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターと一緒に使う場合は充分に（約30ｃｍ）離してお使いください。本機をこれらに近づけると画面に色むらが生じる場合があります。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。
それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。さらにスピーカーの近くに磁気を発生するものがないようにご注意ください。スピーカーとの相互作用により、色むらを起す場合があります。
磁気を発生するもの：ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

ちょっと一言
- 発光ユニットを壁にかけることもできます。詳しくは42ページをご覧ください。
- コンセントの位置によって、サラウンドスピーカーL（左）とR（右）の位置を逆にすることができます。詳しくは「サラウンドスピーカーL（左）を右側に置くには」（120ページ）をご覧ください。
- スピーカーの配置を変えた場合、設定の変更をおすすめします。詳しくは「自動でスピーカーを設定する」（107ページ）をご覧ください。
- 発光ユニットとサラウンドスピーカーL（左）の間に障害物があるときや、スピーカーのレイアウトによって、赤外線の送受信がうまくできない場合は、付属の受光ユニットを使います。詳しくは「受光ユニットを使う」（41ページ）をご覧ください。

ワイヤレスシステムの調整をする

赤外線の送受信がうまくいくように、ワイヤレスシステムの調整をします。



次のページへつづく

1 コントロールユニットのI/⏻（電源）ボタン、ACアダプターのPOWER（電源）ボタンを押して電源を入れる。

本機とACアダプターの電源が入り、ACアダプターのPOWER（電源）ランプが点灯し、サラウンドスピーカーL（左）のIR（赤外線）受信状態確認ランプが橙色に点灯します。

2 発光ユニットとサラウンドスピーカーL（左）の受光部が一直線上に向かい合うように、それぞれを置く。

サラウンドスピーカーL（左)のIR（赤外線）受信状態確認ランプが緑色に点灯するように、位置を調整します。

ご注意

- 発光ユニットとサラウンドスピーカーL（左）の受光部の直線上に、人、物などの障害物がないように設置してください。サラウンドスピーカーの音が途切れることがあります。
- IR（赤外線）受信状態確認ランプが橙色に点灯している場合は、赤外線の送受信不可状態です。IR（赤外線）受信状態確認ランプが緑色に点灯するように、発光ユニット、サラウンドスピーカーL（左）の位置、角度を調整してください。
- IR（赤外線）受信状態確認ランプが橙色に点滅している場合は、他のソニー製品の赤外線を受信しています。IR（赤外線）受信状態確認ランプが緑色に点灯するように、発光ユニット、サラウンドスピーカーL（左）の位置、角度、または他のソニー製品の発光ユニットの位置を調整してください。

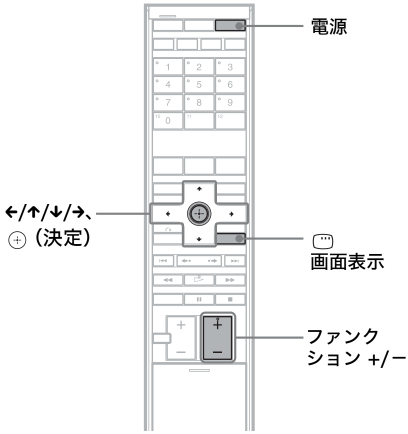
ちょっと一言

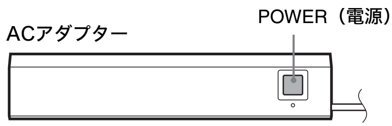
- 発光ユニットは、コンパクトで、角度調節がしやすくなっていますので、先にサラウンドスピーカーL（左）の位置を決めてから、発光ユニットの位置、角度を調節することをおすすめします。
- 発光ユニットを壁にかけることもできます。詳しくは42ページをご覧ください。

手順5：クイック設定をする

本機を使うために必要な最低限の設定を行います。

リモコンはコントロールユニットのリモコン受光部（136ページ）に向けて操作します。





1 テレビの電源を入れる。

2 リモコンの電源ボタンとACアダプターのPOWER（電源）ボタンを押す。

本機の電源が入ります。

ご注意

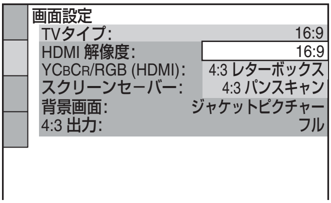
- コントロールユニットの表示窓に「DVD」が表示されます。「DVD」が表示されないときは、ファンクション+/−ボタンを繰り返し押して「DVD」を表示させます。

3 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

画面の下部に[クイック設定するには[決定]を押してください]のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されないときは、クイック設定画面を表示させてください（40ページ）。

4 ディスクを入れない状態で ⊕（決定）を押す。

つないだテレビの縦横比の設定画面がテレビに表示されます。



5 ↑/↓で本機につないだテレビ画面の縦横比を選ぶ。

ワイドスクリーンタイプのテレビ、またはワイドスクリーンモードのある4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

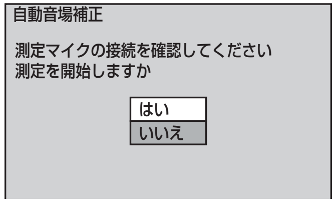
[16:9]を選びます（112ページ）。

4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

[4:3レターボックス]または[4:3パンスキャン]を選びます（112ページ）。

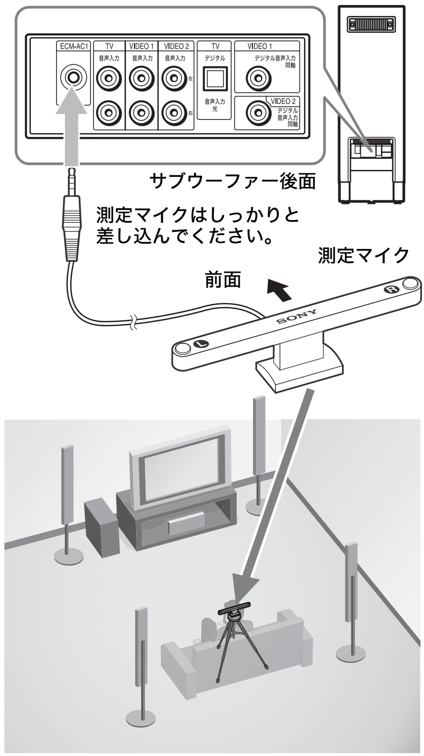
6 ⊕（決定）を押す。

[自動音場補正]の設定画面が表示されます。



7 サブウーファー後面のECM-AC1端子に測定マイクをつなぎ、視聴する位置で耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定する。

スピーカーとマイクの間に障害物などがないようにしてください。また、測定マイクの「FRONT」側が前面に向くように設置してください。



次のページへつづく

ご注意

- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- ECM-AC1端子に付属の測定マイク以外のマイクをつながないでください。

8 ↑/↓で[はい]を選び、⊕（決定）を押す。

[自動音場補正]が始まります。

測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。

ご注意

- 測定中（約1分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリア）（36ページ）の外側に出てください。
- サラウンドスピーカーから測定用の音が出力されないときは、ワイヤレスシステムの調整を行ってください。詳しくは「ワイヤレスシステムの調整をする」（37ページ）をご覧ください。

9 測定マイクを抜き、←/→ で[はい]を選び、⊕（決定）を押す。

クイック設定は完了しました。すべての接続と設定作業は完了です。



ご注意

- 壁や床の反響が測定に影響する場合があります。
- 測定が失敗したときは画面にしたがって[自動音場補正]を再度行ってください。

ちょっと一言

- サラウンドスピーカー L（左）を右側に設置していた場合、アンプメニューの「SL SR REVERSE」設定（120ページ）は自動的に「ON」に設定されます。

クイック設定をやめるには

画面表示ボタンを押します。

ちょっと一言

- [自動音場補正]をキャンセルしたときは「スピーカーに関する設定をする」（117ページ）でスピーカーの設定を行ってください。
- スピーカーの設置場所を変更したときは、スピーカー設定を再度行ってください。詳しくは「自動でスピーカーを設定する」（107ページ）をご覧ください。
- 設定を変更したいときは、「設定画面を使う」（110ページ）をご覧ください。
- [自動音場補正]のエラー表示について詳細は「エラーが出たときは」（109ページ）をご覧ください。

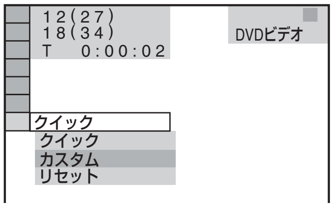
クイック設定の画面を呼び出すには

1 **ディスクを再生しているときは、■ボタンを押して再生を止めてから、画面表示ボタンを押す。**

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓ で [設定]を選び、⊕（決定）を押す。**

[設定]の項目が表示されます。



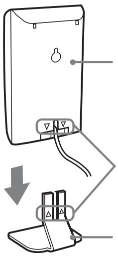
3 **↑/↓ で[クイック]を選び、⊕（決定）を押す。**

クイック設定画面が表示されます。

受光ユニットを使う

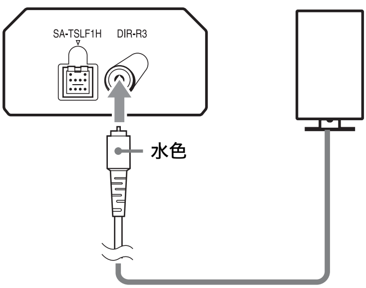
発光ユニットとサラウンドスピーカーL（左）の間に障害物があるときや、スピーカー設置位置や向きによって、赤外線の送受信がうまくできない場合は、付属の受光ユニットを使います。

受光ユニット用スタンドを使う場合は、受光ユニットと受光ユニット用スタンドの三角マークが合うように、スタンドを差し込んでください。



受光ユニットをつなぐには

受光ユニットをACアダプターのDIR-R3端子につなぎます。



ご注意

- 受光ユニットをACアダプターにつなぐと、自動的にサラウンドスピーカーL（左）の受光部がオフになり、つないだ受光ユニットで受信するようになります。
- 受光ユニットの調整は、サラウンドスピーカーL（左）の受光部と同じように行ってください。

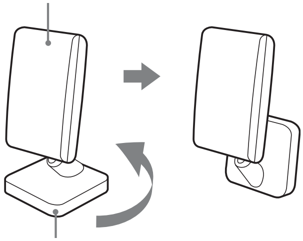
発光ユニットや受光ユニットを壁に取り付ける

発光ユニットと受光ユニットの間に障害物がある場合や、ユニット間を人が通ることが多い場合などには、発光ユニット、受光ユニットを壁にかけることができます。

発光ユニットと受光ユニットの両方を壁にかけるときは、発光ユニットの位置を決めてから受光ユニットの位置を決めてください。

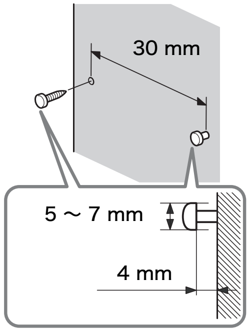
発光ユニットを壁にかける

1　発光ユニットのスタンドを下図のように回す。



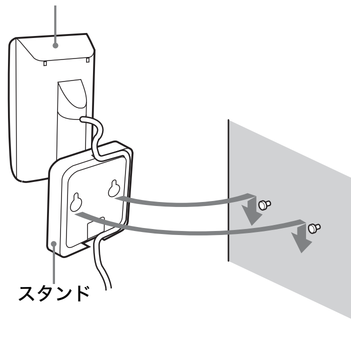
2　市販のネジ（2個）を壁に取り付ける。

2個のネジは同じ高さで30mm離して取り付けます。



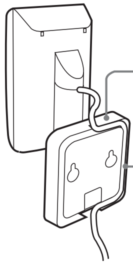
3　スタンド底面の穴をネジにかける。

壁にかけたあと、しっかり取り付けられているかどうか確認してください。



ちょっと一言

下図のように、コードをスタンド底面の溝に収納することもできます。



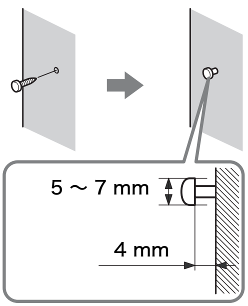
ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。
- 強度の弱い壁には取り付けないでください。
- 取り付けには、取り付け強度不足がないように注意して行ってください。
- コードを抜き差しするときは、発光ユニットまたは受光ユニットを壁から取りはずしてください。

受光ユニットを壁にかける

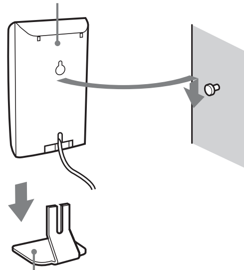
1 市販のネジを壁に取り付ける。

ネジが壁から4mm出るように取り付けます。



2 受光ユニット用スタンドをはずして、後面の穴をネジにかける。

壁にかけたあと、しっかり取り付けられているかどうか確認してください。

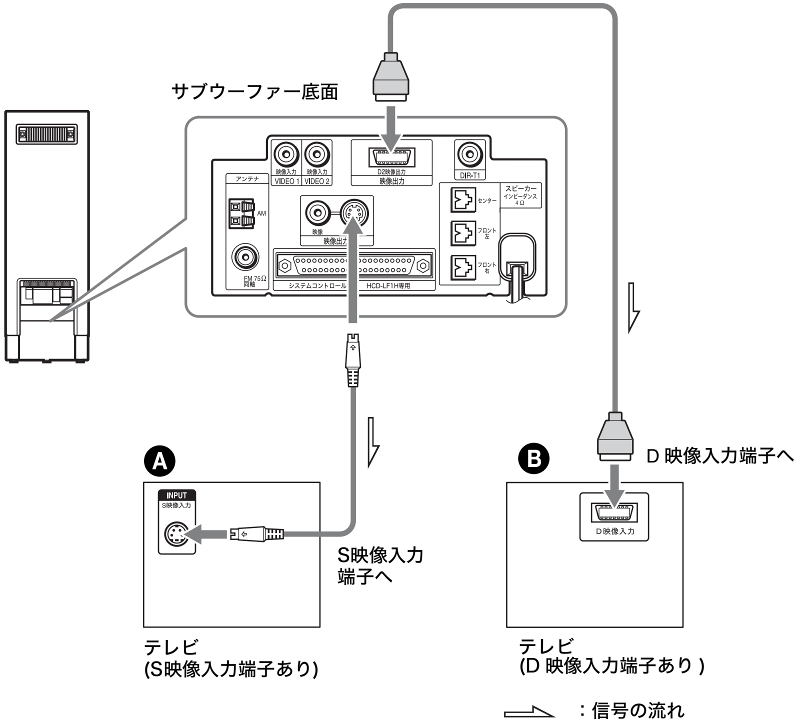


テレビをつなぐ（応用編）

「手順3：テレビをつなぐ」（35ページ）以外のテレビの接続について説明します。
お使いのテレビの端子に合ったコードを選びます。

映像コードやHDMI*コードをつなぐ

お持ちのテレビの端子に合わせて、下のⒶ、Ⓑの方法から選ぶことができます。
Ⓐ→Ⓑとなるにつれて高画質になります。
HDMIコード（別売り）を使って、HDMI端子のあるテレビとつなぐこともできます。



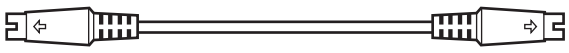
* HDMI (High-Definition Multimedia Interface)
HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

ご注意

- VIDEO 1またはVIDEO 2（映像入力）端子から入力された映像信号は、S映像出力端子、D2映像出力端子、HDMI出力端子からは出力されません。

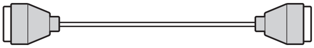
Ⓐ S映像入力端子のあるテレビにつなぐ

S映像コード（別売り）を使って、テレビのS映像入力端子と本機のS映像出力端子をつなぎます。



Ⓑ D映像入力端子のあるテレビにつなぐ

D映像コード（別売り）を使って、テレビのD映像入力端子と、本機のD2映像出力端子をつなぎます。プログレッシブ方式に対応したテレビとつないだときは、本機をプログレッシブ出力に設定して高画質な映像を楽しむことができます（114ページ）。



HDMI/DVI 入力端子のあるテレビにつなぐ

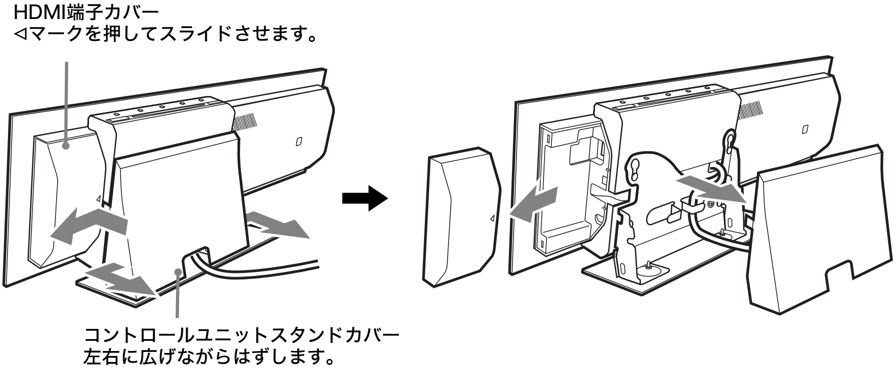
HDMIコード(別売り)を使って、テレビのHDMI入力端子と、本機のHDMI出力端子をつなぎます。デジタル信号により高精細映像と音声を楽しむことができます。

テレビにDVI入力端子がある場合、HDMI/DVIコンバーターケーブル（別売り）を使ってテレビとつなぐことはできますが、その場合テレビは音声信号を受け取れません。

また、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に準拠していないDVI対応機器にはつなぐことができません。

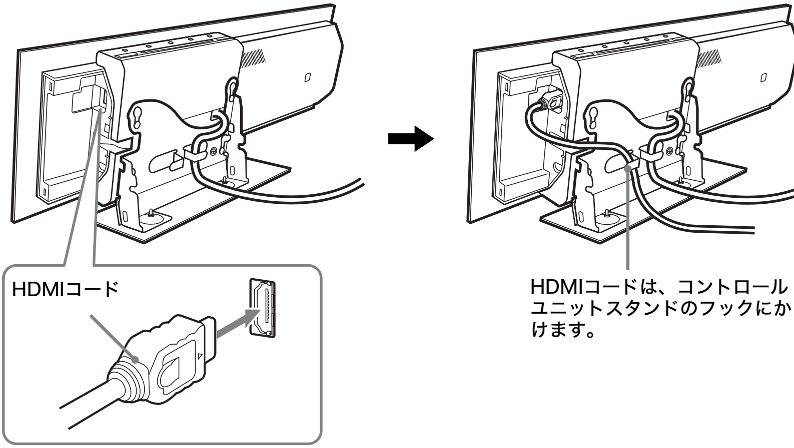


1 コントロールユニットスタンドカバーとHDMI端子カバーをはずす。

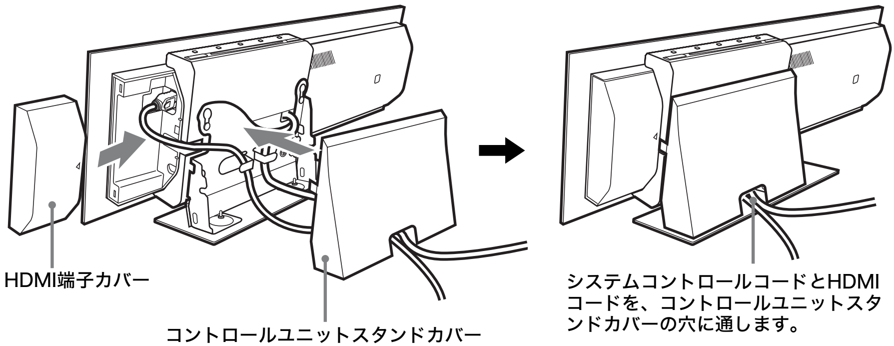


次のページへつづく

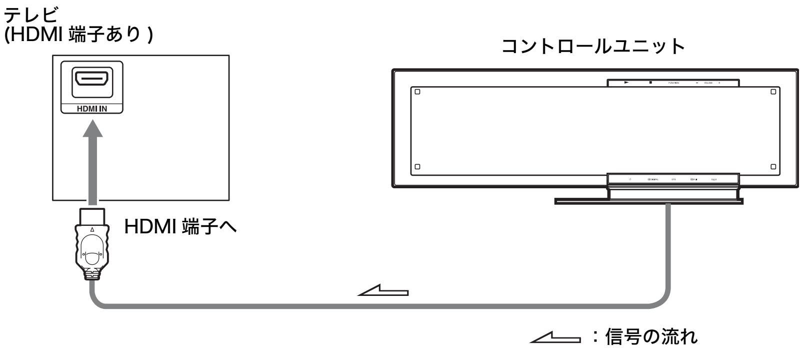
2 HDMIコードをつなぐ。



3 コントロールユニットスタンドカバーとHDMI端子カバーを、コントロールユニットスタンドに取り付ける。

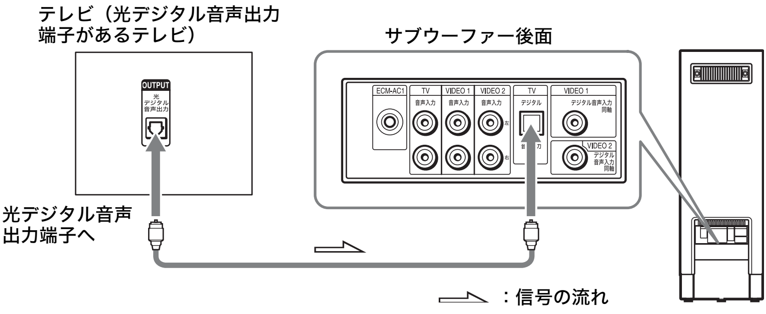


4 HDMIコードをテレビにつなぐ。



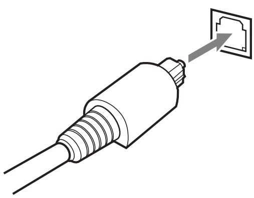
光デジタル音声出力端子のあるテレビにつなぐ

テレビの音質を本機のスピーカーからより高音質で聞くことができます。
また、AAC（100ページ）を楽しむにはこの接続を行ってください。
光デジタルコード（別売り）を使って、テレビの光デジタル音声出力端子と、サブウーファー後面のTV（デジタル音声入力光）端子につなぎます。



ご注意

- アナログ接続とデジタル接続を両方行った場合、デジタル接続が優先されます。
- 光デジタルコードをつなぐときは、下図の向きでカチッと音がするまで差し込んでください。



- 光デジタルコードでつなぐとき、お使いのテレビがすべての音声を出力しない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 光デジタルコードでつなぐとき、つなぐテレビ側で音声出力に関する設定が必要な場合があります。つなぐテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

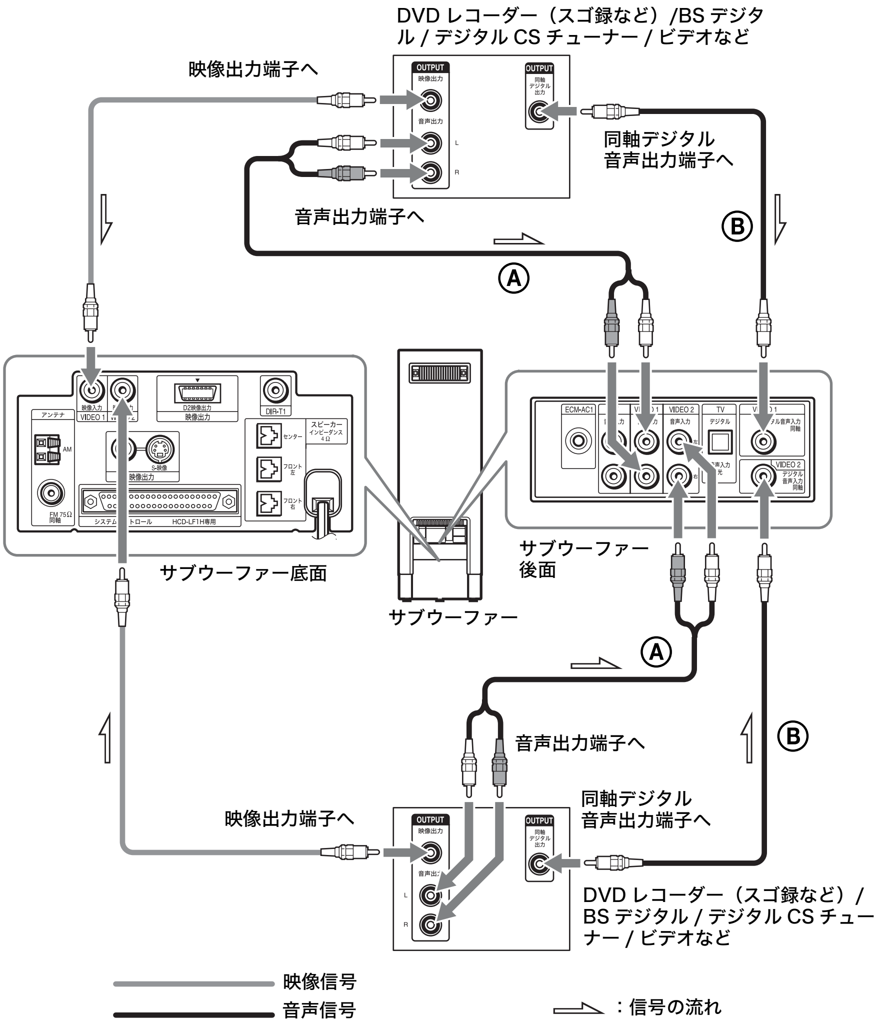
ちょっと一言

- 実際にテレビの音声を聞くには、ファンクションを「TV」に切り換える必要があります。詳しくは55ページをご覧ください。
- 本機のデジタル入力は、BSデジタル放送などのMPEG-2 AACに対応しています。AACを楽しむには「デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ」（100ページ）をご覧ください。

その他の機器をつなぐ

お使いのさまざまな機器を本機につないで、音声を本機のスピーカーから聞くことができます。

DVDレコーダー（スゴ録など）/BSデジタル/デジタルCSチューナー /ビデオなどをつなぐ



ご注意

- 音声コードでVIDEO 1（音声入力）端子につないだ機器は、映像コードはVIDEO 1（映像入力）端子につないでください。同じように、音声コードでVIDEO 2（音声入力）端子につないだ機器は、映像コードはVIDEO 2（映像入力）端子につないでください。
- 雑音を防ぐために、プラグはしっかりと差し込んでください。

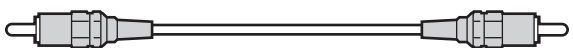
ちょっと一言

- アナログ音声信号とデジタル音声信号が同時に入力された場合、デジタル音声信号を優先して出力します。

■ 映像接続コードをつなぐ

映像出力端子のある機器とつなぐ

ビデオ機器またはその他の機器を、映像コードを使って本機のVIDEO 1またはVIDEO 2（映像入力）端子につなぎます。



ご注意

- VIDEO 1またはVIDEO 2（映像入力）端子から入力された映像信号は、S映像出力端子、D2映像出力端子、HDMI出力端子からは出力されません。

■ 音声接続コードをつなぐ

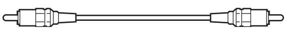
Ⓐ 音声出力端子のある機器とつなぐ

ステレオ音声コード（別売り）を使って、ビデオなどの機器の音声出力端子と、本機のVIDEO 1またはVIDEO 2（音声入力）端子につなぎます。白（左）端子には白プラグを、赤（右）端子には赤プラグを差し込みます。



Ⓑ 同軸デジタル音声出力端子のある機器とつなぐ

同軸デジタルコード (別売り) を使って本機の VIDEO 1 または VIDEO 2（デジタル音声入力同軸）端子につなぎます。



ご注意

- アナログ接続（Ⓐ)、デジタル接続（Ⓑ）を両方行った場合、デジタル接続（Ⓑ）が優先されます。
- 同軸デジタルコード（別売り）でつないだときに、つないだ機器側で音声出力に関する設定が必要な場合があります。つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

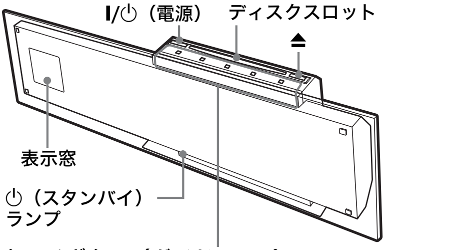
ちょっと一言

- アナログ接続（Ⓐ）に比べ、デジタル接続（Ⓑ）のほうが、より高音質でお楽しみいただけます。
- 本機のデジタル入力（Ⓑ）は、BSデジタル放送などのMPEG-2 AACに対応しています。AACを楽しむには「デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ」（100ページ）をご覧ください。

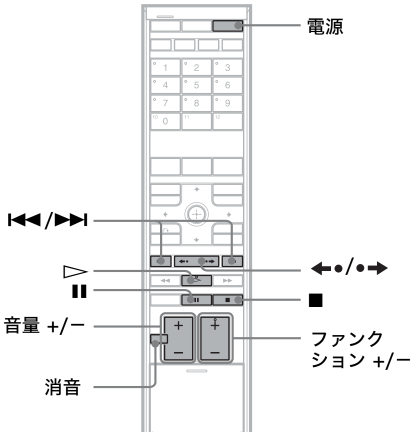
ディスクを再生する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　Super Audio CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

再生するDVDビデオ、ビデオCDの種類によっては、操作が違ったり、禁止されている操作があります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。



(►／■／FUNCTION／VOLUME −/+)
タッチボタンのいずれかに触れ、ガイドランプを点灯させてから、タッチボタンを押して操作します （タッチボタンはガイドランプ点灯中に働きます）。



ご注意

- タッチボタンは軽く触れるだけで働きます。強く押さないようにしてください。
- しばらくの間タッチボタンを押さないと、ガイドランプは自動的に消えます。

1 テレビの電源を入れる。

2 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

3 コントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押す。

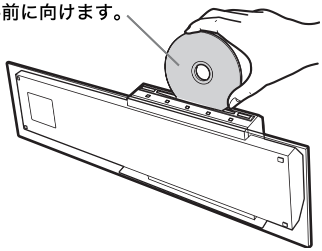
本機の電源が入ります。
ファンクションが「DVD」ではないときは、コントロールユニットの表示窓に「DVD」と表示されるまでリモコンのファンクション+/−ボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（タッチボタン）を繰り返し押してください。
コントロールユニットの表示窓に「No Disc」が表示されると、ディスクを入れる準備が整います。

ご注意

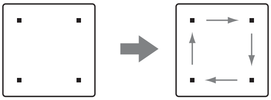
- 「No Disc」が表示される前にディスクを入れないでください。

4 ディスクを入れる。

自動的にディスクが引き込まれるまでディスクを押し込んでください。



ディスクが自動的に引き込まれ、コントロールユニットの表示窓に以下のように表示されます。



5 リモコンの▷ またはコントロールユニットの▷（タッチボタン）を押す。

再生が始まります。
リモコンの音量＋/－ボタンやコントロールユニットのVOLUME－/＋ボタン（タッチボタン）で音量を調節してください。

省電力モード（スタンバイモード）にするには

本機の電源が入っている状態から省電力モードにするとき

- リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンと、ACアダプターのPOWER（電源）ボタンを1回押す。
  このとき、コントロールユニットの⏻（スタンバイ）ランプが点灯し、ACアダプターのPOWER（電源）ランプが消灯します。

省電力モードを解除するとき

- リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンと、ACアダプターのPOWER（電源）ボタンを1回押す。
  このとき、コントロールユニットの⏻（スタンバイ）ランプが消灯し、ACアダプターのPOWER（電源）ランプが点灯します。

ちょっと一言

- データCDに記録されたMP3音声トラックやJPEG画像ファイルの再生は、「データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生する」（87ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

いろいろな操作のしかた

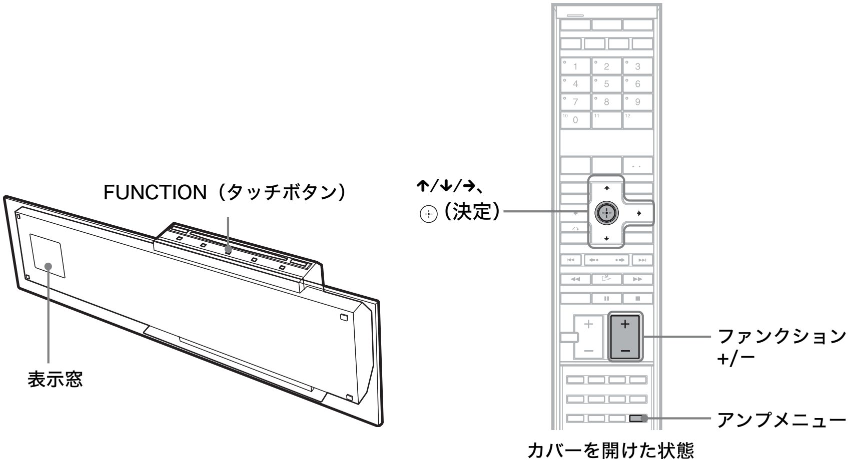
こんなときは	操作
止める	リモコンの■またはコントロールユニットの■（タッチボタン）を押す
一時停止する	❚❚を押す
一時停止したあと、つづきを再生する	❚❚または▷を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	▶▶❙を押す（JPEG画像ファイルは除く）
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	❙◀◀ を押す（JPEG画像ファイルは除く）
消音する	消音ボタンを押す。消音をキャンセルするには、もう一度消音ボタンを押すか、音量+ボタンで音量を上げる
ディスクを取り出す	コントロールユニットの⏏を押す
少し前のシーンに戻す*	再生中に◀━● を押す
少し先のシーンに進める**	再生中に●━▶ を押す

* DVD ビデオ、DVD-RW、DVD-R のみ。
** DVD ビデオ、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R のみ。

ご注意

- シーンによっては ◀━● や ●━▶ が使えない場合があります。

ラジオやつないだ機器の音を楽しむ



1 リモコンのファンクション+/−ボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（タッチボタン）を繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に再生したいものを表示させる。

リモコンのファンクション＋ボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（タッチボタン）を押すたびに、ファンクションは以下の順番で切り換わります。
（リモコンのファンクション－ボタンを押すと、逆の順番で切り換わります。）

DVD → FM → AM → TV → VIDEO 1 → VIDEO 2 → DVD → ....

選ぶファンクション	再生したい機器
FMまたはAM	本機に内蔵されているラジオ（32、94ページ）
TV	テレビ（35、44ページ）
VIDEO 1または VIDEO 2	DVDレコーダー（スゴ録など）、BSデジタル/デジタルCSチューナー /ビデオなど（48ページ）

2 つないだ機器の電源を入れて、再生する。

次のページへつづく

接続機器からの入力レベルを変える

TV、VIDEO 1、VIDEO 2などの音声入力端子につないだ機器の音を聞くときに、つないだ機器によっては音が小さく聞こえることがあります。そのときは入力レベルを変更できます。

1 **ファンクション+/−ボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「TV」、「VIDEO 1」、または「VIDEO 2」を表示させる。**

2 **アンプメニューボタンを押す。**

3 **↑/↓を押して表示窓に「ATTENUATE（アッテネート）」を表示させてから ⊕（決定）または→を押す。**

4 **↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。**

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「ON」（オン）
  本機への入力レベルを下げます。音がひずむ場合はこの設定にしてください。
- 「OFF」（オフ）
  通常の入力レベルです。他のファンクションに比べて音量が小さいとき、この設定にしてください。

5 **⊕（決定）を押す。**

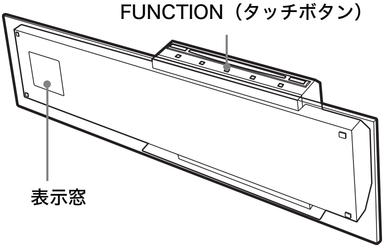
手順4で選んだ項目が設定されます。

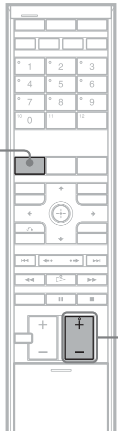
6 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニューを終了します。

テレビやビデオの音声をすべてのスピーカーで楽しむ

本機のスピーカーでテレビやビデオの音声を楽しめます。
接続については「手順3：テレビをつなぐ」（35ページ）、「テレビをつなぐ（応用編）」（44ページ）、「その他の機器をつなぐ」（48ページ）をご覧ください。





1 リモコンのファンクション+/－ボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（タッチボタン）を繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「TV」、「VIDEO 1」または「VIDEO 2」を表示させる。

2 テレビやビデオの電源を入れる。

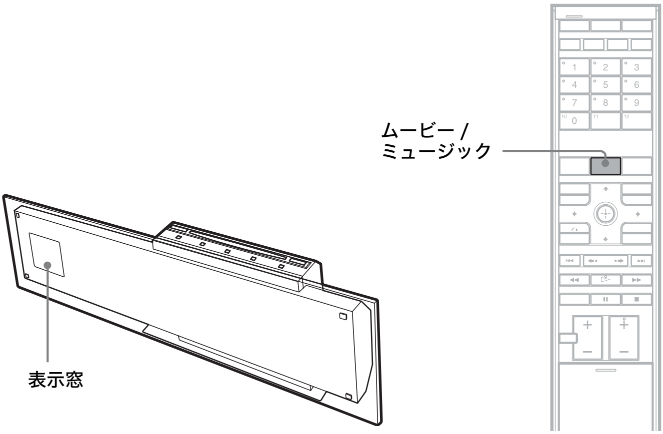
3 サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドをコントロールユニットの表示窓に表示させる。

テレビやビデオの音声を6本のスピーカーから出力したいときは、サウンドフィールドの「Pro Logic II Movie」または「Pro Logic II Music」を選んでください。サウンドフィールドについて詳しくは62ページをご覧ください。

サウンド効果を選ぶ

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　Super Audio CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

映画や音楽など再生するディスクに合ったサウンド効果が楽しめます。



再生中にムービー /ミュージックボタンを押す。

ムービー /ミュージックボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓にお好みのモードを点灯させます。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「Auto」（オートモード）
  再生するディスクに合わせたサウンド効果を自動的に選びます。
- 「Movie」（ムービーモード）
  映画を楽しむのに適しています。
- 「Music」（ミュージックモード）
  音楽を楽しむのに適しています。

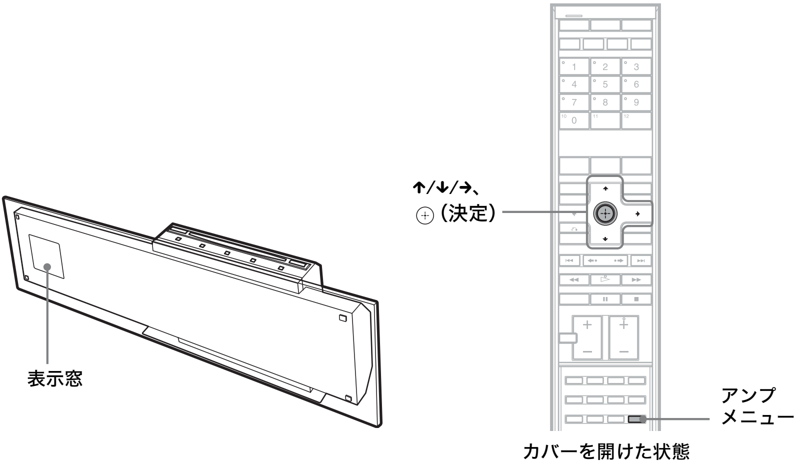
ちょっと一言

- インフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているときに、ムービーモードやミュージックモードを選ぶと、コントロールユニットの表示窓に「MOVIE」または「MUSIC」が表示されます。

表示窓の表示のしかたを変える

（INFORMATION MODE（インフォメーションモード））

コントロールユニットの表示窓の表示のしかたを変えることができます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓に「INFORMATION MODE（インフォメーションモード）」を表示させてから⊕（決定）または→を押す。**

3 **↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。**

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「DETAIL」（詳細表示）
  ディスクの種類、トラックナンバー、リピートモード表示、ラジオの周波数など、選んだファンクションの情報を詳しく表示します。表示内容について詳しくは137ページをご覧ください。
- 「STANDARD」（通常表示）
  ディスクの種類やトラックナンバーなどを表示します。
- 「SIMPLE」（簡単表示）
  選ばれているファンクション名のみ表示します。

次のページへつづく

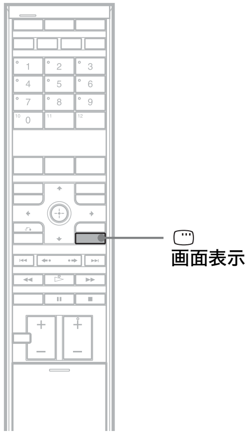
4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

コントロールメニュー画面の見かた



テレビに表示されるコントロールメニュー画面を使って、ファンクションを選んだり、関連する情報を選んだりします。画面表示ボタンを繰り返し押すと、テレビの表示は以下のように切り換わります。

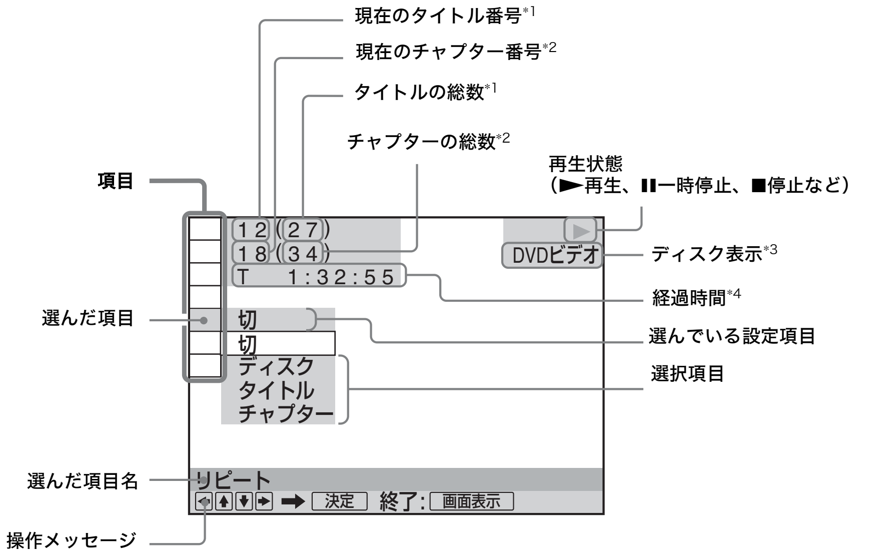
→ コントロールメニュー画面　1
↓
コントロールメニュー画面　2（特定のディスクのみ表示）
↓
コントロールメニュー画面　切

次のページへつづく

コントロールメニュー画面表示

コントロールメニュー 1、2はディスクの種類によって表示される項目が違います。詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

例：DVDビデオ再生中のコントロールメニュー画面　1



*1 PBC 再生時のビデオ CD のシーン、ビデオ CD ／スーパーオーディオ CD ／ CD のトラック、データ CD ／データ DVD のアルバムを表示します。
*2 ビデオ CD のインデックス、データ CD ／データ DVD の MP3 音声トラック、JPEG 画像ファイルを表示します。
*3 スーパー VCD は SVCD と表示します。データ CD ／データ DVD の MP3 音声トラックは MP3 ディスクとしてコントロールメニュー画面 1、JPEG 画像ファイルは JPEG ディスクとしてコントロールメニュー画面 2 に表示します。
*4 JPEG 画像ファイルの場合は、コントロールメニュー画面 2 に日付を表示します。

コントロールメニュー画面表示を消すには

画面表示ボタンを押します。

コントロールメニュー画面項目一覧

項目	項目名、機能、可能なディスクの種類
	[タイトル]（67 ページ）/ [シーン]（67 ページ）/ [トラック]（67 ページ） 再生するタイトル、シーン、トラックを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	[チャプター]（67 ページ）/ [インデックス]（67 ページ） 再生するチャプター、インデックスを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	[トラック]（67 ページ） 再生するトラックを選びます。 CD DATA-CD DATA DVD SuperAudioCD
	[オリジナル / プレイリスト]（78 ページ） 再生するタイトルの種類、オリジナルのタイトルあるいは編集して作成されたプレイリストを選びます。 DVD-VR

	[時間 / テキスト]（67 ページ） 経過時間および残り時間を調べます。 タイムコードを入力して映像や曲を探します。DVD や CD のテキスト、MP3 音声トラック名を表示します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD SuperAudioCD
	[自動音場補正]（107 ページ） 自動でスピーカーを設定します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD SuperAudioCD
	[マルチ /2CH]（84 ページ） スーパーオーディオ CD の再生エリアを選びます。 SuperAudioCD
	[プログラム]（71 ページ） トラックを選んで好きな順に再生します。 VIDEO CD CD SuperAudioCD
	[シャッフル]（73 ページ） トラックをランダム (無作為) な順番で再生します。 VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD SuperAudioCD
	[リピート]（74 ページ） ディスク全体 (全タイトル / 全トラック / 全アルバム) または 1 つのタイトル / チャプター / トラック / アルバムを繰り返し再生します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD SuperAudioCD
	[視聴制限]（103 ページ） 特定のディスクやシーンの再生を禁止する設定をします。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD SuperAudioCD
	[設定]（110 ページ） [クイック]セットアップ（38ページ） つないだテレビに合う画面の縦横比や［自動音場補正]開始の選択を行います。 [カスタム]セットアップ クイックセットアップに加えて、さまざまな設定をします。 [リセット] クイックセットアップ、カスタムセットアップでの設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD SuperAudioCD
	[アルバム]（67 ページ） 再生するアルバムを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[ファイル]（67 ページ） 再生する JPEG 画像ファイルを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[日付]（81 ページ） JPEG 画像ファイルが撮影された日付を表示します。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド送り時間]（89 ページ） スライドショーの表示する間隔を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド効果]（89 ページ） スライドショーの表示が変わるときの効果を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[音声映像選択モード]（89 ページ） データ CD/ データ DVD を再生するときに、再生するデータの種類：MP3 音声トラック (音声)、JPEG 画像ファイル (映像)、または両方 (自動) を選びます。 DATA-CD DATA DVD

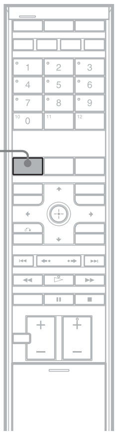
ちょっと一言

- コントロールメニュー画面のアイコンは、[切]以外を選んでいるときは緑に点灯します → （[プログラム]、[シャッフル]、[リピート]のみ）。[オリジナル/プレイリスト]アイコンは、［プレイリスト］を選んでいるときに緑に点灯します。「マルチ/2CH」アイコンは、「マルチ」を選んでいるときに緑に点灯します。

サラウンドを楽しむ

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。



サウンドフィールドボタンを押す。

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓にお好みのサウンドフィールドを表示させます。

サウンドフィールド	表示窓の表示
AUTO FORMAT DIRECT STANDARD	Auto Format Direct Standard
AUTO FORMAT DIRECT MULTI	Auto Format Direct Multi
Dolby Pro Logic II MOVIE	Pro Logic II Movie
Dolby Pro Logic II MUSIC	Pro Logic II Music
CINEMA STUDIO EX	Cinema Studio EX
LIVE CONCERT	Live Concert
SPORTS STADIUM	Sports Stadium
PORTABLE AUDIO ENHANCER	Portable Audio Enhancer
2 CHANNEL STEREO	2Channel Stereo

入力された音声をそのまま再生する

■ AUTO FORMAT DIRECT STANDARD（オートフォーマットダイレクトスタンダード）

オートデコーディング機能は、入力された音声信号の種類を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要に応じて適切なデコード処理を行います。このモードは何も音場効果（残響音など）を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。ただし、低周波数の音声信号（ドルビーデジタルLFEなど）がない場合は、低周波数の音声信号がサブウーファーへの出力用につくられます。

複数のスピーカーから音声を出力する

■ AUTO FORMAT DIRECT MULTI（オートフォーマットダイレクトマルチ）

ディスクの種類に関わらず、複数のスピーカーから音声を出力します。

ご注意

- ソースによっては、複数のスピーカーから音が出ない場合があります。

ＣＤなどの2チャンネルソースを5.1チャンネルで出力する

■ Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSIC（ドルビープロロジックIIムービー /ミュージック）

サラウンド効果を再現するために2チャンネルの音声信号を、ドルビープロロジックII処理をして5チャンネルに振り分けます。ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックよりさらに空間的に広がりを持ったサラウンド効果を、特別なサウンドを加えずに実現したものです。

ご注意

- マルチチャンネルのソースを入力しているときは、Pro Logic II MOVIE/MUSICはキャンセルされ、マルチチャンネルの音声信号はそのまま出力されます。
- 二ヶ国語放送の場合、Dolby Pro Logic II Movie/Musicの効果は得られません。

デジタルシネマサウンドを楽しむ

■ CINEMA STUDIO EX（シネマスタジオEX）

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの映画制作スタジオ「キム・ノヴァク・シアター」の音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

DCS（デジタルシネマサウンド）について

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの提携により、同社のスタジオの音響環境を計測し、ソニー独自の技術であるDSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを融合させて、「デジタルシネマサウンド」は開発されました。「デジタルシネマサウンド」はホームシアターで、映画館の理想的な音場効果を再現します

シネマスタジオEXについて

シネマスタジオEX（CINEMA STUDIO EX）は、ドルビーデジタルDVDなどのマルチ形式でエンコードされた映画ソフトを楽しむのに適したサウンドフィールドです。このモードはソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスタジオと同じ音響特性を再現します。

シネマスタジオEXは、以下の3つの要素から成り立っています。

- Virtual Multi Dimension
  実在する1組のサラウンドスピーカーに加えて、視聴者を取り巻くように5組の仮想スピーカーを再現します。
- Screen Depth Matching
  映画館では、スクリーンに映写されている映像の中から音が聞こえてくるように感じます。フロントスピーカーの音をスクリーンに移動させることによって、部屋の中でも同じような感覚を再現します。
- Cinema Studio Reverberation
  映画館に特有の残響効果を再現します。

シネマスタジオEXは、これら3つの音響効果を実現する総合的なサウンドフィールドです。

ご注意

- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーから直に音は聞こえません。

次のページへつづく

ソースに合わせてサラウンドを楽しむ

■ LIVE CONCERT
（ライブコンサート）
300席くらいのライブハウスの音響を再現します。

■ SPORTS STADIUM
（スポーツスタジアム）
野球場などの大きなスタジアムの音響を再現します。

■ PORTABLE AUDIO ENHANCER
（ポータブルオーディオエンハンサー）
携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3などの圧縮されたソースに適しています。

フロントスピーカーとサブウーファーだけを使う

■ 2 CHANNEL STEREO
（2チャンネルステレオ）
フロントスピーカーL（左）／R（右）とサブウーファーの3本から音を出します。マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
どんなソースもフロントスピーカーL（左）／R（右）とサブウーファーの3本で再生ができます。

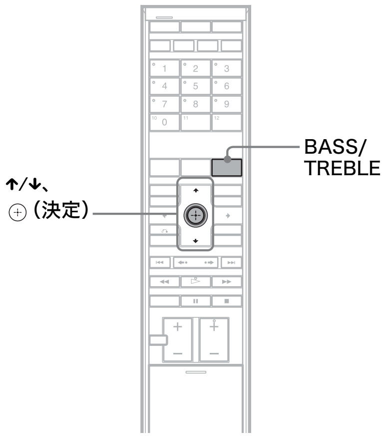
サラウンド効果を消すには

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「Auto Format Direct Standard」または「2Channel Stereo」を表示させます。

ちょっと一言

- 各ファンクションで最後に選んだサウンドフィールドが本機に記憶されます。

低音と高音のレベルを調節する



1 BASS/TREBLEボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「Bass Level」または「Treble Level」を表示させる。

- 「Bass Level」
  低音を調節します。（−6〜+6まで、1ずつ調節可能）
- 「Treble Level」
  高音を調節します。（−6〜+6まで、1ずつ調節可能）

2 ↑/↓を押して調節する。

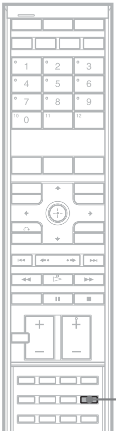
調節した値はコントロールユニットの表示窓に表示されます。

3 ⊕（決定）を押す。

小さな音量で聞く

（Night Mode（ナイトモード））

夜遅くに映画を見るときでも、劇場のような音響効果や台詞を明瞭に聞き取れるようにします。



カバーを開けた状態

ナイトモードボタンを押す。

「Night Mode On」がコントロールユニットの表示窓に表示されます。

ナイトモードを解除するには

ナイトモードボタンをもう一度押す。

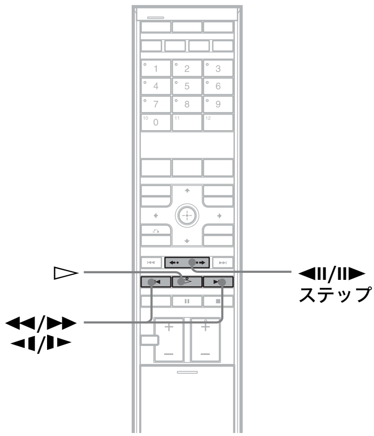
ディスク再生―いろいろな機能

見たいところ、聞きたいところを探す

（スキャン/スロー再生/コマ送り）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　Super Audio CD　CD
DATA-CD　DATA DVD

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところを探したり、
スロー再生をすることができます。



ご注意

- DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

早送り再生/早戻し再生をして見たいところ、聞きたいところを探す（スキャン）

（JPEG画像ファイルを除く）

ディスクの再生中に、◀II/◀◀または▶▶/II▶を押します。見たいところや聞きたいところを見つけたら、▷を押して通常の速さにします。スキャン中に◀II/◀◀または▶▶/II▶を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。ディスクによって実際の速さは異なります。
ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向
×2▶ → 1 ▶▶ → 2 ▶▶ → 3 ▶▶

３▶▶（DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ）
×2▶（DVDビデオ/スーパーオーディオCD/CDのみ）

逆方向
×2◀ → 1 ◀◀ → 2 ◀◀ → 3 ◀◀

３◀◀（DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ）
×2◀（DVDビデオのみ）

ボタンを押すたびに再生速度は速くなります。

スロー再生をする

（DVDビデオ、DVD-RW、ビデオCDのみ）

ディスクの一時停止中に◄▮/◄◄または►►/▮►を押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。スロー再生をしているとき、ボタンを押すたびにスロー再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向
2 ▮► ←→ 1 ▮►

逆方向（DVDビデオ、DVD-RWのみ）
2 ◄▮ ←→ 1 ◄▮

コマ送りで見る

（スーパーオーディオCD、CD、MP3、JPEG画像ファイルを除く）

一時停止中に再生方向はII▶ ステップ、逆方向（DVDビデオ、DVD-RWのみ）は◀II ステップを押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。

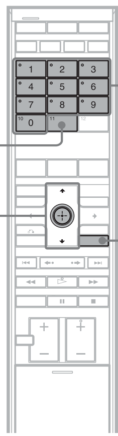
ご注意

- DVD-R（VRモード）、DVD-RW（VRモード）では、静止画はサーチできません。

タイトルやチャプター、トラック、シーンなどを使って検索する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　Super Audio CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

タイトル/チャプターでDVDを、トラック/インデックス/シーンでスーパーオーディオCD、CD、ビデオCD、データCD、データDVDを検索できます。
タイトルやトラックなどには、ディスク上で番号がつけられているので、その番号を選んで頭出しします。また、タイトルの経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます（タイムサーチ）。



1　画面表示ボタンを押す（データCDまたはデータDVDのJPEG画像ファイルを再生しているときは画面表示ボタンを2回押す）。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

次のページへつづく

ディスク再生—いろいろな機能

2 ↑/↓で検索項目を選ぶ。

DVDビデオ、DVD-RWのとき

[タイトル]

[チャプター]

[時間/テキスト]

タイムコードを入力して場面を探すときは、[時間/テキスト]を選んでください。

PBC再生を使っていないビデオCD、スーパー VCDのとき

[トラック]

[インデックス]

PBC再生を使ったビデオCD、スーパー VCDのとき

[シーン]

スーパーオーディオCDのとき

[トラック]

[インデックス]

CDのとき

[トラック]

データCD（MP3音声トラック）のとき

[アルバム]

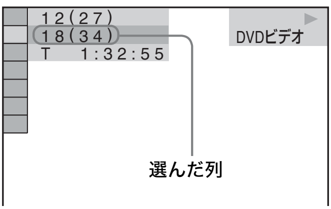
[トラック]

データCD（JPEG画像ファイル）のとき

[アルバム]

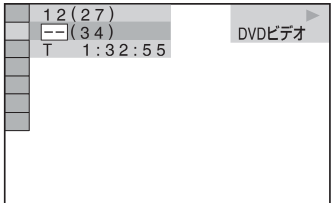
[ファイル]

例） [チャプター]を選んだとき
[**（**）]が選ばれます（**は任意の数字）。カッコ内の数字はチャプターの総数です。



3 ⊕（決定）を押す。

[**（**）]が[--（**）]に変わります。



4 ↑/↓または数字ボタンでタイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンなどの番号を入力する。

間違えたときは

クリアボタンを押して、入力しなおす。

5 ⊕（決定）を押す。

選んだ番号のチャプターやインデックスなどの再生が始まります。

タイムコードを入力して場面を探すには（タイムサーチ）（DVDビデオ/DVD-VRモードのみ）

1 手順2で [時間/テキスト]を選ぶ。
[T**:**:**](現在のタイトルの経過時間)が選ばれます。

2 ⊕（決定）を押す。
[T**:**:**]が[T--:--:--]に変わります。

3 数字ボタンでタイムコードを入力し、⊕（決定）を押す。
例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、[2:10:20]と入力します。

ご注意

- DVD+RW/DVD+Rではタイムコードを使って検索することはできません。

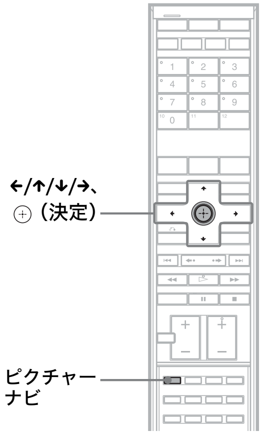
ちょっと一言

- テレビにコントロールメニューが表示されていなくても、数字ボタンと ⊕（決定）を押してチャプター (DVDビデオ、DVD－RW)やトラック(ビデオCD、スーパーオーディオCD、CD)を探すことができます。

シーンで検索する
(ピクチャーナビ)

DVD-V **VIDEO CD**

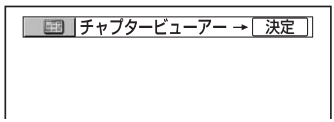
画面を9分割して、見たいシーンをすばやく検索できます。



カバーを開けた状態

1 ディスクの再生中に、ピクチャーナビボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。



2 ピクチャーナビボタンを繰り返し押して、項目を選びます。

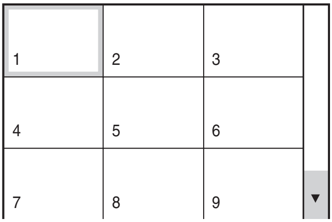
- [タイトルビューアー]（DVDビデオのみ）
- [チャプタービューアー]（DVDビデオのみ）
- [トラックビューアー]（ビデオCD、スーパー VCDのみ）

ディスク再生—いろいろな機能

次のページへつづく

3 ⊕（決定）を押す。

次のようにそれぞれのタイトル、チャプター、またはトラックの最初のシーンが表示されます。



4 ←/↑/↓/→で、タイトル、チャプター、トラックを選び、⊕（決定）を押す。

選んだシーンから再生が始まります。

設定の途中で通常の再生に戻るには

リターンボタンまたは画面表示ボタンを押す。

ご注意

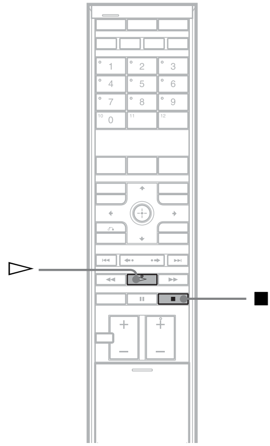
- ディスクによっては、操作を禁止している場合があります。

再生を止めたところから再生する

（リジューム再生）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　Super Audio CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

本機は再生を止めたところを記憶し、次にそこから再生できます（リジューム再生）。



1 ディスクの再生中、■を押して再生を止める。

コントロールユニットの表示窓に「Resume」と表示されます。
「Resume」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 ▷を押す。

手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

ご注意

- ディスクを取り出すと、リジューム再生できません。

複数枚のディスクをリジューム再生する（つづき再生機能）

（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

本機は、途中で再生を止めたディスクを取り出し、次にまた再生するときに続きから再生できるように、40枚まで記憶することができます。41枚目を記憶した場合、最初の1枚目の記憶が消去されます。

この機能を使うには、[視聴設定]の[つづき再生機能]を[入]にしてください。詳しくは「つづき再生機能（DVDビデオ、ビデオCDのみ）」（116ページ）をご覧ください。

ご注意

- [視聴設定]の[つづき再生機能]が[切]の場合（116ページ）、ファンクション＋/－ボタンを押してファンクションを変えたときは再生を止めたところの記憶は消えます。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記憶は消え、リジューム再生できません。
  - ディスクを取り出したとき
  - 本機がスタンバイモードになったとき（データCD、データDVDのみ）
  - コントロールメニューの設定画面で設定を変更したとき
  - ファンクション＋/－ボタンを押してファンクションを変えたとき
  - 電源コードをコンセントから抜いたとき
- VRモードのDVD-R/DVD-RW、ビデオCD、スーパーオーディオCD、CD、データCD、データDVDは現在再生しているディスクのみ再生を止めたところを記憶します。
- プログラム再生またはシャッフル再生のときは、リジューム再生できません。
- ディスクによってはリジューム再生できません。

ちょっと一言

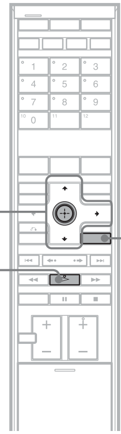
- ディスクを最初から再生したいときは、■を2回押してから、▷を押します。

好きな順に再生する

（プログラム再生）

VIDEO CD **Super Audio CD** **CD**

ディスクの中のトラックを選んで好きな順に再生できます。最大99のトラックを、再生したい順にプログラムできます。

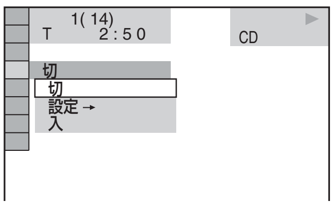


1 画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

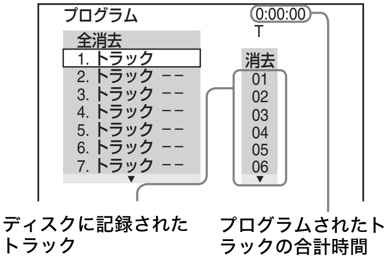
2 ↑/↓で [プログラム]を選び、⊕（決定）を押す。

[プログラム]の項目が表示されます。



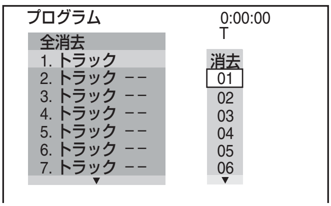
次のページへつづく

3 ↑/↓で[設定→]を選び、⊕（決定）を押す。



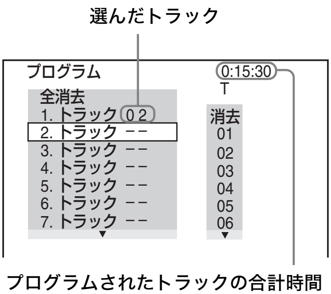
4 →を押す。

カーソルがトラックの列[T]（例では[01]）に移動します。



5 プログラムしたいトラックを選ぶ。

例えば、トラック[02]を選びます。
↑/↓で[T]の下にある[02]を選び、⊕（決定）を押します。
スーパーオーディオCDの場合はトラックナンバーが3ケタで表示されることがあります。



6 続けて再生するトラックを設定したいときは、手順4、5を繰り返す。

プログラムしたトラックは、選んだ順に表示されます。

7 ▷を押してプログラム再生を始めます。

プログラム再生が始まります。プログラム再生が終わったとき、▷を押すと同じプログラムを再生します。

通常の再生に戻るには

クリアボタンを押すか、手順3で「切」を選ぶ。同じプログラムを再生したいときは、手順3で[入]を選んだ後、⊕（決定）を押す。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し画面表示ボタンを押す。

プログラムした内容を変えるには

1 「好きな順に再生する(プログラム再生)」の手順1から3を行う。
2 ↑/↓で、変えたい、または取り消したいトラックナンバーを選ぶ。プログラムしたトラックを消去したい場合は、クリアボタンを押す。
3 新しいプログラムを設定するには手順5を行う。プログラムを取り消すには[消去]を選び、⊕（決定）を押す。

プログラムしたすべての内容を取り消すには

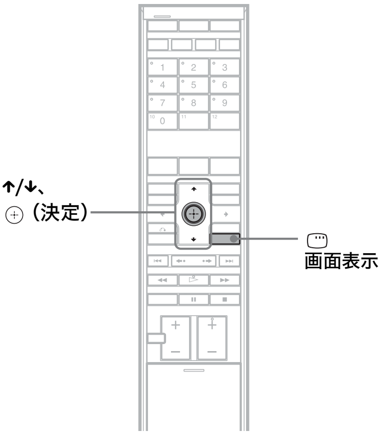
1 「好きな順に再生する(プログラム再生)」の手順1から3を行う。
2 ↑ で[全消去]を選ぶ。
3 ⊕（決定）を押す。

順不同に再生する

（シャッフル再生）

VIDEO CD　Super Audio CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

ディスク上に記録されたトラックの順番に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで再生します。再生する順番は、シャッフル再生するたびに変わります。



ご注意

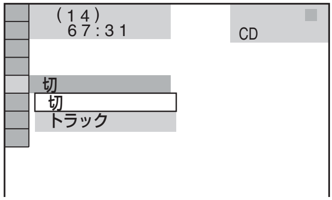
- MP3再生中は同じ曲が続けて再生されることもあります。

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で [シャッフル]を選び、⊕（決定）を押す。

[シャッフル]の項目が表示されます。



3 ↑/↓でシャッフル再生したい項目を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

ビデオCD、スーパーオーディオCD、またはCDを再生しているとき

- [切]：シャッフル再生をオフにします。
- [トラック]：ディスクのトラックをシャッフル再生します。

プログラム再生を使っているとき

- [切]：シャッフル再生をオフにします。
- [入]：プログラム再生の中でシャッフル再生されます。

データCD、またはデータDVDを再生しているとき

- [切]：シャッフル再生をオフにします。
- [入]：アルバム再生の中でMP3音声トラックをシャッフル再生されます。アルバムが選ばれていない場合、最初のアルバムがシャッフル再生されます。

ご注意

- すでに再生された曲もシャッフル再生されます。

4 ⊕（決定）を押す。

シャッフル再生が始まります。

次のページへつづく

通常の再生に戻るには

クリアボタンを押すか、または手順3で[切]を選ぶ。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し画面表示ボタンを押す。

ご注意

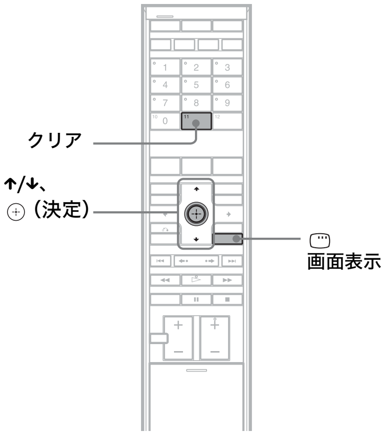
- PBC再生中のビデオCDおよびスーパー VCDではシャッフル再生はできません。

繰り返し再生する

（リピート再生）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　Super Audio CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

ディスクのすべて、または1つのタイトル/チャプター/トラック/アルバムを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます。

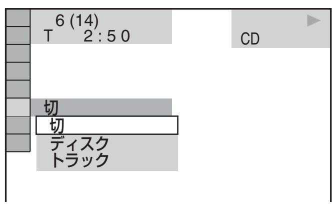


1　ディスクの再生中に 画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓ で [リピート]を選び、（決定）を押す。

[リピート]の項目が表示されます。



3 ↑/↓でリピート再生したい種類を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

DVDビデオまたはDVD-VRのとき

- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：ディスクのすべてのタイトルを繰り返し再生します。
- [タイトル]：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- [チャプター]：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

ビデオCD、スーパーオーディオCD、またはCDのとき

- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：ディスクのすべてのトラックを繰り返し再生します。
- [トラック]：再生中のトラックを繰り返し再生します。

データCD、またはデータDVDのとき

- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：ディスクのすべてのアルバムを繰り返し再生します。
- [アルバム]：再生中のアルバムを繰り返し再生します。
- [トラック]（MP3音声トラックのみ）：再生中のトラックを繰り返し再生します。

プログラム再生を使っているとき

- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：プログラム再生の中で繰り返し再生します。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ種類でリピート再生になります。

通常の再生に戻るには

クリアボタンを押すか、または手順3で[切]を選ぶ。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し画面表示ボタンを押す。

ご注意

- PBC再生のビデオCDおよびスーパー VCDではリピート再生はできません。
- MP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルを含むデータCDまたはデータDVDをリピート再生中、再生経過時間の表示が同じでない場合、音声が映像と一致しないこともあります。
- [映像音声選択モード]で[映像（JPEG）]を選んでいるときは、[トラック]を選べません。

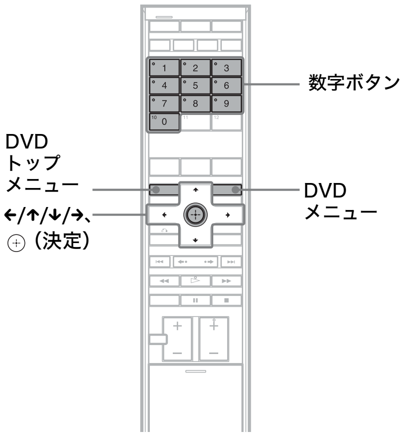
ちょっと一言

- リモコンのくり返しボタンでも操作できます。

DVDに記録されているメニューを使う

DVD-V

複数のタイトル（映像や曲）が記録されているDVDを再生するときは、DVDトップメニューボタンで好きなタイトルを選べます。ディスクの内容をメニューで選べるDVDを再生するときは、再生したい項目や字幕の言語、音声の言語などをDVDメニューボタンで選べます。



1 DVDトップメニューボタンまたはDVDメニューボタンを押す。

ディスクに記録されたメニューがテレビに表示されます。メニューの内容はディスクによって異なります。

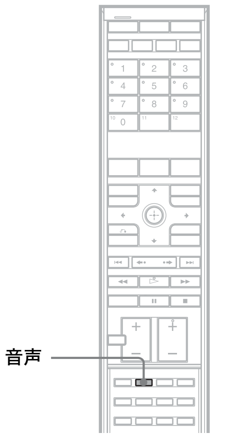
2 再生または変更したい項目を←/↑/↓/→または数字ボタンで選ぶ。

3 ⊕（決定）を押す。

音声を切り換える

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

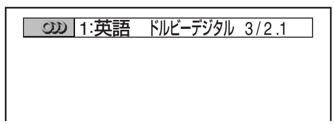
DVDビデオの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているものや、複数の音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）で録音されているものがあります。このようなDVDビデオでは、再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。
また、CD、ビデオCD、MP3音声トラック再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。カラオケのビデオCDなどで、伴奏だけを聞くこともできます。



カバーを開けた状態

1 ディスクを再生中に音声ボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。
DVDビデオの場合



2 音声ボタンを繰り返し押して、お好みの音声を選ぶ。

DVDビデオのとき

選べる言語はDVDビデオによって異なります。

4桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（134ページ）を参照してください。同じ言語が2つ以上表示されたときは、音声記録方式(音声チャンネル数など)が異なります。

DVD-VRのとき

ディスクに記録されている音声トラックの種類が表示されます。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

例：

- [1:主]：主音声
- [1:副]：副音声
- [1:主+副]：主音声+副音声
- [2:主]
- [2:副]
- [2:主+副]

ご注意

- ディスクに１つの音声しか記録されていないときは、[2:主]、[2:副]、または[2:主+副]は表示されません。

ビデオCD、CD、データCD（MP3音声トラック)、データDVD（MP3音声トラック）のとき

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- [ステレオ]：通常のステレオ再生
- [1/L]：左チャンネルの音(モノラル)
- [2/R]：右チャンネルの音(モノラル)

スーパー VCDのとき

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- [1：ステレオ]：音声トラック１のステレオ再生
- [1：1/L]：音声トラック1の左チャンネルの音（モノラル）
- [1：2/R]：音声トラック１の右チャンネルの音（モノラル）
- [2：ステレオ]：音声トラック2のステレオ再生
- [2：1/L]：音声トラック2の左チャンネルの音（モノラル）
- [2：2/R]：音声トラック2の右チャンネルの音（モノラル）

ご注意

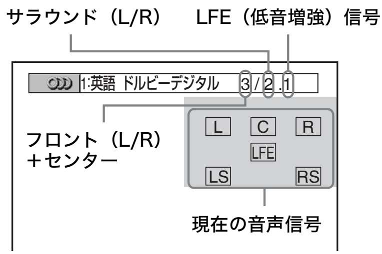
- [2：ステレオ]、[2：1/L]、または[2：2/R]を選んでいるときは、音声トラック2が記録されていないスーパー VCDを再生しても音が出ません。

音声信号の種類を調べるには（DVDビデオのみ）

ディスクの再生中に音声ボタンを繰り返し押すと、テレビに現在の音声信号の種類（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）が表示されます。

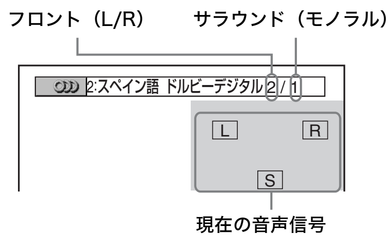
例：

ドルビーデジタル5.1chの場合



例：

ドルビーデジタル3chの場合



次のページへつづく

音声信号について

ディスクに記録されている音声信号は次のような音声チャンネルを持っています。チャンネルの音がそれぞれのスピーカーから出ます。

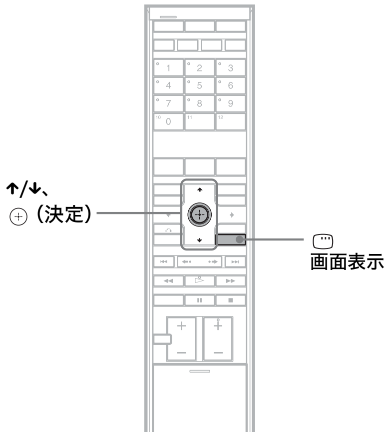
- フロント（L）
- フロント（R）
- センター
- サラウンド（L）
- サラウンド（R）
- サラウンド（モノラル）：ドルビーサラウンドサウンド処理信号、またはドルビーデジタルサウンドモノラル音声信号
- LFE（低音増強）信号

DVD-R/DVD-RWの[オリジナル]または[プレイリスト]を選んで再生する

DVD-VR

VRモードのDVD-R、またはDVD-RWの中には、以下の2種類の再生方法が選べる場合があります。

- ディスクに実際に記録される[オリジナル]のタイトルを選んで再生する
- DVDレコーダー等で編集して作成される[プレイリスト]を選んで再生する

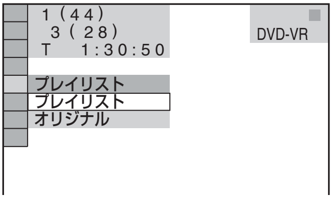


1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で[オリジナル/プレイリスト]を選び、⊕（決定）を押す。

[オリジナル/プレイリスト]の項目が表示されます。



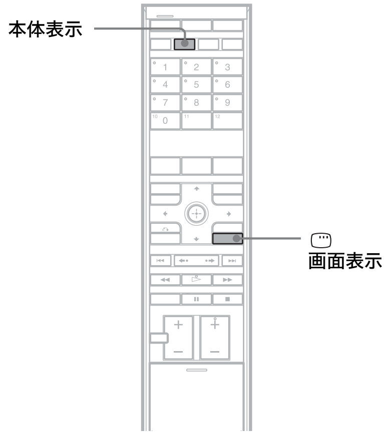
3 ↑/↓で項目を選ぶ。

- [プレイリスト]：オリジナルをもとに編集して作られたタイトルを再生します。
- [オリジナル]：記録された元のタイトルを再生します。

4 ⊕（決定）を押す。

ディスクの情報を見る

DVD-V DVD-VR VIDEO CD SuperAudioCD CD DATA-CD DATA DVD



コントロールユニットの表示窓で経過時間や残り時間を見る

コントロールユニットの表示窓で、残り時間や、DVDの総タイトル数、ビデオCD、スーパーオーディオCD、CDまたはMP3音声のトラックなどの情報を見ることができます（137ページ）。

上記の情報はアンプメニューの「INFORMATION MODE」（インフォメーションモード）が「DETAIL」に設定されているときに表示されます（57ページ）。

本体表示ボタンを押す。

ディスクの再生中に、本体表示ボタンを押すたびに、コントロールユニットの表示窓は切り換わります。

次のページへつづく

下記のような表示が確認できます

DVDビデオまたはDVD-RW再生のとき

① 現在のタイトル番号と経過時間
② 現在のタイトルの残り時間
③ 現在のチャプター番号と経過時間
④ 現在のチャプターの残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のタイトル番号とチャプター番号

ビデオCD（PBC再生中以外）、スーパーオーディオCD、またはCD再生のとき

① 現在のトラック番号と経過時間
② 現在のトラックの残り時間
③ ディスクの経過時間
④ ディスクの残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のトラック番号とインデックス* 番号

* ビデオCDのみ。

データCD（MP3音声トラック）またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

① 現在のトラック番号と経過時間
② トラックの名前（ファイル名）

ご注意

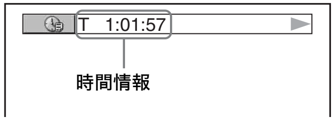
- 本機で表示されるDVDやCDのテキストはディスクの名前のみになります。
- MP3音声トラックの名前を表示できないときは、コントロールユニットの表示窓に「*」が表示されます。
- テキストによっては、ディスクやトラックの名前が表示されない場合があります。
- MP3音声トラックの経過時間は正確に表示されない場合があります。
- アルファベット文字と数字のみ表示されます。
- 再生されているディスクの種類によっては、限られた文字数までしか表示されない場合があります。

テレビで経過時間や残り時間を見る

現在のタイトル、チャプター、トラックの経過時間や残り時間、ディスクの経過時間、残り時間を見ることができます。

1 ディスクの再生中に本体表示ボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。



2 本体表示ボタンを繰り返し押して、時間情報を切り換えます。

ディスクの種類によって、時間情報の表示が切り換わります。

DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW再生のとき

- T **:**:**（時:分:秒）
  現在のタイトルの経過時間
- T－**:**:**
  現在のタイトルの残り時間
- C **:**:**
  現在のチャプターの経過時間
- C－**:**:**
  現在のチャプターの残り時間

ビデオCD（PBC再生）再生のとき

- **:**（分:秒）
  現在のシーンの経過時間

ビデオCD（PBC再生以外）、スーパーオーディオCD、またはCD再生のとき

- T **:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間
- T－**:**
  現在のトラックの残り時間

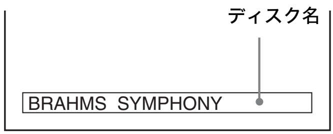
- D　**:**
  現在のディスクの経過時間
- D－**:**
  現在のディスクの残り時間

データCD（MP3音声トラック）、またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

- T　**:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間

テレビでDVD、スーパーオーディオCD、CDのテキスト情報を見る

「テレビで経過時間や残り時間を見る」（80ページ）の手順2で本体表示ボタンを繰り返し押して、DVD、スーパーオーディオCD、CDに記録されたディスク名をテレビに表示します。
ディスク名を変更することはできません。もしディスク名が記録されていないときは、テレビに「NO TEXT」と表示されます。



テレビでデータCDやデータDVD（MP3音声トラック）のテキスト情報を見る

データCDやデータDVDのMP3音声トラックを再生中に本体表示ボタンを押すと、テレビにアルバム名やトラック名、音声のビットレート（1秒あたりのデータ量）を表示できます。



* データCDやデータDVDのMP3音声トラックを再生しているときに表示されます。

ご注意

- アルファベット文字と数字のみ表示されます。
- 再生されているディスクの種類によっては、限られた文字数までしか表示されない場合があります。また、ディスクによってはすべての文字が表示されない場合があります。

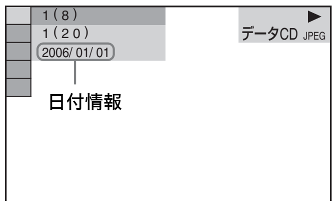
テレビで日付情報を見る

（JPEG画像ファイルのみ）

Exif*タグ情報が記録されているJPEG画像ファイルを再生しているときに、日付情報をテレビで見ることができます。

再生中に画面表示ボタンを2回押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。



* Exchangeable Image File Formatは日本電子工業振興会が制定したデジタルカメラ用画像ファイルフォーマット規格です。

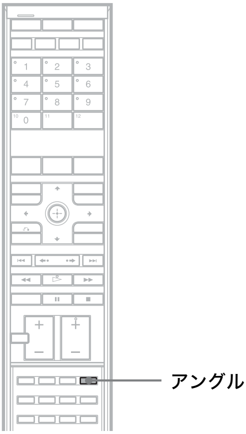
ちょっと一言

- 日付情報は[年、月、日]の順で表示されます。

アングルを切り換える

DVD-V

複数のアングル（マルチアングル）がディスクに記録されているとき、好きなアングルに切り換えることができます。



カバーを開けた状態

ディスクの再生中にアングルボタンを押す。

アングルボタンを押すたびに、アングルが変わります。

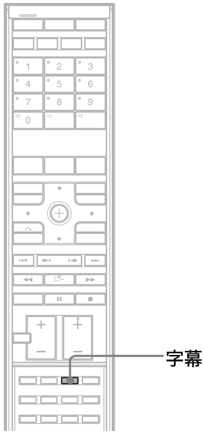
ご注意

- ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

字幕を表示する

DVD-V　DVD-VR

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり消したりできます。複数の言語（マルチランゲージ）で字幕が記録されているときは、字幕を切り換えることができます。



カバーを開けた状態

ディスクの再生中に字幕ボタンを押す。

字幕ボタンを押すたびに、字幕の言語が変わります。

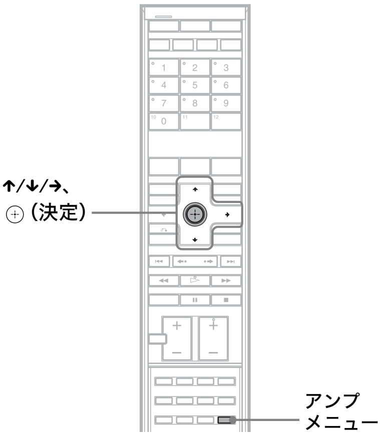
ご注意

- ディスクによっては複数の言語で字幕が記録されていても、字幕表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

音声と映像のずれを調節する
(A/V SYNC)

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD

つないだテレビによっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、ずれを調節することができます。



カバーを開けた状態

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓に「A/V SYNC」を表示させてから⊕（決定）または→を押す。**

3 **↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。**

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「OFF」（オフ）
  調節しません。
- 「SHORT」（短）
  音声と映像のずれを調節します。
  ずれの時間が短いとき、この設定にしてください。
- 「LONG」（長）
  音声と映像のずれを調節します。
  ずれの時間が長いとき、この設定にしてください。

4 **⊕（決定）を押す。**

選んだ項目が設定されます。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

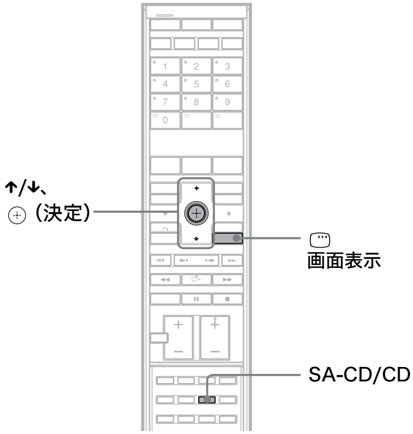
アンプメニューを終了します。

ご注意

- 入力信号によっては、この機能が使えない場合があります。
- ソニー製テレビの中には、「リップシンク」や「AVシンク」という名称で、本機と同様のA/Vシンク機能を持つものがあります。本機でA/Vシンク機能を入（「SHORT」または「LONG」）にしたときは、テレビ側でのA/Vシンク機能は切にしてください。

スーパーオーディオCDの再生のしかたを選ぶ

Super Audio CD



カバーを開けた状態

スーパーオーディオCDの再生エリアを選ぶ

スーパーオーディオCDには、2チャンネルまたはマルチチャンネルのエリアがあります（12ページ）。お好みの再生エリアを選んで再生できます。

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で [マルチ/2CH]を選び、⊕（決定）を押す。

[マルチ／2CH]の項目が表示されます。

3 ↑/↓で再生したいエリアを選んで⊕（決定）を押す。

- [マルチ]：マルチチャンネルの音声を再生します。
- [2CH]：2チャンネルの音声を再生します。

マルチチャンネルを選んでいるときは、コントロールユニットの表示窓に「MULTI」が点灯します（インフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているとき）。

ご注意

- 再生中は再生エリアを選ぶことはできません。

スーパーオーディオCDの再生レイヤーを選ぶ

スーパーオーディオCDの中には、スーパーオーディオCDレイヤーとCDレイヤーから構成されているものがあります。お好みの再生レイヤーを選んで再生できます。

ディスクの再生中は、再生を止めてからSA-CD/CDボタンを押す。

ボタンを押すたびにスーパーオーディオCDレイヤーとCDレイヤーが切り換わります。CDレイヤーを再生しているときは、コントロールユニットの表示窓に「CD」が点灯します（インフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているとき）。

ご注意

- プログラム再生、シャッフル再生、リピート再生は、選んでいる再生レイヤーにのみ有効です。
- CDレイヤーを選んでいるときは、再生エリアを選ぶことはできません。
- スーパーオーディオCDの音声信号はHDMI 出力端子からは出力できません。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

DATA-CD DATA DVD

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルとは

MP3音声トラックはISO／IEC MPEG準拠の音声圧縮技術で記録された音声データです。JPEG画像ファイルは画像圧縮技術で記録された画像データです。

本機で再生できるディスク

データCD（CD-ROM、CD-R、CD-RW）やデータDVD（DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-ROM）に記録されているMP3（MPEG 1 Audio Layer 3）音声トラックまたはJPEG画像ファイルを再生できます。
データCDはISO9660のレベル1／レベル2、それらの拡張フォーマット／Joliet、データDVDはUDF（Universal Disk Format）準拠で記録されたものが再生可能です。マルチセッション方式で記録されたディスクも再生できます。
記録方式について詳しくはCD-R／CD-RWドライブ、DVD-R／DVD-RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

マルチセッションディスクについて

MP3音声トラックまたはJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションのMP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルも再生します。
最初のセッションにCD、ビデオCDフォーマットで記録された音声または画像があるときは、最初のセッションだけを再生します。

ご注意

- 本機では、パケットライト方式で作成されたデータCDやデータDVDを再生できないことがあります。

本機で再生できるMP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

本機では次のMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生できます。

- 拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」／「.JPEG」（JPEG画像ファイル）のデータ
- DCF*画像ファイルフォーマットに適合したデータ

＊ JEITA（電子情報技術産業協会）が制定した、デジタルカメラ用画像フォーマット。

ご注意

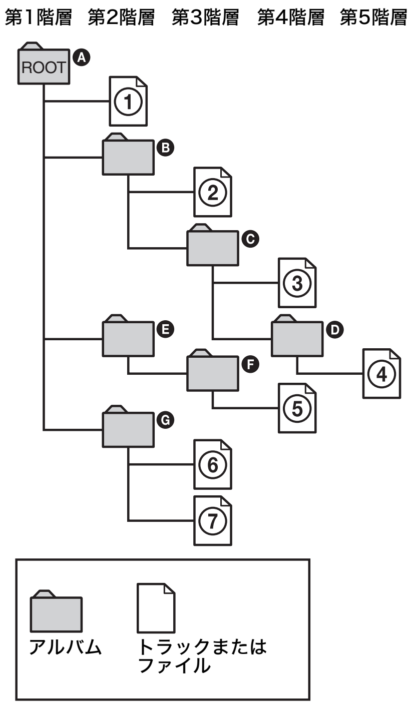
- 本機は拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」／「.JPEG」（JPEG画像ファイル）であれば、MP3音声トラックやJPEG画像ファイルのデータではなくても再生してしまい、雑音や故障の原因となります。
- 本機はMP3PROで記録された音声には対応していません。

次のページへつづく

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生する順番について

データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルは次の順番で再生します。

■ ディスク内の構造について



データCD、またはデータDVDを入れて▷を押すと、図の①から⑦の順に数字のつけられたトラック（またはファイル）を再生します。選んでいるアルバムの中のサブアルバム（トラック）は同じ階層の中にある他のアルバムより優先されます（例：Ⓒは Ⓓを含んでいるので、④は⑤よりも前に再生されます）。

DVDメニューボタンを押すと、アルバムの名前リストが表示されます。アルバムの名前は以下の順に並びます。（Ⓐ→Ⓑ→Ⓒ→Ⓓ→Ⓕ→Ⓖ）トラック（またはファイル）を含まないアルバム（例えばⒺ）は、リストに表示されません。

ご注意

- データCDやデータDVDを作成したソフトウェアによっては、イラストの順序で再生されないことがあります。
  また、アルバム数が200以上、または各アルバムのトラック数およびファイル数の合計が300以上のときは、イラストの順序で再生されないことがあります。
- 本機はディスクに記録された200番目のアルバムまで認識できます。それ以降のアルバムは再生できない場合があります。
- 次のアルバムに進むときや、他のアルバムに移動するときは再生するのに時間がかかる場合があります。
- JPEG画像ファイルの種類によっては再生できない場合があります。

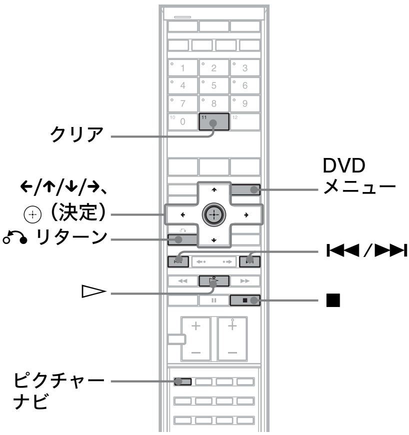
ちょっと一言

- ディスクにトラックやファイルを記録するときは、あらかじめトラックやファイル名の頭に数字(01、02、03など)を入れておくと、その数字の順番に再生することが出来ます。
- ディスクがたくさんの階層で構成されていると、読み込みに時間がかかります。

データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生する

DATA-CD　DATA DVD

本機ではデータCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生できます。



カバーを開けた状態

アルバムを選ぶ

1　データCD、またはデータDVDをコントロールユニットに入れる。

2　DVDメニューボタンを押す。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。
DVDメニューボタンを押すとアルバムのリストを表示させたり消したりできます。



アルバムがない場合は「ROOT」と表示します。

3　↑/↓で再生したいアルバムを選び▷を押す。

選んだアルバムから再生が始まります。再生されているアルバムのタイトルは影になっています。MP3音声トラックや、JPEG画像ファイルを選んで再生することもできます（88ページ）。JPEG画像ファイルのスライドショーについて、詳しくは89ページをご覧ください。

再生を止めるには

■を押す。

前後のページを表示するには

→ または ← を押す。

画面表示を消すには

DVDメニューボタンを押す。

ちょっと一言

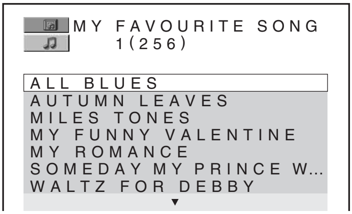
- 「音声映像選択モード」（89ページ）を設定して、再生するデータの種類（MP3音声トラックのみ、JPEG画像ファイルのみ、または両方）を選ぶことができます。

次のページへつづく

MP3音声トラックを選ぶ

1 「アルバムを選ぶ」（87ページ）の手順2のあとで、↑/↓で再生したいアルバムを選び、⊕（決定）を押す。

テレビに、選んだアルバムの中のトラックのリストが表示されます。



2 ↑/↓で再生したいトラックを選び、⊕（決定）を押す。

選んだトラックを再生します。
DVDメニューボタンを押してトラックリストの表示を消すこともできます。
DVDメニューボタンを再び押すとアルバムリストが表示されます。

再生を止めるには

■を押す。

前後のページを表示するには

→ または ← を押す。

前の画面表示に戻るには

⤺ リターンボタンを押す。

画面表示を消すには

DVDメニューボタンを押す。

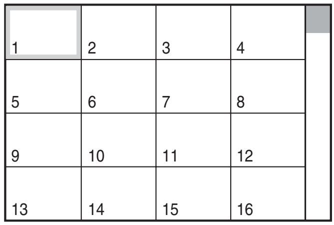
次または前のMP3音声トラックを再生するには

再生中に⏮または⏭を押す。
再生中のアルバムの最後のトラックで⏭を押すと、次のアルバムの最初のトラックを選べます。
⏮で前のアルバムのトラックに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバム一覧からアルバムを選びます。

JPEG画像ファイルを選ぶ

1 「アルバムを選ぶ」（87ページ）の手順2のあとで、↑/↓で再生したいアルバムを選び、ピクチャーナビボタンを押す。

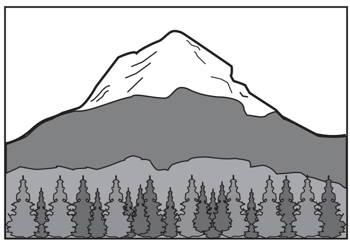
テレビに、選んだアルバムの中の画像が16コマのスクリーンで表示されます。



ちょっと一言

- スクロールボックスがスクリーン右側に表示されます。ほかの画像を表示するには最下段のコマを選び↓を押します。戻るには最上段のコマを選び↑を押します。

2 ←/↑/↓/→で表示したい画像を選び、⊕（決定）を押す。

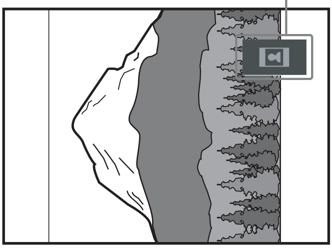


次または前のJPEG画像ファイルを表示するには

再生中に ➔ または ← を押す。
再生中のアルバムの最後のファイルで ➔ を押すと、次のアルバムの最初のファイルを選べます。
← で前のアルバムのファイルに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバム一覧からアルバムを選びます。

JPEG画像ファイルを回転するには

JPEG画像ファイルが画面に表示されているときに、↑/↓ を押す。
↑ を押すたびごとに、画像は反時計回りに90度ずつ回転します。
↑ を1度押したときの例：



通常の画面に戻るにはクリアボタンを押します。

再生を止めるには

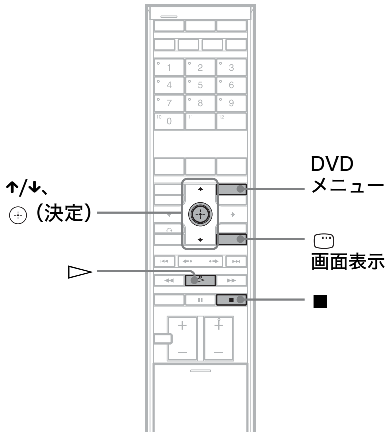
■を押す。

JPEG画像ファイルをスライドショーとして楽しむ

DATA-CD DATA DVD

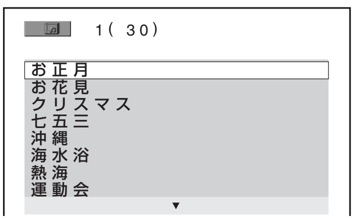
データCDまたはデータDVDに含まれているJPEG画像ファイルをスライドショー＊として再生することができます。

＊ スライドショーとは、テレビに複数のJPEG画像ファイルを自動的に切り換えながら表示する機能です。



1 DVDメニューボタンを押す。

データCDまたはデータDVDに記録されているアルバムの一覧が表示されます。



ディスク再生—いろいろな機能

次のページへつづく

2 ↑/↓ で再生したいアルバムを選ぶ。

3 ▷ を押す。

選んだアルバムのJPEG画像ファイルのスライドショーが始まります。

再生を止めるには

■を押す。

ご注意

- [音声映像選択モード]が[音声(MP3)]に設定されていると、この機能は使用できません。

スライドショーを音声つきで再生する

データCDまたはデータDVDの同じアルバムの中にMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを一緒に入れて、スライドショーを楽しめます。

1 データCDまたはデータDVDをコントロールユニットに入れる。

2 ■ボタンを押す。

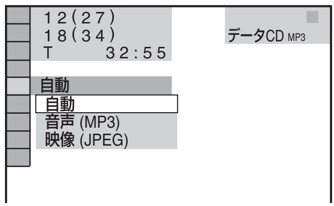
再生を止めます。

3 画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

4 ↑/↓で [音声映像選択モード]を選び、⊕(決定)を押す。

[音声映像選択モード]の項目が表示されます。



5 ↑/↓で設定を選び、⊕(決定)を押す。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [自動]：同じアルバムの中にあるJPEG画像ファイルとMP3音声トラックをスライドショーとして再生します。

- [音声（MP3)]：MP3音声トラックのみ続けて再生します。
- [映像（JPEG)]：JPEG画像ファイルのみスライドショーとして表示します。

6 DVDメニューボタンを押す。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。

7 ↑/↓でアルバムを選び、▷を押す。

本機は選んだアルバムの再生を始めます。

DVDメニューボタンを押してアルバムリストを表示したり消したりすることができます。

ご注意

- 同じアルバムの中にMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを入れないと、音声つきスライドショーはできません。
- [音声映像選択モード]にて、MP3音声トラックのみ記録されているディスクを[映像（JPEG）]にしても、またJPEG画像ファイルのみ記録されているディスクの設定を[音声（MP3）]にしても、[音声映像選択モード]は変更されない場合があります。
- [音声（MP3)]を選んでいるときは、ピクチャーナビボタンは使えません。
- 大容量のMP３音声トラックとJPEG画像ファイルを同時に再生しようとすると、音飛びする場合があります。ファイルを作るときには、MP3音声トラックのビットレートを128kbps以下に設定されることをおすすめします。それでも音飛びする場合は、JPEG画像ファイルのデータを小さくしてください。

ちょっと一言

- [自動]を選んでいるときは、1枚のアルバムの中で300のMP3音声トラックと300のJPEG画像ファイルを読み込めます。[音声（MP3)]または[映像（JPEG)]を選んでいるときは、１枚のアルバムの中で600のMP3音声トラック、または600のJPEG画像ファイルを読み込めます。設定にかかわらず、最大200アルバムまで読み込めます。

スライドショーの表示間隔を変える

（JPEG画像ファイルのみ）

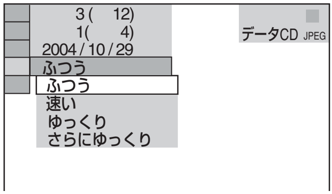
JPEG画像ファイルをスライドショーを使って表示するときに、画像の表示間隔を変えることができます。

1 画面表示ボタンを２回押す。

テレビに、JPEG画像ファイルのコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で [スライド送り時間]を選び、⊕（決定）を押す。

[スライド送り時間]の項目が表示されます。



3 ↑/↓で設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [ふつう]：6〜9秒の表示間隔です。
- [速い]：[ふつう]よりも表示間隔が短くなります。
- [ゆっくり]：[ふつう]よりも表示間隔が長くなります。
- [さらにゆっくり]：[ゆっくり]よりも表示間隔が長くなります。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

ご注意

- JPEG画像ファイルによっては、選んだ表示間隔よりも長く時間がかかる場合があります。特に300万ピクセル以上のプログレッシブJPEG画像ファイルやJPEG画像ファイルを表示する場合に長い時間がかかります。

次のページへつづく

スライドショーの効果を選ぶ

（JPEG画像ファイルのみ）

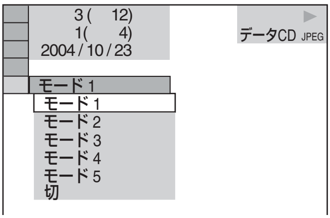
JPEG画像ファイルをスライドショーで表示するときの効果を選べます。

1 **画面表示ボタンを２回押す。**

テレビに、JPEG画像ファイルのコントロールメニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓で [スライド効果]を選び、⊕（決定）を押す。**

[スライド効果]の項目が表示されます。



3 **↑/↓で設定を選ぶ。**

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [<u>モード1</u>]：画像が上から下に向かって表示されます。
- [モード2]：画像が左から右に向かって表示されます。
- [モード3]：画像が画面中央から外側に向かって表示されます。
- [モード4]：ランダムに選ばれたスライド効果が適用されます。
- [モード5]：次の画像が前の画像に重なって表示されます。
- [切]：スライド効果を使いません。

4 **⊕（決定）を押す。**

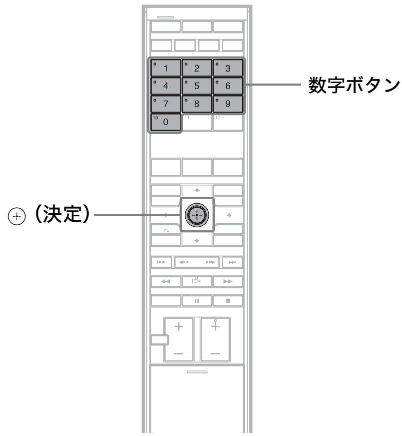
選んだ項目が設定されます。

プレイバックコントロール機能（Ver. 2.0）を使う

（PBC再生）

VIDEO CD

PBC（Playback（プレイバック） Control（コントロール））機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、テレビに表示される選択用のメニューにしたがってビデオCDの再生を進めていくことです。



1 **PBC対応ビデオCDを再生する。**

テレビに、選択用のメニュー画面が表示されます。

2 **メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を数字ボタンで選ぶ。**

3 **⊕（決定）を押す。**

4 テレビに表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

操作の方法はディスクによって異なることがありますので、ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻るには

リターンボタンを押す。

ご注意

- ディスクによっては手順3で⊕（決定）を押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは▷を押してください。

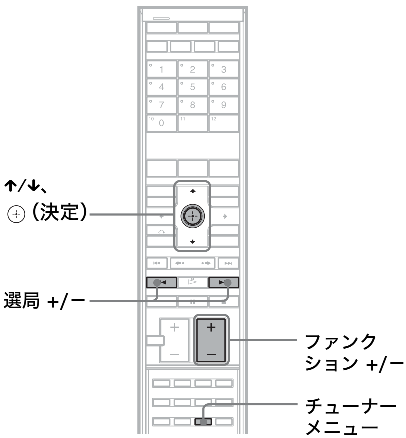
ちょっと一言

- PBC機能を使わないで再生するときは、停止中、⏮や⏭、または数字ボタンを押して再生したいトラックを選んでから、▷または⊕を押します。通常の再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。
  PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう一度■を押してから▷を押して再生を始めます。

ラジオ

放送局を登録する
（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局登録できます。受信を始める前に、音量を最小にしてください。



カバーを開けた状態

1　ファンクション+/−ボタンを繰り返し押して、「FM」か「AM」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

2　選局+/−ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

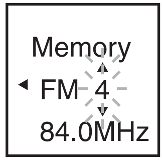
周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。コントロールユニットの表示窓に「TUNED」、「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します（インフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているとき）。

3　チューナーメニューボタンを押す。

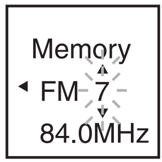
4　↑/↓を繰り返し押して、「Memory?」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

5　⊕（決定）を押す。

プリセット番号がコントロールユニットの表示窓に表示されます。



6　↑/↓でプリセット番号を選ぶ。



7　⊕（決定）を押す。

放送局が登録されます。



8　チューナーメニューボタンを押す。

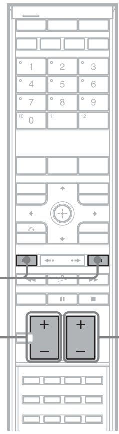
9 手順1〜8を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順1から操作をする。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する」（94ページ）で放送局を登録しておいてください。



カバーを開けた状態

1 ファンクション+/−ボタンを繰り返し押して、「FM」か「AM」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 プリセット+ボタンまたはプリセット−ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

3 音量+/−ボタンを押して、音量を調節する。

ラジオを消すには

電源ボタンを押す。

次のページへつづく

登録していない放送局を聞くには

手順2で手動または自動で受信します。
手動受信は、リモコンの選局＋または－を繰り返し押す。
自動受信は、リモコンの選局＋または－を押し続ける。自動受信を止めるときは選局＋または－を押す。

周波数を知っている放送局を聞くには

手順2でダイレクト選局機能を使います。

1 ダイレクト選局ボタンを押す。
2 数字ボタンを使って、聞きたい放送局の周波数を選ぶ。
3 ⊕（決定）を押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。
- FM放送の受信状態が良くないときは、インフォメーションモード（57ページ）を「DETAIL」に設定して、FMモードボタンを押して「MONO」をコントロールユニットの表示窓に表示させます。モノラルになりますが聞きやすくなります。ステレオに戻すにはもう一度FMモードボタン押します。（または、チューナーメニューボタンを押し、↑/↓ボタンで「FM Mode?」を選び、⊕（決定）を押します。それから、↑/↓で「MONO」を選び、⊕（決定）を押します。ステレオに戻すには「STEREO」を選びます。）

登録した放送局に名前をつけるには

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前は、放送局が選ばれたときにコントロールユニットの表示窓に表示されます（「XYZ」など）。
それぞれの登録した局には、ひとつの名前しか登録できません。
文字は8文字まで入力できます。

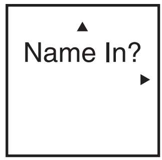
1 ファンクション＋/－ボタンを繰り返し押して、「FM」か「AM」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

最後に受信した放送局を受信します。

2 プリセット＋ボタンまたはプリセット－ボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を受信する。

3 チューナーメニューボタンを押す。

4 ↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓に「Name In?」を表示させる。



5 ⊕（決定）を押す。

6 カーソルボタンを使って名前をつける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←または→を押し、↑/↓で正しい文字を選びます。文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、クリアボタンを押します。

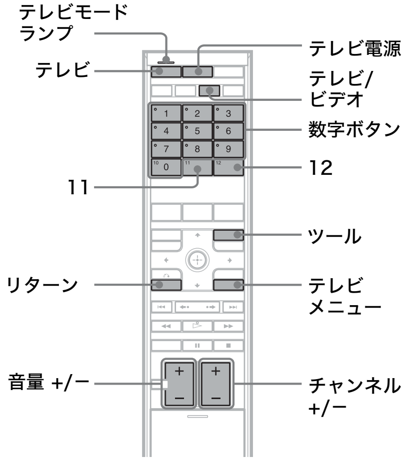
7 ⊕（決定）を押す。

コントロールユニットの表示窓に「Complete」が表示され、放送局の名前が登録されます。

8 チューナーメニューボタンを押す。

付属のリモコンでテレビを操作する

本機のリモコンでお手持ちのソニー製テレビの操作ができます。



ご注意

- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に001（ソニー）に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせ直してください。

リモコンでテレビの操作をする

リモコンのテレビ電源ボタンを押したまま、数字ボタンでテレビのメーカー番号（3桁）を続けて入力し、その後、テレビ電源ボタンをはなす。

メーカー番号が設定されると、テレビモードランプがゆっくり2度点滅します。
設定に失敗するとテレビモードランプがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやり直してください。

メーカー番号について

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものを選んでください。

テレビ

メーカー	メーカー番号
SONY	501（初期設定）、502
AIWA	501, 536, 539
AKAI	503
DAEWOO	503, 504, 505, 506, 507, 515
FUJITSU	528
FUNAI	548
GENERAL ELECTRIC	503, 509, 510
GOLDSTAR/LG	503, 512, 515, 517, 568, 576
HITACHI	503, 513, 514, 515, 517, 557
VICTOR	516, 552
MARANTZ	527
MITSUBISHI	503, 519, 527, 566, 568
NEC	503, 520, 527, 554
PANASONIC	509, 524, 553, 572
PHILIPS	515, 518, 557
PIONEER	509, 525, 526, 551, 555
SAMSUNG	503, 515, 517, 531, 532, 534, 556, 557, 566, 569, 574
SANYO	508, 545, 546, 567
SHARP	517, 535, 550, 565
TOSHIBA	535, 539, 540, 541, 551

次のページへつづく

テレビを操作する

以下のボタンでテレビの操作ができます。

押すボタン	できること
テレビ電源	テレビの電源を入／切する。
テレビ/ビデオ	テレビの入力を切り換える。
音量+/ー*	テレビの音量を調節する。
チャンネル+/ー*	テレビのチャンネルを選ぶ。
数字ボタン*、11*、12*	テレビのチャンネルを選ぶ。
ツール*	操作メニューを表示する
リターン*	一つ前のチャンネルに戻る
テレビメニュー *	テレビのメニューを表示する

* これらのボタンはリモコンがテレビモードのときにテレビ操作用に使うことができます。テレビモードとは、テレビボタンを押してテレビモードランプが点灯中の状態です。しばらく操作しないとテレビモードランプは自動的に消えます。

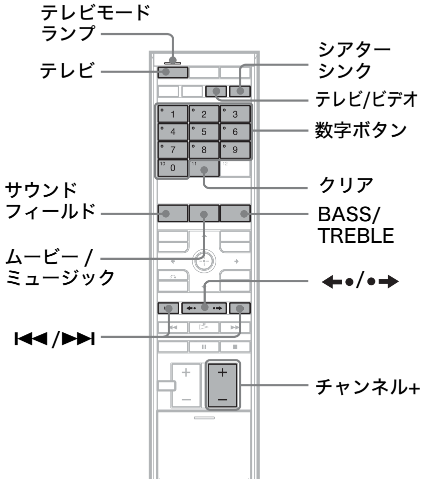
ご注意

- テレビによっては操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- 数字ボタンでの選局は12チャンネルまでになります。

ボタン1つでDVDを見られるようにする

（シアターシンク機能）

ソニー製テレビをお使いの場合、シアターシンクボタンを1度押すだけで、テレビの電源が入り、本機をDVDファンクションにし、テレビの入力を切り換えることができます。



設定する

テレビの入力（本機をつないだ入力）を登録します。

テレビ/ビデオボタンを押しながら、数字ボタンを使ってテレビの入力を選ぶ。

設定されると、テレビモードランプがゆっくり2度点滅します。設定に失敗するとテレビモードランプがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやり直してください。

下記の表から、本機をつないでいる入力を選びます。

テレビ/ビデオボタンを押しながら	➡	押す数字ボタン	テレビの入力
		0	選びません（初期設定）
		1	ビデオ1
		2	ビデオ2
		3	ビデオ3
		4	ビデオ4
		5	ビデオ5
		6	ビデオ6
		7	ビデオ7
		8	ビデオ8
		9	コンポーネント1入力
		クリア	コンポーネント2入力
		サウンドフィールド	コンポーネント3入力
		ムービー/ミュージック	コンポーネント4入力
		BASS/TREBLE	HDMI 1
		⏮	HDMI 2
		←•	HDMI 3
		•→	HDMI 4
		⏭	HDMI 5

操作する

テレビとコントロールユニットにリモコンを向けて、シアターシンクボタンを押す。

リモコンから送信中はテレビモードランプが点滅します。機能しない場合は、下記のようにリモコンから信号を送信する時間を変えてみてください。

信号の送信時間を変えるには

チャンネル+ボタン*を押しながら、数字ボタンを使って、送信時間を選ぶ。
設定されると、テレビモードランプがゆっくり2度点滅します。設定に失敗するとテレビモードランプがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやり直してください。

下記の表から、送信時間を選びます。

チャンネル+ボタンを押しながら	➡	押す数字ボタン	送信時間
		1	0.5（初期設定）
		2	1
		3	1.5
		4	2
		5	2.5
		6	3
		7	3.5
		8	4

* ファンクション＋ボタンを代わりに使うこともできます。

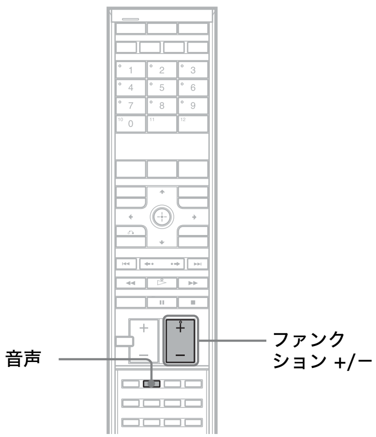
ご注意

- シアターシンク機能は、ソニー製テレビにのみ機能します（ソニー製テレビでも機能しないモデルもあります）。
- テレビとコントロールユニットが離れていると、機能しない場合があります。その場合は、テレビと本機を近づけて設置してください。
- リモコンから信号を送信している間は、リモコンをテレビ、コントロールユニットに向けたままにしておいてください。

デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタルコード（別売り）もしくは同軸デジタルコード（別売り）でつないでください（47、49ページ）。
また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも 「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上が確認された上で、下記の操作を行ってください。



カバーを開けた状態

AACの音声を聞く

ファンクション＋/ーボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「TV」「VIDEO 1」、または「VIDEO 2」を表示させる。

AAC音声信号を出力している機器をつないだファンクションを選びます。
AAC音声信号を認識すると、コントロールユニットの表示窓に「AAC」が点灯しAAC音声を聞くことができます。

ご注意
- 44、48ページの接続で、ステレオ音声コード（別売り）での接続では、AAC音声は楽しめません。

2ヶ国語放送の音声を切り換える

AACが2ヶ国語放送の場合、主音声と副音声を切り換えることができます。

音声ボタンを押す。

音声ボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させます。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。
- 「MAIN」（主音声）
  主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）
  副音声のみを再生します。
- 「MAIN＋SUB」（主＋副）
  主音声と副音声が合成された音声を再生します。

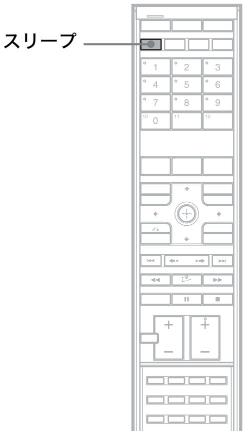
ちょっと一言
- DVD-RWにVRモードで記録された2ヶ国語放送も、この設定で楽しむことができます。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。
時間は10分間隔で設定することができます。

ご注意

- ACアダプターの電源は切れません。



スリープボタンを押す。

スリープボタンを押すごとに、設定時間が変わり、コントロールユニットの表示窓に表示されます。

Sleep 90min（90分）
↓
Sleep 80min（80分）
↓
⋮
Sleep 10min（10分）
↓
Sleep Off

タイマーがセットされるとコントロールユニットの表示窓に「◷」が点灯します。

設定時間を確認するには

スリープボタンを一度押す。

経過時間を変えるには

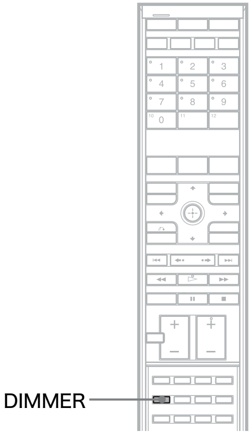
スリープボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更する。

スリープタイマー機能を解除するには

スリープボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「Sleep Off」を表示させる。

コントロールユニットの表示窓の明るさを調節する

コントロールユニットの表示窓やランプなどの明るさを調節することができます。



カバーを開けた状態

1 DIMMERボタンを押す。

DIMMERボタンを押すたびにコントロールユニットの表示窓やランプなどの明るさが変わります。

Dimmer off：明るい
↓
Dimmer 1：やや暗い
↓
Dimmer 2：暗い（ランプは消灯）

ディスクの再生を制限する

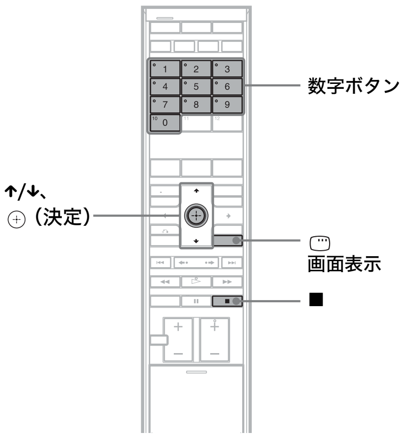
（カスタム視聴制限、視聴制限）

DVD-V　VIDEO CD　Super Audio CD　CD

本機には、ディスクの再生を制限する次の2種類の機能があります。

- カスタム視聴制限
  本機で特定のディスクを再生できないようにする。
- 視聴制限
  視聴制限つきDVDビデオの再生できるシーンを制限する。

カスタム視聴制限も視聴制限も、登録した同じ暗証番号を使って設定します。



カスタム視聴制限—設定する

登録した同じ暗証番号を使って、40枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。41枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

1 設定したいディスクを入れる。

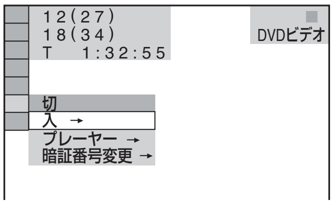
ディスクの再生中は、■を押して再生を止めます。

2 停止中に画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓で[視聴制限]を選び、⊕（決定）または→を押す。

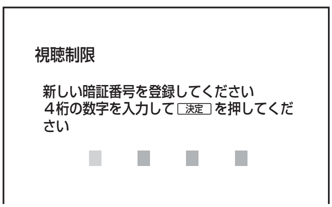
[視聴制限]の選択項目が表示されます。



4 ↑/↓で[入→]を選び、⊕（決定）を押す。

暗証番号が登録されていないとき

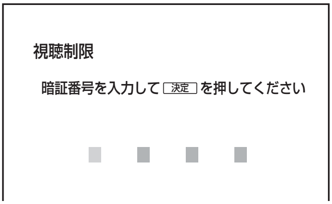
暗証番号登録の画面が表示されます。



次のページへつづく

数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕を押します。
暗証番号確認の画面が出ます。

暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号入力の画面が出ます。



5 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

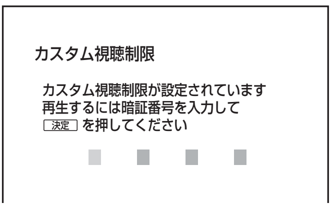
テレビに、[カスタム視聴制限を設定しました]と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

カスタム視聴制限を解除するには

1 「カスタム視聴制限―設定する」の手順1から3までを行う。
2 ↑/↓で[切 →]を選び、⊕（決定）を押す。
3 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

カスタム視聴制限を設定したディスクを再生するには

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。
カスタム視聴制限の画面が表示されます。



2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
再生できる状態になります。

ちょっと一言

- 暗証番号を忘れてしまったときは、カスタム視聴制限の画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力し、⊕（決定）を押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

視聴制限―設定する

（DVDビデオのみ）

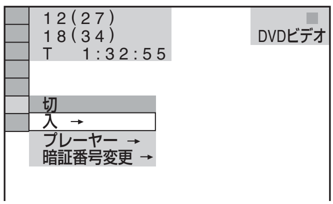
DVDビデオの中には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって視聴を制限できるものがあります。視聴制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから 画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で [視聴制限]を選び、⊕（決定）または→を押す。

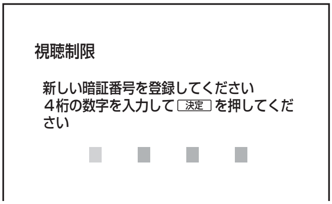
[視聴制限]の選択項目が表示されます。



3 ↑/↓で[プレーヤー →]を選び、⊕（決定）を押す。

暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。

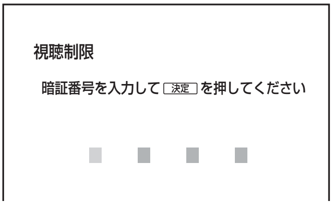


数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕を押します。

暗証番号確認の画面が出ます。

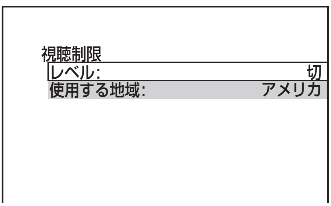
暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。



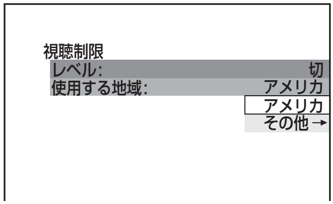
4 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

視聴制限のレベル設定の画面が表示されます。



5 ↑/↓で[使用する地域]を選び、⊕（決定）を押す。

[使用する地域]の選択項目が表示されます。

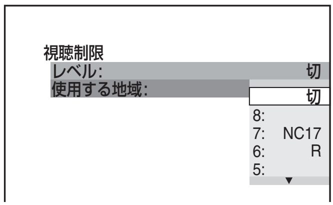


6 ↑/↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選び、⊕（決定）を押す。

[その他→]を選んだときは、135ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

7 ↑/↓で[レベル]を選び、⊕（決定）を押す。

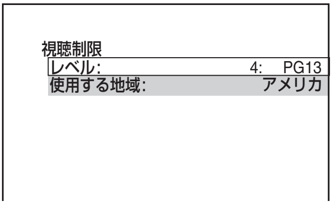
[レベル]の選択項目が表示されます。



次のページへつづく

8 ↑/↓で視聴制限レベルを選び、⊕（決定）を押す。

視聴制限の設定が終了します。



レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

視聴制限を解除するときは

手順8で[レベル]を[切]にする。

視聴制限されたディスクを再生するには

1 ディスクを入れて、▷を押す。
視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。

2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
再生が始まります。

ご注意

- 視聴制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- DVDによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。
つづき再生機能（71ページ）が解除されると、設定した元のレベルに戻ります。

ちょっと一言

- 登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「カスタム視聴制限―設定する」の手順1～3にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力して⊕ボタンを押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を登録する案内が表示されます。
新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、▷を押します。暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入れます。

暗証番号を変更するには

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で[視聴制限]を選び、⊕（決定）を押す。

[視聴制限]の選択項目が表示されます。

3 ↑/↓で[暗証番号変更→]を選び、⊕（決定）を押す。

暗証番号入力の画面が表示されます。

4 数字ボタンを使って4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

5 数字ボタンを使って新しい4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

6 確認のために、数字ボタンを使って暗証番号を再度入力し、⊕（決定）を押す。

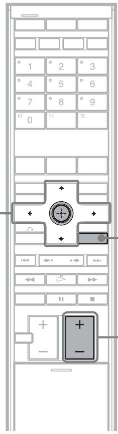
暗証番号の入力を間違えたときは

⊕（決定）を押す前に←を押して、正しい数字を入力する。

自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正機能））によって自動的に最適なサラウンドサウンドを設定します。

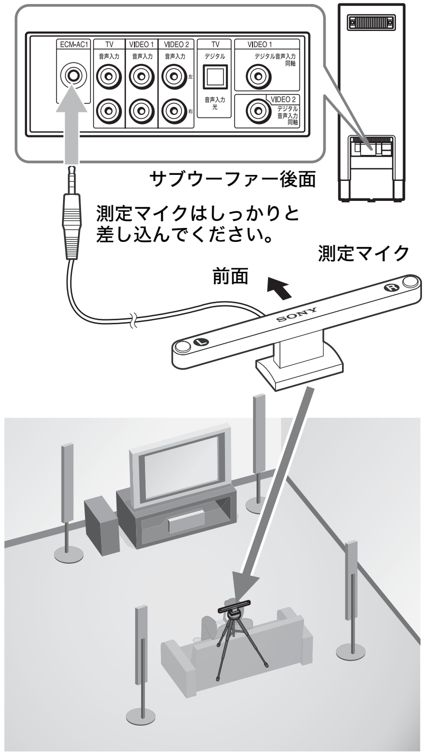


ご注意

- [自動音場補正]が始まると大きな測定音が出ます。測定中は音量の調整ができません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。

1 サブウーファー後面のECM-AC1端子に測定マイクをつなぎ、視聴する位置で耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定する。

スピーカーとマイクの間に障害物などがないようにしてください。また、測定マイクの「FRONT」側が前面に向くように設置してください。



ご注意

- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- ECM-AC1端子に付属の測定マイク以外のマイクをつながないでください。

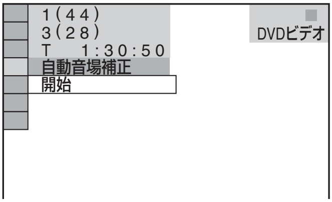
次のページへつづく

2 **ファンクション＋/－ボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「DVD」を表示させる。**

3 **停止中に画面表示ボタンを押す。**

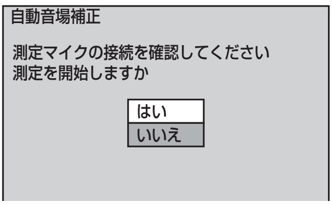
テレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

4 **↑/↓で [自動音場補正]を選ぶ。**



5 **(決定）を押す。**

テレビに[自動音場補正]の設定画面が表示されます。



6 **↑/↓で[はい]を選び、(決定）を押す。**

[自動音場補正]が始まります。

測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。



ご注意

- 測定中（約1分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリア）（36ページ）の外側に出てください。
- エラーが表示されたら、メッセージにしたがい、[はい]を選んでください。
  エラーメッセージは以下のときに表示されます。
  - 測定マイクがつながれていない。
  - 測定マイクのジャックが奥まで入っていない。
  - フロントスピーカー／サラウンドスピーカーが正しくつながれていない。
  - 測定マイク周辺がうるさい。
  - 測定マイクに過度の音が入る。

7 **←/↑/↓/→で[はい]または[いいえ]を選び、(決定）を押す。**

測定の終了

測定マイクを抜き、[はい]を選びます。

測定結果が反映されます。



ご注意

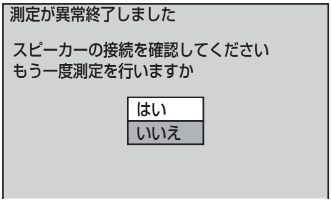
- 壁や床の反響が測定に影響し、実際と異なる結果が出ることがあります。

ちょっと一言

- サラウンドスピーカー L（左）を右側に設置していた場合、アンプメニューの「SL SR REVERSE」設定（120ページ）は自動的に「ON」に設定されます。

測定の異常終了

メッセージにしたがい[はい]を選び、もう一度測定を行います。



ご注意

- 自動音場補正中は以下の操作を行わないでください。
  - 電源を切る。
  - ボタンを押す。
  - 音量を変える。
  - ファンクションを切り換える。
  - ディスクを変える。
  - 測定マイクを抜く。

ちょっと一言

- 視聴位置とスピーカーの距離や、スピーカー接続を確認することできます。詳しくは117ページをご覧ください。

エラーが出たときは

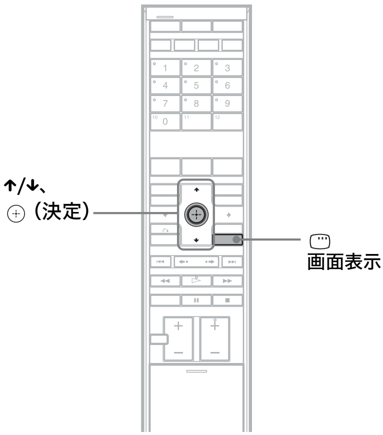
[自動音場補正]測定中にエラーメッセージが表示されたときは、以下の表の「原因と対策」をご覧ください。

エラーメッセージ	原因と対策
測定用マイクの接続を確認してください	どのチャンネルからも音が検出できませんでした。測定用マイクが正しくつながれていることを確認し、再測定してください。 マイクが正しくつながれている場合は、測定用マイクのコードが断線していることが考えられます。
測定用マイクの入力レベルが過大です	測定用マイクまたは本機の故障が考えられます。 お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様相談センターにお問い合わせください。
フロントスピーカーの接続を確認してください	フロントスピーカーがつながれていません。フロントスピーカーが正しくつながれているか確認してください（29ページ）。
サラウンドスピーカーの接続を確認してください*	サラウンドスピーカーが1本しかつながれていません。サラウンドスピーカーが正しくつながれているか確認してください（29ページ）。
フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの接続を確認してください	フロントスピーカーがつながれておらず、サラウンドスピーカーが1本しかつながれていません。それぞれのスピーカーが正しくつながれているか確認してください（29ページ）。
フロントスピーカーが左右逆に設置されています。	フロントスピーカーが正しい位置に設置されていません。左右が逆になっているなどが考えられます。フロントスピーカーが正しくつながれているか確認してください（29ページ）。 また、測定用マイクが左右逆になっている場合は、正しく設置してください。

* サラウンドスピーカーから測定用のサウンドが出力されないときは、ワイヤレスシステムの調整を行ってください。詳しくは「ワイヤレスシステムの調整をする」（37ページ）をご覧ください。

設定画面を使う

DVDファンクション時、テレビに表示される設定画面を使って、画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。設定画面の項目の一覧は142ページをご覧ください。



ご注意

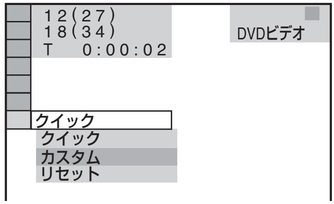
- あらかじめ再生条件が設定されているディスクがあります。その場合はディスクに記録されている情報が有効になります。

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

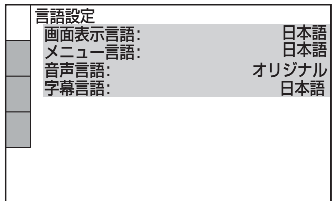
2 ↑/↓で [設定]を選び、⊕（決定）を押す。

[設定]の選択項目が表示されます。



3 ↑/↓で[カスタム]を選び、⊕（決定）を押す。

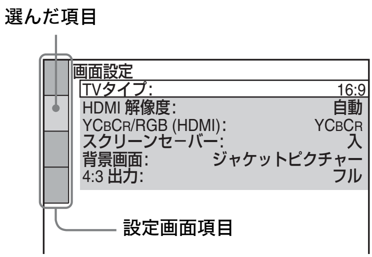
設定画面が表示されます。



4 ↑/↓で[言語設定]、[画面設定]、[視聴設定]、[スピーカー設定]の中から設定したい項目を選び、⊕（決定）を押す。

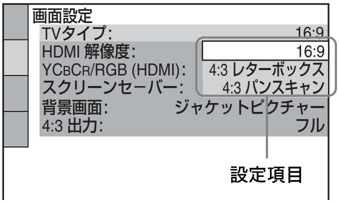
選んだ項目の画面が表示されます。

例：[画面設定]



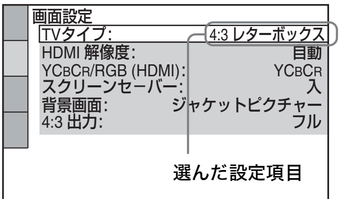
5 ↑/↓で項目を選び、⊕（決定）を押す。

項目の設定項目が一覧表示されます。
例：[TVタイプ]



6 ↑/↓で設定項目を選び、⊕（決定）を押す。

設定項目が選ばれ、設定が終了します。

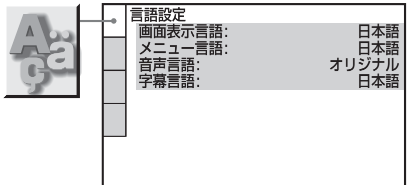


表示言語や音声言語の設定をする

（言語設定）

画面や音声の言語を設定することができます。

設定画面で[言語設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（110ページ）をご覧ください。



■ 画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

■ メニュー言語（DVDビデオのみ）

メニューの言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ 音声言語（DVDビデオのみ）

音声の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
[オリジナル]を選んだときは、ディスクで優先されている言語が選ばれます。

■ 字幕言語（DVDビデオのみ）

字幕の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
[音声連動]を選んだときは、字幕言語は、音声の言語に合わせて切り換わります。

ご注意

- [メニュー言語]、[音声言語]、[字幕言語]で選んだ言語がDVDビデオに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます。（ディスクによっては自動で言語が選ばれないものがあります。）

次のページへつづく

ちょっと一言

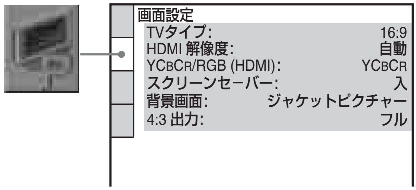
- [メニュー言語]、[音声言語]、[字幕言語]で[その他→]を選んだときは、言語コード一覧表（134ページ）から言語コードを選び入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

画像に関する設定をする

（画面設定）

つないだテレビに合わせて画像に関する設定ができます。お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で[画面設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（110ページ）をご覧ください。

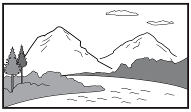


■TVタイプ

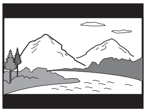
つないだテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは4：3画面テレビ）を設定します。

<u>16:9</u>	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき。
4:3 レターボックス	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。
4:3 パンスキャン	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示します。

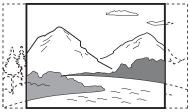
16:9



4:3 レターボックス



4:3 パンスキャン



ご注意

- DVDによっては[4:3レターボックス]あるいは[4:3パンスキャン]に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ HDMI解像度

HDMI 出力端子から出力される映像信号の解像度を選びます。[自動]（お買い上げ時の設定）に設定すると、つないだテレビが対応できる最も高い解像度で出力します。もし映像が鮮明でない場合は、お使いのテレビやプロジェクターなどに合わせて設定を変えてください。詳しくは、テレビやプロジェクターの取扱説明書をご覧ください。

自動	通常はこの設定にします。
1920 × 1080i	1125i(1080i)の映像信号を出力します。
1280 × 720p	750p(720p)の映像信号を出力します。
720 × 480p	525p(480p)の映像信号を出力します。

上の表の中で、iはインターレース、pはプログレッシブの略称です。カッコ内の数字は、有効走査線数で数えたときの別称です。

ご注意

- [自動]以外の設定を選んでいて、お使いのテレビがその解像度を受けられなかったときは、本機はテレビが信号を受けられるように自動的に調節します。

■ YCBCR/RGB (HDMI)

HDMI 出力端子から出力される映像信号の種類を選びます。

YCBCR	YCBCR信号を出力します。
RGB	RGB信号を出力します。

ご注意

- 画像が乱れる場合は［RGB］に設定してください。
- DVI端子とつないでいるときは、設定に関係なくRGB信号を出力します。

■ スクリーンセーバー

本機を操作しない状態で15分以上経過するか、スーパーオーディオCD、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）を15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。▷ を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

入	スクリーンセーバーを使います。
切	スクリーンセーバーを使いません。

■ 背景画面

停止中やスーパーオーディオCD、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

ジャケットピクチャー	ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にします。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、「グラフィックス」の画像が表示されます。
グラフィックス	あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にします。
青	画面の背景色を「青」にします。
黒	画面の背景色を「黒」にします。

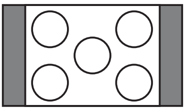
次のページへつづく

■4:3出力

縦横比の設定を変えることができない16:9のプログレッシブ対応テレビなどで、縦横比4:3のプログレッシブ信号が正しい縦横比で表示されないときに、設定することができます。テレビで縦横比を変えることができるときは、本機ではなくテレビ側で設定を変更してください。

この設定は、[画面設定]で[TVタイプ]を[16:9]に設定したときに有効です。

フル	お使いのテレビで縦横比が変えられるときに選んでください。
ノーマル	お使いのテレビで縦横比が変えられないときに選んでください。16:9の縦横比で、画像の左右に黒い帯がある状態で映し出されます。


縦横比16:9のテレビ画面

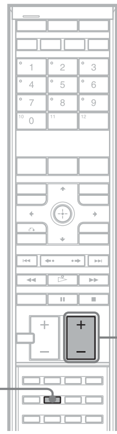
ご注意

- この設定はHDMI出力端子からの出力と、D2映像出力端子からのプログレッシブ出力（114ページ）に対してのみ有効です。

映像をプログレッシブ信号で出力する

お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している場合は、以下の設定で高画質な映像を楽しむことができます。

本機がプログレッシブ信号を出力しているときは、コントロールユニットの表示窓に「PROGRE」が点灯します（インフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているとき）。



カバーを開けた状態

1 ファンクション+/−ボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「DVD」を表示する
2 インフォメーションモード（57ページ）を「DETAIL」に設定する。
3 プログレッシブボタンを押す。
プログレッシブボタンを押すたびに、コントロールユニットの表示窓に次のように表示されます。（お買い上げ時は、INTERLACE（インターレース）に設定されています）。

PROGRE AUTO（プログレッシブ　オート）
↓
PROGRE VIDEO（プログレッシブ　ビデオ）
↓
INTERLACE（インターレース）

■ PROGRE AUTO（プログレッシブ　オート）

この設定は、下記のいずれの条件も満たしている場合に選びます。

ーお使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している。

ー本機のD2映像出力端子またはHDMI出力端子につながれている。

本機が自動的に映像素材の種類を検出し、適切なプログレッシブ変換方法を選びます。上記の条件を満たしていない場合にこの設定を選ぶと、映像が乱れたり、映像が画面に出ない場合があります。

■ PROGRE VIDEO（プログレッシブ　ビデオ）

この設定は、下記のいずれの条件も満たしている場合に選びます。

ーお使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している。

ー本機のD2映像出力端子またはHDMI出力端子につながれている。

ープログレッシブ信号への変換方法を、ビデオ素材用に固定したいとき。

PROGRE AUTO（プログレッシブ　オート）に設定して画面が乱れた場合は、この設定にしてください。上記の条件を満たしていない場合は、この設定を選んでも映像が乱れたり、映像が画面に出ない場合があります。その場合は、次のINTERLACE（インターレース）を選んでください。

■ INTERLACE（インターレース）

この設定は、下記の場合に選びます。

ーお使いのテレビがプログレッシブ信号に対応していない。

ー本機の映像／S映像出力端子につながれている。

コントロールユニットの表示窓に「HDMI」が点灯中（インフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているとき）は「INTERLACE」を選ぶことはできません。

DVDの素材と表示方式について

DVDの映像素材には、ビデオ素材とフィルム素材の2種類があります。ビデオ素材は、1秒30フレーム、60フィールドでDVDに記録されたもので、一般的にテレビドラマやテレビアニメーションなどの番組があります。フィルム素材は、1秒24コマでDVDに記録されたもので、映画フィルムの多くがこれにあたります。DVDの中には、ビデオ素材とフィルム素材の両方が記録されているものがあります。

これらの映像をより自然な画質でお楽しみいただくには、映像素材に合わせた方法でプログレッシブ信号に変換する必要があります。

ご注意

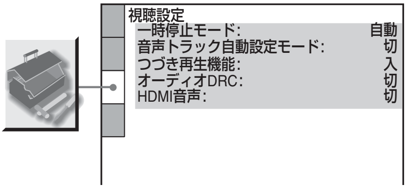
- ビデオ素材のDVDをプログレッシブ信号で再生するとき、D2映像出力端子またはHDMI出力端子より出力される映像の切り換わり部分が表示処理により不自然になる場合があります。また、プログレッシブ　オートまたはプログレッシブ　ビデオ設定にしていても、映像／S映像出力端子より出力される映像は、インターレース形式で出力されるため乱れません。

視聴に関する設定をする

（視聴設定）

再生などに関する設定ができます。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で[視聴設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（110ページ）をご覧ください。



■ 一時停止モード（DVDビデオ、DVD-RWのみ）

一時停止中の画像を選びます。

自動	大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られます。通常はこの設定にします。
フレーム	動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られます。

■ 音声トラック自動選定モード（DVDビデオのみ）

複数の音声記録方式が用意されているDVDビデオを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラック）を優先して再生できます。

切	優先しません。
入	優先します。

ご注意

- この設定を[入]にすると、言語が切り換わることがあります。これは[音声トラック自動選定モード]の設定が[言語設定]の「音声言語」（111ページ）より優先されるためです。
- PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックの順で優先されます。

■ つづき再生機能（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

つづき再生機能の入/切を切り換えます。

入	つづき再生するポイントを40枚まで記録します。
切	つづき再生を記録しません。現在本機で再生しているディスクのみ続き再生をします。

■ オーディオDRC*

サウンドトラックのダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を狭くします。夜遅く、小さな音量で映画を見たいときに便利です。

* Dynamic Range Compressionの略称です。

切	ダイナミックレンジの圧縮はありません。
スタンダード	ソフト制作者が意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
最大	ダイナミックレンジを最大限に圧縮します。

ご注意

- オーディオDRCはドルビーデジタルソースにのみ対応します。

■ HDMI音声

HDMI 出力端子から出力される音声信号のタイプを選びます。

切	HDMI 出力端子から音声は出力されません。
自動	テレビで受けられる最適な音声信号を出力します。
PCM	ドルビーデジタル、DTS、または96kHz/24bit PCM信号を48kHz/16 bit PCMに変換します。

ご注意

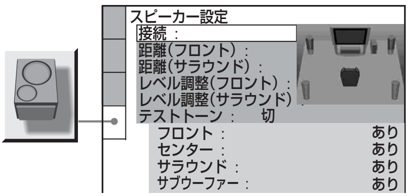
- ドルビーデジタルやDTSに対応していないテレビにつないで、[自動]が選ばれているときは、大音量が出ることがあります（または音が出ません）。その場合は[PCM]を選んでください。
- HDMIコードでテレビをつないだ場合、テレビへ出力する音声には、オーディオDRC、A/V SYNC、BASS/TREBLE、MOVIE/MUSICの各機能、またサウンドフィールドが機能しません。

スピーカーに関する設定をする

（スピーカー設定）

サラウンドを充分に楽しむために、スピーカーの接続やリスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、テストトーンを使って、各スピーカーのバランスを調節します。

設定画面で[スピーカー設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（110ページ）をご覧ください。お買い上げ時は下線の付いている項目または数値に設定されています。



設定を変更している途中で、お買い上げ時の設定に戻すには

項目を選んでクリアボタンを押す。
ただし[接続]の設定のみお買い上げ時の設定に戻りません。

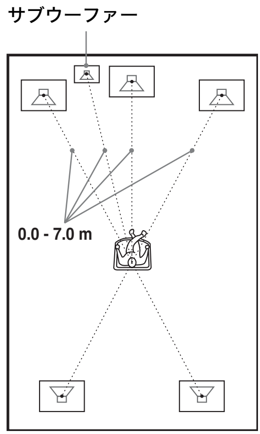
■ 接続

センタースピーカーやサラウンドスピーカーをつながない場合は、[センター]や[サラウンド]を設定し直します。フロントスピーカーとサブウーファーの設定は変えられません。

フロント	あり
センター	あり：通常はこの設定にします。 なし：センタースピーカーをつながない場合は[なし]にします。
サラウンド	あり：通常はこの設定にします。 なし：サラウンドスピーカーをつながない場合は[なし]にします。
サブウーファー	あり

■ 距離（フロント）

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。
クイック設定（38ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

L/R 3.0 m*	0m～7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
センター 3.0 m* ([接続]の[センター]を[あり]に設定したときのみ)	0m～7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
サブウーファー 3.0 m*	0m～7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。

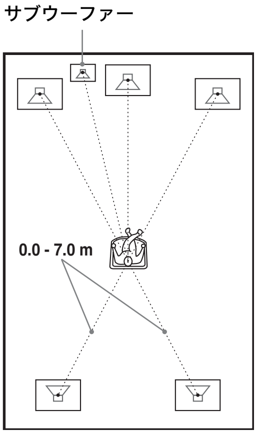
* クイック設定（38ページ）を行うと、お買い上げ時の設定値は変更されます。

次のページへつづく

■ 距離（サラウンド）

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。

クイック設定（38ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

L/R 3.0 m* （[接続]の[サラウンド]を[あり]に設定したときのみ）	0m～7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。

* クイック設定（38ページ）を行うと、お買い上げ時の設定値は変更されます。

ご注意

- 設定中に音が途切れることがあります。
- [距離]の設定は入力信号によって無効になることもあります。
- 設定した距離が推奨範囲を超えているときは、[⚠↑/⚠↓ XX m]が表示されます。⚠↑は、推奨範囲より大きいとき、⚠↓は小さいときに表示されます。

■ レベル調整（フロント）

フロントスピーカーのレベルは次のように調整できます。調整するときは[テストトーン]を[入]にしておきます。

L/R 0.0 dB	－15dB～+10dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。
CENTER 0.0 dB （[接続]の[センター]を[あり]に設定したときのみ）	－15dB～+10dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。
サブウーファー 0.0 dB	－15dB～+10dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。

■ レベル調整（サラウンド）

サラウンドスピーカーのレベルは次のように調整できます。調整するときは[テストトーン]を[入]にしておきます。

L/R 0.0 dB （[接続]の[サラウンド]を[あり]に設定したときのみ）	－15dB～+10dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。

すべてのスピーカーの音量を一度に変えるには

リモコンの音量＋/－ボタンまたはコントロールユニットのVOLUME＋/－ボタン（タッチボタン）で調整する。

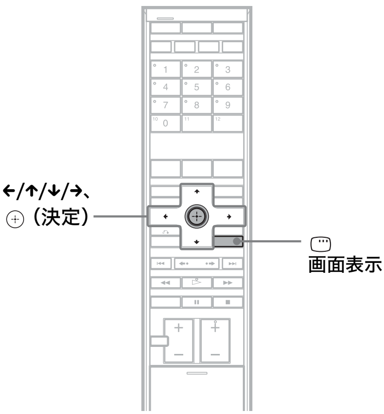
■ テストトーン

[レベル調整（フロント）]や[レベル調整（サラウンド）]を調節するために、テストトーンを聞くことができます。

切	テストトーンは出ません。
入	各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。[スピーカー設定]の項目を調整している間は、調整しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

テストトーンでスピーカーのバランスとレベルを調節する

音のバランスやレベルを合わせるために、テストトーンを使って実際に音を聞きながら調整することができます。
テストトーンの音量はリモコンの音量＋/−ボタンまたはコントロールユニットのVOLUME＋/−ボタン（タッチボタン）で調整することができます。



1 停止中に、画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ を繰り返し押して [設定]を選び、⊕（決定）を押す。

[設定]の項目が表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して[カスタム]を選び、⊕（決定）を押す。

設定画面が表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して[スピーカー設定]を選び、⊕（決定）または→を押す。

5 ↑/↓を繰り返し押して[テストトーン]を選び、⊕（決定）または→を押す。

6 ↑/↓を繰り返し押して[入]を選び、⊕（決定）を押す。

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

7 リスニングポジションで、すべてのスピーカーからテストトーンが同じレベルに聞こえるように、←/↑/↓/→を押して[レベル調整（フロント）]および[レベル調整（サラウンド）]の設定を調節する。

レベル調整している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

8 調節が終わったら、⊕（決定）を押す。

すべてのスピーカーについて行ってください。

9 すべてのスピーカーの調整が終わったら、↑/↓を繰り返し押して[テストトーン]を選び、⊕（決定）を押す。

10 ↑/↓を繰り返し押して[切]を選び、⊕（決定）を押す。

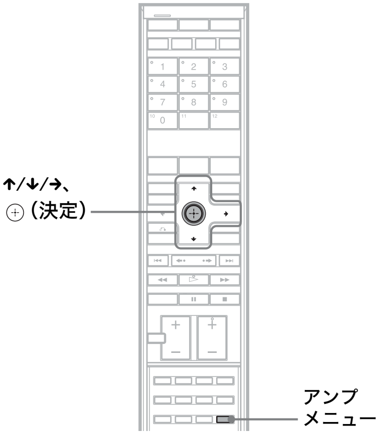
ご注意

- 設定中に音が途切れることがあります。
- テストトーンはHDMI端子からは出力されません。

次のページへつづく

サラウンドスピーカーL（左）を右側に置くには

電源コンセントの位置によって、サラウンドスピーカーL（左）の位置を変えることができます。



カバーを開けた状態

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓に「SL SR REVERSE」を表示させてから⊕（決定）または→を押す。**

3 **↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。**

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

<u>「OFF」</u>（オフ）
サラウンドスピーカーL（左）を左側に置く設定になります。

「ON」（オン）
サラウンドスピーカーL（左）を右側に置く設定になります。

4 **⊕（決定）を押す。**

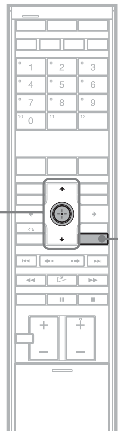
選んだ項目が設定されます。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニューを終了します。

設定項目をお買い上げ時の設定に戻す

設定画面での設定をお買い上げ時の設定に戻す



1 「設定画面を使う」（110ページ）の手順2で[リセット]を選び、⊕（決定）を押す。

2 ↑/↓ で[はい]を選ぶ。

ここで[いいえ]を選び、このリセットの作業をやめてコントロールメニュー画面に戻ることもできます。

3 ⊕（決定）を押す。

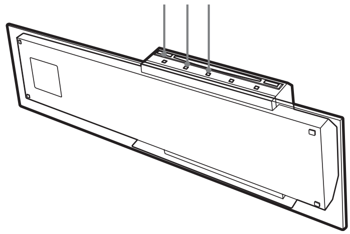
111～121ページで説明する設定がすべてお買い上げ時の設定に戻ります。リセットが完了するのに数秒かかります。リセットしている間はI/⏻ボタンを押さないでください。

ご注意

- リセットをしたあと、コントロールユニットにディスクが入っていない状態で電源を入れると、メッセージが画面に表示されます。⊕（決定）を押すと、クイック設定をする画面が表示されますので、画面にしたがってクイック設定を行います(38ページ)。クリアボタンを押すと通常の画面に戻ります。

サウンドフィールドやラジオなどの設定をお買い上げ時の設定に戻す

登録したラジオ局など、各設定項目をお買い上げ時の設定に戻すことができます。



1 I/⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。

2 コントロールユニットの■を押しながら、FUNCTIONボタン、I/⏻（電源）ボタンを同時に押す。

コントロールユニットの表示窓に「COLD RESET」が表示され、設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

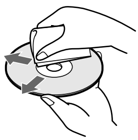
- 再生面に手を触れないように持ちます。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。（修理のため本機をお持ち込みになる場合は、原因解明のため発光ユニットなどの部品のみでなく、システム全体をお持ち込みください。）

電源

電源が入らない。

➔ 電源コードやシステムコントロールコードなどがしっかりつながれているか確認する。

コントロールユニットの⏻（スタンバイ）ランプが点滅する。

➔ I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、コントロールユニットの⏻（スタンバイ）ランプが点灯したら以下の項目を確認する。
  - スピーカーコードが正しく接続されているか？（19ページ）
  - 付属のスピーカーを使っているか？
  - サブウーファーの通気孔がふさがっていないか？

上記の項目を点検し、電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

サラウンドスピーカーL（左）のIR（赤外線）受信状態確認ランプが点灯しない。

➔ ACアダプターのPOWER（電源）ボタンが押されていない。

➔ ACアダプターのPOWER（電源）ボタンが押されている場合は、もう一度ボタンを押していったん電源を切り、スピーカーの接続を確認した後、もう一度電源を入れる。

映像

映像が出ない。

➔ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
➔ 映像コードが断線している。
➔ テレビの入力端子を間違えている（35、44ページ）。
➔ テレビの入力切り換えで本機の映像が映るように切り換えていない。
➔ プログレッシブ方式に対応していないテレビとつないでいるときに、プログレッシブ設定にすると画像が乱れる。その場合は、インターレース(お買い上げ時の設定)にする（114ページ）。
➔ HDMIでつなぐ場合、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応していない機器に本機をつないでいる（コントロールユニットの表示窓に「HDMI」が点灯していない）（45ページ）。（[HDMI］はインフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているときのみ点灯します。）
➔ HDMIでつなぐ場合、[画面設定]の[HDMI解像度]の設定を確認する（113ページ）。
➔ DVDファンクション時（ファンクションボタンで「DVD」を選んでいる状態）のみ、D2映像出力端子からは映像信号を出力し、HDMI出力端子からは映像/音声信号が出力される。
➔ HDMIでつなぐとき、テレビによってはHDMI入力を有効にしなければならない場合がある。テレビの設定を確認する。

映像が乱れる。

➔ ディスクに汚れや傷がある。
➔ プログレッシブ方式に対応しているテレビでも、プログレッシブに設定すると画像が乱れる場合がある。その場合は、インターレース(お買い上げ時の設定)にする（114ページ）。
➔ 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビにつないでいると、一部のDVDプログラムに使われているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接つなぐ（35、44ページ）。
➔ 本機が安定した場所に設置されているか確認する。

設定画面の[画面設定]の[TVタイプ]で設定した画像の形で再生できない。

➔ 画像の形が固定されているディスクを再生している。

テレビ画面に色むらが起きる。

➔ 本機のサブウーファーとフロントスピーカーは磁気モレを防ぐ防磁カバーを採用しているが強力なマグネットのため、若干の磁気モレが生じる。色むらが起きた場合は、以下の項目を確認する。
  - ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターと一緒に使う場合は充分に（約30cm）離す。
  - それでも色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れる。
  - ハウリングが生じたら、スピーカーをテレビより離して置く。
  - スピーカーの近くに磁気を発生するものがないように注意する。スピーカーとの相互作用により、色むらを起す場合がある。磁気を発生するもの：ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

音声

音が出ない。

➔ スピーカーコードと本機がしっかり差し込まれていない。（31ページ）
➔「Muting」と表示されている場合は、リモコンの消音ボタンを押す。
➔ 一時停止、スロー再生になっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。
➔ 早送り、早戻しになっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。
➔ スピーカーが正しくつながれているか確認する（29ページ）。
➔ つないだ他の機器の音声が出ないときは、その機器の音声出力の設定を確認する。

HDMI 出力端子から音が出ない。

➔ [視聴設定]の[HDMI音声]を[AUTO]または[PCM]に設定する（116ページ）。

次のページへつづく

→ 本機のHDMI 出力端子をDVI(Digital visual interface)デバイスを持った機器につなぐと、音声は出力されない。
→ 本機のHDMI 出力端子はスーパーオーディオCDの音声は出力しない。
→ 以下の方法を試す。
- 本機の電源を入れ直す。
- つないでいる機器の電源を入れ直す。
- HDMIコードをいったん抜いて差し直す。

→ 本機のHDMI 出力端子につないだ機器が、音声信号を認識していない。このときは、[視聴設定]の[HDMI音声]を[PCM]に設定する（116ページ）。

左右のスピーカーのバランスが悪い、または音声が逆になっている。

→ スピーカーやつないだそのほかの機器が正しくつながれているか確認する。
→ 自動音場補正を行う（107ページ）。

ハム音またはノイズがひどい。

→ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。
→ 接続コードをモーターなどの機械、テレビ、または蛍光灯などから離す。
→ テレビからオーディオ機器を離して設置する。
→ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。
→ ディスクに汚れ、傷がある。

ビデオCD、CD、データCD（MP3音声トラック）を再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。

→ 音声ボタンを押して、音声を[ステレオ]にする（76ページ）。
→ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。

サラウンド効果が得られない。

→ スピーカーの接続と配置を確認する（29、117ページ）。

センタースピーカーからしか音が出ない。

→ ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもある。

センタースピーカーから音が出ない。

→ スピーカーの接続と設定を確認する（29、117ページ）。
→ 選ばれているサウンドフィールドが2CHANNEL STEREOになっていないかを確認する（62ページ）。
→ ソースによってはソフトの音声効果上、センタースピーカーの音が小さく記録されているものがある。
→ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない。

→ スピーカーの接続と設定を確認する（29、117ページ）。
→ 選ばれているサウンドフィールドが2CHANNEL STEREOになっていないかを確認する（62ページ）。
→ ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンドスピーカーの音が小さく記録されているものがある。
→ ワイヤレスシステムを調整する（37ページ）。
→ プラズマテレビは赤外線に影響を与える場合がある。発光ユニットやサラウンドスピーカー L（左）または受光ユニットの位置を調整する。
→ サラウンドスピーカー L（左）の受光部または受光ユニットに直射日光などの強い光が当たる場所に設置されている。
→ 発光ユニットやサラウンドスピーカー L（左）の受光部または受光ユニットが汚れている。
→ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

サブウーファーから音が出ない。

→ スピーカーの接続と設定を確認する（29、117ページ）。

操作

放送局が受信できない。

➔ アンテナが正しくつながれているか確認する。
アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりする。

➔ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。

➔ プリセットチューニングしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（94ページ）。

➔ 受信している周波数を確認する。

リモコンで操作できない。

➔ リモコンとコントロールユニットとの間に障害物がある。

➔ リモコンとコントロールユニットとの距離が離れすぎている。

➔ コントロールユニットのリモコン受光部に向けて操作していない。

➔ リモコンの電池が消耗している。

サラウンドスピーカーL（左）のIR（赤外線）受信状態確認ランプが一瞬橙色に点灯する。

➔ 赤外線の送受信によって橙色に点灯することがあります。故障ではありません。

➔ 発光ユニットとサラウンドスピーカーL（左）または受光ユニットの間に障害物があるときや、スピーカーのレイアウト（スピーカーを視聴位置に向けたいときなど）によって、赤外線の送受信がうまくできない。発光ユニットやサラウンドスピーカーL（左）または受光ユニットの位置を調節する（37ページ）。

再生が始まらない。

➔ ディスクが入っていない。

➔ ディスクが裏返しに入っている。
再生面を手前にする。

➔ ディスクが斜めにずれて入っている。

➔ CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れている（10ページ）。

➔ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている。

➔ 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再び電源を入れ直してから再生を始める。

➔ ディスクが汚れている。

➔ ディスクに傷がついている。

➔ 規格から外れた一部ディスクは、本機では再生できない場合がある。
ある特定のディスクが再生できない場合は、裏表紙に書かれている「ソニーお客様ご相談センター」まで問い合わせる。

MP3音声トラックが再生できない。

➔ ISO9660 レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Joliet に準拠していないMP3 音声トラックが記録されている。

➔ データDVDにUDF (Universal Disk Format)に準拠していないMP3音声トラックが記録されている。

➔ 拡張子が「.MP3」になっていない。

➔ 拡張子は「.MP3」だが、MP3音声トラック以外のデータ形式になっている。

➔ 本機は MP3PROで記録された音声は再生できない。

➔ [音声映像選択モード]設定が[映像（JPEG)]に設定されている（89ページ）。

➔ [音声映像選択モード]設定を[音声（MP3）]に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

JPEG画像ファイルが再生できない。

➔ ISO9660レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Jolietに準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。

➔ データDVDにUDF (Universal Disk Format)に準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。

➔ 拡張子が「.JPG」または「.JPEG」になっていない。

➔ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。

➔ 横3,072×縦2,048ドット以上、または200万画素を超えるプログレッシブJPEG画像ファイル（主にインターネットのウェブサイトで使用）は表示できない。

➔ [音声映像選択モード]設定が[音声（MP3)]になっている（89ページ）。

次のページへつづく

→ [音声映像選択モード]設定を[映像（JPEG）]に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生が同時に始まる。

→ [音声映像選択モード]設定で[自動]が選ばれている（89ページ）。

JPEG画像ファイルのアルバム／ファイル名が正しく表示されない。

→ コントロールユニットの表示窓で表示できる文字はアルファベットと数字のみ。それ以外の文字は「＊」と表示される。

再生がディスクの最初から始まらない。

→ プログラムまたはシャッフル、リピート再生になっている。ディスクを再生する前にクリアボタンを押してこれらの機能を解除する。

→ リジューム再生になっている。停止中に、コントロールユニットまたはリモコンの■（停止）ボタンを押してから再生を始める（70ページ）。

→ 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。

→ 自動的に再生が始まるDVDを入れている。

再生が自動的に止まる。

→ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

ストップ、サーチ、スロー、リピート再生などの操作ができない。

→ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて確認する。

希望する言語で画面表示されない。

→ 設定画面の[言語設定]の[画面表示言語]で希望の言語を選ぶ（111ページ）。

音声言語を変更できない。

→ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。

→ 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。

→ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。

→ 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。

→ 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。

→ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない（82ページ）。

→ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

ディスクを取り出すことができず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

→ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

データCD/データDVDを再生中に、テレビ画面に[データエラー（AUDIO）]または[データエラー（IMAGE）]と表示される。

→ 再生しようとしているMP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルが壊れている。

→ データがMPEG1 Audio Layer 3でない。

→ JPEG画像ファイルがDCFフォーマットでない。

→ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。

本機が正常に作動しない。

→ 正常に作動しなくなったときは、サブウーファーとACアダプターの電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れる。

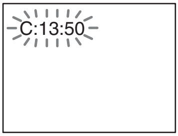
表示窓に「DEMO PLAY」と表示される。

→ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

自己診断機能

（コントロールユニットの表示窓に文字や数字が表れたとき）

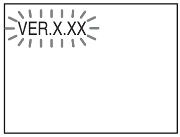
本機を故障から守るために、本機には自己診断機能がついています。コントロールユニットの表示窓またはテレビに、「C 13 50」のような5文字のサービスナンバーが現れたときは、以下の項目を確認してください。



サービスナンバーの最初の3文字	原因と対応
C13	ディスクが汚れている ➔ 柔らかい布でディスクを拭く（122ページ）。
C31	ディスクが正しく入っていない。 ➔ 本機の電源を切り、再び入れた後にディスクを正しく入れなおす。
E XX （XXは数字）	故障を防ぐために、自己診断機能が働いている。 ➔ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。そのときは、5つのサービスナンバーを知らせる。 例：E 61 10

テレビにバージョン番号が表示されたときは

本機の電源を入れたときに、テレビにバージョン番号[VER.X.XX]（Xは数字）が表示されることがあります。この表示はソニーサービスで使うものなので、故障ではありませんが、そのままでは通常の操作はできません。電源を入れなおしてから操作してください。



保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、DVDホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DAV-LF1H
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

総合出力

実用最大出力*

フロント部: 100 W + 100 W (4Ω、JEITA**)
センター部: 100 W (4Ω、JEITA**)
サラウンド部: 100 W（1チャンネルあたり）(3.5Ω、JEITA**)
サブウーファー部: 280 W (1.5Ω、JEITA**)
サウンドフィールドやソースによっては出力しない場合があります。

入力（アナログ）

TV、VIDEO 1、VIDEO 2（音声入力）
感度：450/250mV RMS
入力インピーダンス：50kΩ

入力（デジタル）

VIDEO 1、VIDEO 2（同軸）
インピーダンス：75Ω

スーパーオーディオCD／DVD部

レーザー	半導体レーザー（スーパーオーディオCD／DVD：λ＝645-660nm）（CD：λ＝770-800nm）放出持続時間：連続
信号方式	JEITA**標準*、NTSCカラー方式

チューナー部

回路方式	PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式

FMチューナー部

受信周波数	76.0－90.0MHz（100kHz間隔）
アンテナ	ワイヤーアンテナ 75Ω、不平衡型
中間周波数	FM：10.7MHz

AMチューナー部

受信周波数	531－1,602kHz（9kHz間隔）
アンテナ	ループアンテナ
中間周波数	450kHz

映像部

出力	映像：1Vp-p 75Ω S 映像：Y: 1Vp-p 75Ω、C: 0.286Vp-p, 75Ω D2 映像：Y: 1Vp-p、CB, CR: 0.7Vp-p 75Ω
入力	映像：1Vp-p 75Ω

スピーカー

フロント

方式	密閉型、防磁型（JEITA**）
形状	ウーファー：コーン型 70×120mm ツイーター：ドーム型 25mm
定格インピーダンス	4Ω
最大外形寸法	105×705×35mm（幅/高さ/奥行き） 302×1,300（最大）×302mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）
質量	約2.1kg 約5.9kg（スタンド含む）

サラウンド（右）

方式	密閉型、防磁型（JEITA**）
形状	ウーファー：コーン型 70×120mm ツイーター：ドーム型 25mm
定格インピーダンス	3.5Ω
最大外形寸法	105×705×35mm（幅/高さ/奥行き） 302×1,300（最大）×302mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）
質量	約2.0kg 約5.8kg（スタンド含む）

サラウンド（左）

方式	密閉型、防磁型（JEITA**）
形状	ウーファー：コーン型 70×120mm ツイーター：ドーム型 25mm
定格インピーダンス	3.5Ω
最大外形寸法	105×705×35mm（幅/高さ/奥行き） 302×1,300（最大）×302mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）
質量	約2.5kg 約6.3kg（スタンド含む）

次のページへつづく

センター

方式　密閉型、防磁型（JEITA**）

形状　ウーファー：
コーン型 70×120mm
ツイーター：ドーム型 25mm

定格インピーダンス
4Ω

最大外形寸法　545×105×35mm（幅/高さ/奥行き）
545×116×60mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）

質量　約1.9kg
約2.1kg（スタンド含む）

サブウーファー

方式　バスレフ型、防磁型（JEITA**）

形状　コーン型、150mm

定格インピーダンス
1.5Ω

最大外形寸法　188×573×318mm（幅/高さ/奥行き）

質量　約14.5kg

電源　AC 100V、50/60Hz

消費電力　130W
（スタンバイモードのとき：0.3W）

コントロールユニット

最大外形寸法　570×168×56mm（幅/高さ/奥行き）
570×188×99mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）

質量　約4.2kg
約4.7kg（スタンド含む）

ACアダプター

電源　AC 100V、50/60Hz

消費電力　45W

最大外形寸法　219×44×82mm（幅/高さ/奥行き）

質量　約0.7kg

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

** JEITA（電子情報技術産業協会）

同梱物

「同梱物を確認する」（15ページ）をご覧ください。

本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- はんだ付け部に無鉛はんだを使用
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- スピーカー外装にポリ塩化ビニルを不使用
- RoHS指令（欧州環境規制）に対応済み

用語解説

アルバム

MP3音声トラックやJPEG画像ファイルを記録しているデータCDの中の単位の1つです。

インターレース（飛び越し走査）

通常のテレビ放送のNTSC 方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現している。1枚画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。従来のテレビの表示方式。

視聴制限

国ごとの規制レベルに合わせて、視聴制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDビデオの機能。制限のしかたはDVDビデオによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

シーン

PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。

自動音場補正（D. C. A. C.）

ソニーが開発した自動音場補正（Digital Cinema Auto Calibration)は、スピーカーの距離やレベルを自動的に測定し、短時間で視聴環境のスピーカー設定を調整する。

タイトル

DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたる。

地域番号（リージョンコード）

著作権保護を目的に設けられた制度。販売地域によって、DVDプレーヤーやDVDディスクには地域番号が割り当てられていて、プレーヤー本体やディスクのパッケージに、それぞれの地域番号が表示されている。プレーヤーとディスクの地域番号が一致していると再生できる。ALL 表示のあるディスクは、どのプレーヤーでも再生できる。なお、地域番号の表示がないDVDでも、地域制限されている場合がある。

チャプター

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターが記録されていないディスクもある。

デジタル赤外線伝送
(Digital Infrared Audio Transmission)

昨今、DVDやBSデジタル放送等の高品質なメディアが急激に普及しつつあります。このような高品質なメディアによってもたらされた微妙なニュアンスを劣化することなく伝送するため、DAV-LF1Hではデジタルオーディオ信号を非圧縮で赤外線伝送する技術、「Digital Infrared Audio Transmission」を開発、導入しました。

この技術はIEC（国際電気標準会議）およびJEITA（電子情報技術産業協会）でHi-Fiオーディオ伝送用として割り当てられている副搬送波周波数帯域内で、デジタルオーディオ信号を非圧縮で伝送することが可能。

（図1）

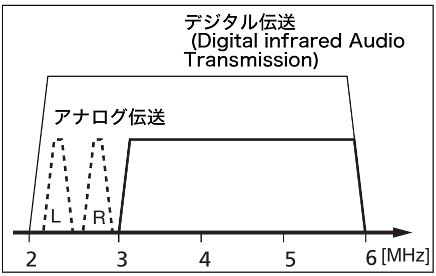


図1デジタル赤外線伝送の信号スペクトラム

その他

次のページへつづく

トラック

ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、ソース本来の音質を損なうことなく空間的広がりを引き出す高音質、高性能のマトリックスサラウンドデコーダです。マトリックス処理により、2チャンネルソースをフルレンジの5チャンネルサラウンドに広げて再生します。

■ ムービーモード

ムービーモードではフロントとサラウンドのセパレーションを高めるためにサラウンドチャンネルディレイが加えられており、安定した音場定位を得ることができます。通常のステレオソース、ドルビーサラウンドでエンコードされたソースの両方に適しています。

■ ミュージックモード

ミュージックモードでは、センター音像調整機能、前後バランス調整機能を使って包囲感のある音場設定が可能です。あらゆるステレオ音楽ソースに適しています。

ビデオCD

動画の記録されているCD。
ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」（エムペグ1）を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。
また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。
ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC（プレイバックコントロール）機能を持ったバージョン2.0がある。

ビデオ素材、フィルム素材

DVD の映像素材の種類。ビデオ素材はテレビドラマやテレビアニメーションなどのテレビ放送された番組（1秒30フレーム、60フィールド）をDVD に記録したもの。フィルム素材とは映画フィルム（1秒24コマ）をDVD に記録したもの。

ファイル

JPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つです。

プレイバックコントロール（PBC）

ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号。
PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面（選択画面）を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

プログレッシブ（順次走査）

通常のテレビ放送のNTSCインターレース方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現し、1枚の画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。これに対してプログレッシブ方式の場合は、走査線を飛び越すことなく、NTSCで言えば525本の走査線を使って、1秒間に60枚の画像を映し出す。細かな文字や横線などの多い場面などで高画質な映像を再現できる。

マルチアングル

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていること。

マルチランゲージ
DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

AAC
BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

D2映像信号
D端子付きデジタルテレビなどと1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できる。コンポーネント信号でつなぐため、より高画質な画像となる。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2、D3とD4端子がある。本機にはD2映像出力端子（525i(480i)、525p(480p)の信号に対応*）が付いており、D1、D2、D3およびD4端子付きデジタルテレビなどに対応している 。

* iはインターレースの略。pはプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

DTS
デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

DVD
CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。
片面1層で4.7GB（Gigaギガ Byteバイト）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2（エムペグ）」を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。
また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタル、DTSを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。

DVD-RW
DVD-RWとは、DVDビデオと同じサイズで、データの記録、書き換えが可能なディスク。
DVD-RWにはVRモードとビデオモードの2つのモードがある。ビデオモードで作られたDVD-RWはDVDビデオと同じフォーマットなのに対して、VRモードで作られたDVD-RWはプログラム、または編集が可能なディスクとなっている。

DVD+RW
DVD+RWとは、データの記録、書き換えが可能なディスクで、DVDビデオと同程度の記録方式を使っている。

HDMI
HDMIでは、1本のデジタルケーブルで、映像、音声の両方をつなぐことができる。
HDMI接続をすれば、高画質の映像と、マルチチャンネル音声の信号を、HDMIに対応したAV機器(テレビなど)にデジタルの信号を送ることができる。映像信号が現在のDVIに対応していれば、HDMI-DVI変換コードを使ってHDMI 出力端子とDVI端子をつなぐことが可能。HDMIはHDCP著作権保護機能に対応しており、デジタル画像信号コーディングテクノロジーを採用している。

言語コード一覧表

言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

Code	Language
1027	Afar
1028	Abkhazian
1032	Afrikaans
1039	Amharic
1044	Arabic
1045	Assamese
1051	Aymara
1052	Azerbaijani
1053	Bashkir
1057	Byelorussian
1059	Bulgarian
1060	Bihari
1061	Bislama
1066	Bengali; Bangla
1067	Tibetan
1070	Breton
1079	Catalan
1093	Corsican
1097	Czech
1103	Welsh
1105	Danish
1109	German
1130	Bhutani
1142	Greek
1144	English
1145	Esperanto
1149	Spanish
1150	Estonian
1151	Basque
1157	Persian
1165	Finnish
1166	Fiji
1171	Faroese
1174	French
1181	Frisian
1183	Irish
1186	Scots Gaelic
1194	Galician
1196	Guarani
1203	Gujarati
1209	Hausa
1217	Hindi
1226	Croatian
1229	Hungarian
1233	Armenian
1235	Interlingua
1239	Interlingue
1245	Inupiak
1248	Indonesian
1253	Icelandic
1254	Italian
1257	Hebrew
1261	Japanese
1269	Yiddish
1283	Javanese
1287	Georgian
1297	Kazakh
1298	Greenlandic
1299	Cambodian
1300	Kannada
1301	Korean
1305	Kashmiri
1307	Kurdish
1311	Kirghiz
1313	Latin
1326	Lingala
1327	Laothian
1332	Lithuanian
1334	Latvian; Lettish
1345	Malagasy
1347	Maori
1349	Macedonian
1350	Malayalam
1352	Mongolian
1353	Moldavian
1356	Marathi
1357	Malay
1358	Maltese
1363	Burmese
1365	Nauru
1369	Nepali
1376	Dutch
1379	Norwegian
1393	Occitan
1403	(Afan)Oromo
1408	Oriya
1417	Punjabi
1428	Polish
1435	Pashto; Pushto
1436	Portuguese
1463	Quechua
1481	Rhaeto-Romance
1482	Kirundi
1483	Romanian
1489	Russian
1491	Kinyarwanda
1495	Sanskrit
1498	Sindhi
1501	Sangho
1502	Serbo-Croatian
1503	Singhalese
1505	Slovak
1506	Slovenian
1507	Samoan
1508	Shona
1509	Somali
1511	Albanian
1512	Serbian
1513	Siswati
1514	Sesotho
1515	Sundanese
1516	Swedish
1517	Swahili
1521	Tamil
1525	Telugu
1527	Tajik
1528	Thai
1529	Tigrinya
1531	Turkmen
1532	Tagalog
1534	Setswana
1535	Tonga
1538	Turkish
1539	Tsonga
1540	Tatar
1543	Twi
1557	Ukrainian
1564	Urdu
1572	Uzbek
1581	Vietnamese
1587	Volapük
1613	Wolof
1632	Xhosa
1665	Yoruba
1684	Chinese
1697	Zulu
1703	無指定

視聴制限地域コード

地域コード

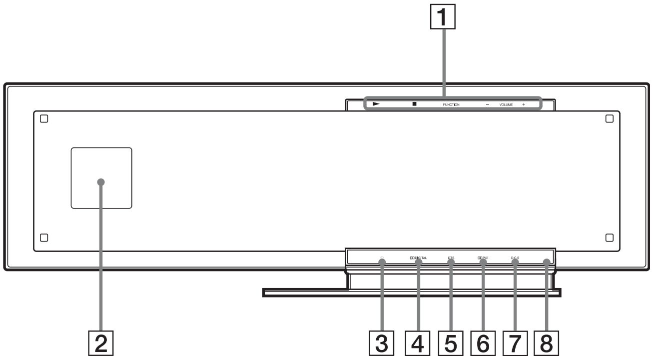
使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	マレーシア	2363
タイ	2528	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

各部のなまえ

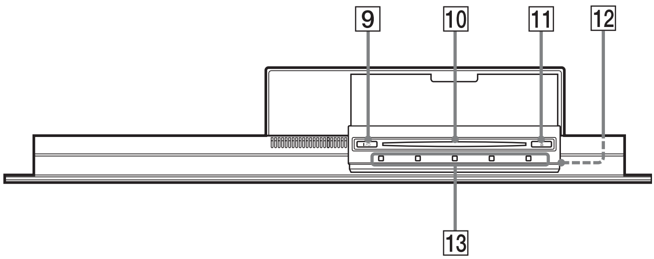
詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

コントロールユニット

前面



上面



1 ガイドランプ（50）

2 表示窓（137）

3 ⏻（スタンバイ）ランプ（50）

4 DOLBY DIGITALランプ

5 DTSランプ

6 DOLBY PRO LOGIC IIランプ

7 D.C.Sランプ

8 🅁リモコン受光部（16）

9 I/⏻（電源）ボタン（50）

10 ディスクスロット（50）

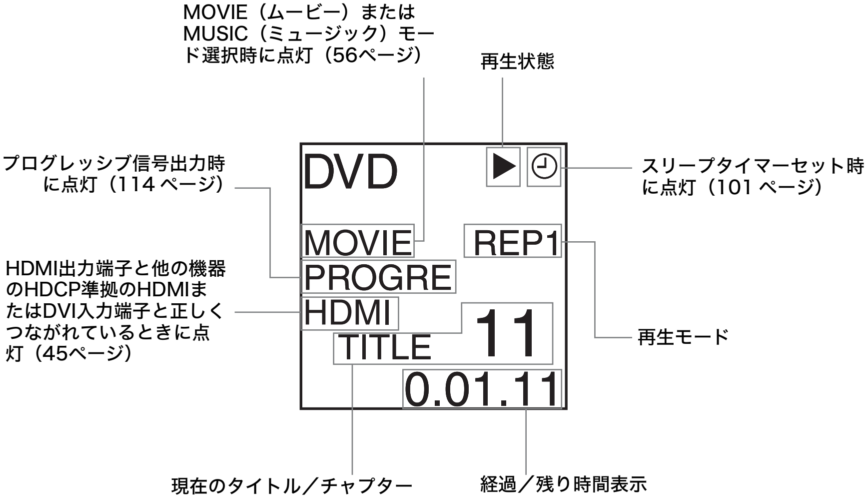
11 ⏏（イジェクト）ボタン／DISCランプ（50）

12 HDMI OUT端子（45）

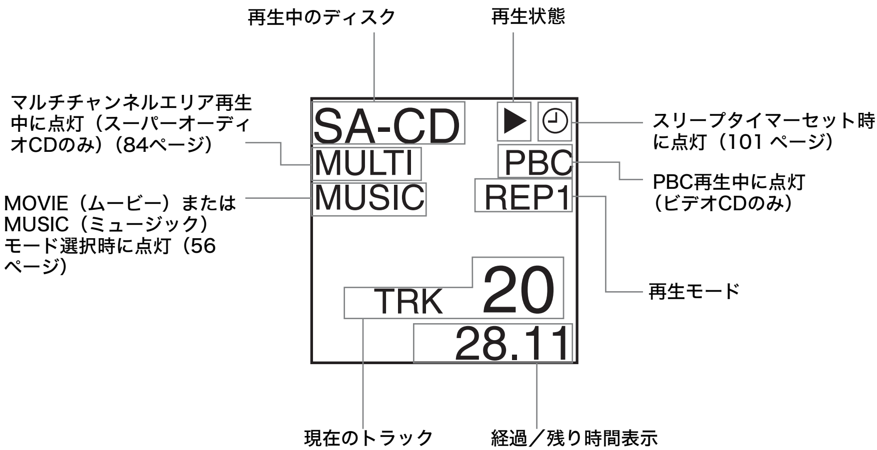
13 タッチボタン（► (再生)／■ (停止)／FUNCTION（ファンクション）／VOLUME－/＋（音量））（50）

コントロールユニットの表示窓（インフォメーションモード（57ページ）が「DETAIL」に設定されているとき）

DVD再生中



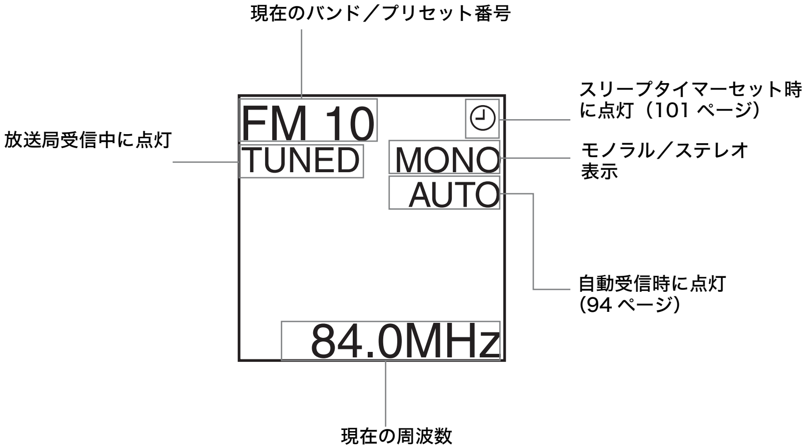
スーパーオーディオCD／CD／ビデオCD（PBC再生中はのぞく）／MP3再生中



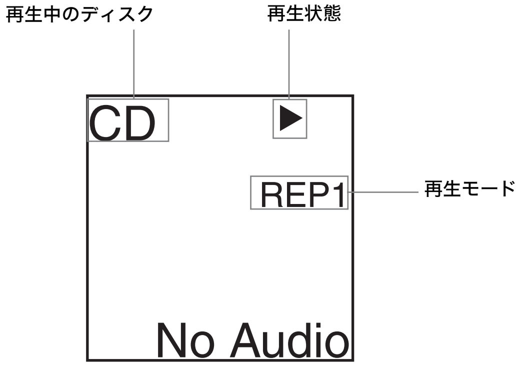
その他

次のページへつづく

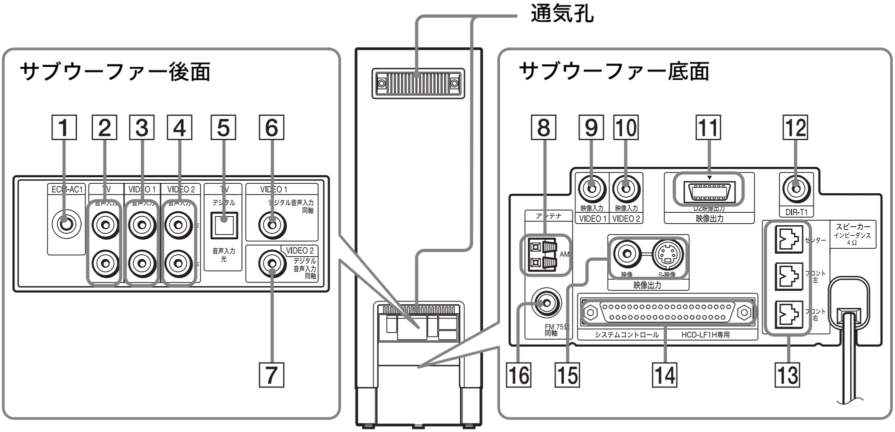
ラジオを聞くとき



JPEGファイル再生中



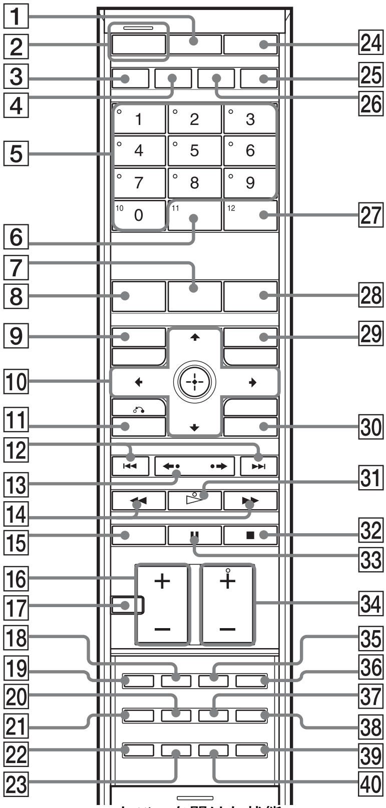
サブウーファー



1 ECM-AC1端子 (38、107)
2 TV（音声入力左／右）端子 (35)
3 VIDEO 1（音声入力左／右）端子 (48)
4 VIDEO 2（音声入力左／右）端子 (48)
5 TV（デジタル音声入力光）端子 (47)
6 VIDEO 1（デジタル音声入力同軸）端子 (49)
7 VIDEO 2（デジタル音声入力同軸）端子 (49)
8 AMアンテナ端子 (29)
9 VIDEO 1（映像入力）端子 (48)
10 VIDEO 2（映像入力）端子 (48)
11 D2映像出力端子(44)
12 DIR-T1端子(29)
13 スピーカー端子 (29)
14 システムコントロール端子（29）
15 映像出力（映像／S映像）端子 (29、44)
16 FM 75Ω 同軸端子 (29)

次のページへつづく

リモコン



カバーを開けた状態

1 テレビ電源 (98)

2 テレビボタン／テレビモードランプ (98)

3 スリープ (101)

4 本体表示 (79)

5 数字ボタン*2*3(67、92、94、98、103)

6 クリア*3 (67、96、98)

7 ムービー /ミュージック (56)

8 サウンドフィールド (62)

9 DVDトップメニュー (76)

10 ←/↑/↓/→、⊕（決定）(38、54、67、94、103)

11 ↶ リターン*3 (69、98)

12 ⏮/⏭ (50)
プリセット－/＋ (94)

13 ←•/•→ (50)
◀II/II▶ ステップ (67)

14 ◀◀/▶▶ (66)
◀I/I▶ (67)
選局 ＋/－ (94)

15 くり返し（74）

16 音量 ＋/－*3 (50、95、98、118)

17 消音 (50)

18 音声*2 (76)

19 ピクチャーナビ (69)

20 プログレッシブ (114)

21 DIMMER（ディマー）（102）

22 FMモード（95）

23 ダイレクト選局 (95)

24 電源 (38、50、70)

25 シアターシンク (98)

26 テレビ/ビデオ (98)

27 決定*1*3 (38、54、67、94、103)

28 BASS/TREBLE（バス/トレブル） (64)

29 DVDメニュー (76)
ツール*3 (98)

30 ▭ 画面表示 (40、59、67、103)
テレビメニュー *3 (98)

31 ▷ (再生)*2 (50、70)

32 ■ (停止) (50、70、103)

33 II (一時停止) (50)

34 ファンクション＋/－*2 (50、53、94)
チャンネル＋/－*3 (98)

35 字幕 (82)

36 アングル (82)

37 SA-CD（スーパーオーディオCD） /CD (84)

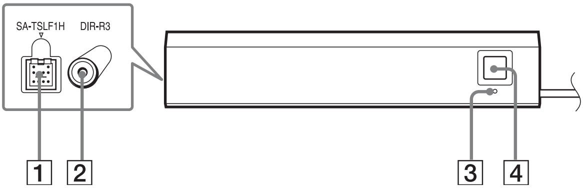
38 ナイトモード（65）

39 アンプメニュー (54、57、120、143)

40 チューナーメニュー (94)

*1 決定ボタン 27 は⊕（決定）10 と同じ機能です。
*2 数字ボタンの 5、▷、ファンクション＋ / －、音声ボタンには突起がついています。本機を操作するときの参考にしてください。
*3 これらのボタンはリモコンがテレビモードのときにテレビ操作用に使うことができます。テレビモードとは、テレビボタン 2 を押してテレビモードランプ 2 が点灯中の状態です。

ACアダプター



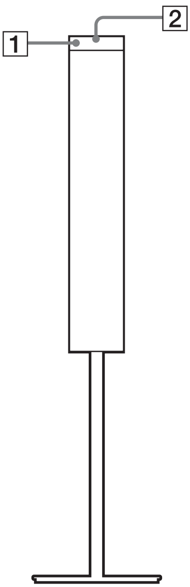
1 SA-TSLF1H端子 (31)

2 DIR-R3端子 (41)

3 POWER（電源）ランプ(37)

4 POWER（電源）ボタン(37)

サラウンドスピーカー L（左）



1 受光部(37)

2 IR（赤外線）受信状態確認ランプ(37)

設定画面項目一覧表

設定画面で以下の項目を設定することができます。
表示される画面の順番は、実際の画面と異なる場合があります。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

言語設定

- 画面表示言語
  - 日本語
  - ENGLISH
- メニュー言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 音声言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 字幕言語
  - 表示される言語の一覧から選びます

視聴設定

- 一時停止モード
  - 自動
  - フレーム
- 音声トラック自動選定モード
  - 切
  - 入
- つづき再生機能
  - 入
  - 切
- オーディオDRC
  - 切
  - スタンダード
  - 最大
- HDMI音声
  - 切
  - 自動
  - PCM

画面設定

- TVタイプ
  - 16:9
  - 4:3レターボックス
  - 4:3パンスキャン
- HDMI解像度
  - 自動
  - 1920 × 1080i
  - 1280 × 720p
  - 720 × 480p
- $YC_{B}C_{R}$/RGB (HDMI)
  - $YC_{B}C_{R}$
  - RGB
- スクリーンセーバー
  - 入
  - 切
- 背景画面
  - ジャケットピクチャー
  - グラフィックス
  - 青
  - 黒
- 4:3出力
  - フル
  - ノーマル

スピーカー設定

- 接続
  - フロント — あり
  - センター
    - あり
    - なし
  - サラウンド
    - あり
    - なし
  - サブウーファー — あり
- 距離(フロント)
  - L — 0.0 m - 7.0 m
  - R — 0.0 m - 7.0 m
  - センター — 0.0 m - 7.0 m
  - サブウーファー — 0.0 m - 7.0 m
- 距離(サラウンド)
  - L — 0.0 m - 7.0 m
  - R — 0.0 m - 7.0 m
- レベル調整(フロント)
  - L — -15.0 dB - +10.0 dB
  - R — -15.0 dB - +10.0 dB
  - センター — -15.0 dB - +10.0 dB
  - サブウーファー — -15.0 dB - +10.0 dB
- レベル調整(サラウンド)
  - L — -15.0 dB - +10.0 dB
  - R — -15.0 dB - +10.0 dB
- テストトーン
  - 切
  - 入

アンプメニュー項目一覧表

リモコンで以下のアンプメニュー項目を設定することができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

アンプメニュー

- ATTENUATE*
  - <u>ON</u>（オン）
  - OFF（オフ）
- SL SR REVERSE
  - <u>OFF</u>（オフ）
  - ON（オン）
- INFORMATON MODE
  - <u>DETAIL</u>（詳細表示）
  - STANDARD（標準表示）
  - SIMPLE（簡単表示）
- A/V SYNC
  - <u>OFF</u>（オフ）
  - SHORT（短）
  - LONG（長）

＊「ATTENUATE」はファンクションが「TV」、「VIDEO 1」、または「VIDEO 2」のときのみ設定することができます。

索引

ら行

A-Z、0-9